令和
5年度

ふくし

だんの　らしの　あわせ

応募作品

作文

令和5年度「ふくし」の作品募集にご応募いただいた皆さま、
ありがとうございました！惜しくも入選に至らなかった作品を
こちらに掲載いたします。ぜひご覧ください。

学校名	氏　名	ページ
西中学校	高橋　璃桜	3
船木中学校	篠原　美雪	3
船木中学校	藤田　凌平	4
船木中学校	安部　心結	5
船木中学校	藤田　蒼士	6
船木中学校	木村　陽菜	6
船木中学校	渡辺　小絢	7
船木中学校	近藤　青葉	8
船木中学校	近藤　若葉	9
船木中学校	田中　暁葉	9
中萩中学校	加藤　龍之祐	10
中萩中学校	五反田　慶	11
中萩中学校	松木　健悟	12
中萩中学校	眞鍋　颯琉	13
中萩中学校	守谷　理玖	13
中萩中学校	池口　椎菜	14
中萩中学校	前谷　涼葉	15
中萩中学校	安達　康人	15
中萩中学校	内田　湊太	16
中萩中学校	田中　玲生	17

学校名	氏　名	ページ
中萩中学校	永井　李空	18
中萩中学校	藤原　優沙都	18
中萩中学校	蘆谷　美友	19
中萩中学校	濱田　寧央	20
中萩中学校	尾藤　結菜	21
中萩中学校	矢野　志緒莉	21
中萩中学校	大滝　晃平	22
中萩中学校	大星　凛太郎	23
中萩中学校	古味　蒼一朗	24
中萩中学校	田邉　秀磨	24
中萩中学校	小野　杏莉	25
中萩中学校	河村　麗	26
中萩中学校	角川　希	26
中萩中学校	十河　幸穂	27
中萩中学校	則友　星南	28
中萩中学校	宮崎　桃花	29
中萩中学校	村上　心音	30
中萩中学校	鴻上　宋一郎	30
中萩中学校	島　貴大	31
中萩中学校	神野　蓮	32

学校名	氏　名	ページ
中萩中学校	上野　りつ	33
中萩中学校	大塚　杏	33
中萩中学校	瀬野　珀瑚	34
中萩中学校	田上　桜空	35
中萩中学校	二神　結菜	36
中萩中学校	山下　華暖	36
中萩中学校	若山　璃奈	37
中萩中学校	杉　凛叶	38
中萩中学校	伊藤　紗樹	38
中萩中学校	大野　栞	39
中萩中学校	髙橋　璃乃	40
中萩中学校	佃　美羽音	41
中萩中学校	秦　陽愛	42
中萩中学校	眞鍋　怜亜	42
中萩中学校	伊東　美羽	43
中萩中学校	藤原　瑠香	44
中萩中学校	河田　陽色	45
中萩中学校	海田　琉斗	45
中萩中学校	坂本　暢秋	46
中萩中学校	伊藤　妃奈	47
中萩中学校	一井　克斗	47
中萩中学校	伊藤　響生	48
中萩中学校	越智　理音	49
中萩中学校	金本　良祐	50
中萩中学校	髙橋　煌桜	50
中萩中学校	加藤　紅羽	51
中萩中学校	桑原　陽妃	52
中萩中学校	小山　夕莉	52
中萩中学校	近本　心咲	53
中萩中学校	西原　未莉愛	54
中萩中学校	藤田　恵衣	55
中萩中学校	三吉　愛梨	55
中萩中学校	大滝　陽平	56
中萩中学校	小野　杏虹	57
中萩中学校	佐伯　爽太	58
中萩中学校	中野内　優音	58
中萩中学校	村上　竣	59
中萩中学校	伊藤　希紗	60

学校名	氏　名	ページ
中萩中学校	河野　葵	61
中萩中学校	篠原　多輝	61
中萩中学校	瀬尾　日茉莉	62
中萩中学校	高田　青空	63
中萩中学校	谷口　千暖	63
中萩中学校	松木　彩夏	64
中萩中学校	柳澤　紗妃	65
中萩中学校	湯村　有幾莉	66
中萩中学校	内田　航平	67
中萩中学校	岡田　晃誠	68
中萩中学校	福田　海輝	68
中萩中学校	松本　拓真	69
中萩中学校	太田　葵	70
中萩中学校	奥宮　百音	71
中萩中学校	小野　かなみ	71
中萩中学校	片上　紗来	72
中萩中学校	工藤　莉央	73
中萩中学校	小山　結菜	74
中萩中学校	曽我部　弥絵	75
中萩中学校	田中　陽咲	75
中萩中学校	杉野　翔哉	76
中萩中学校	山内　悠生	77
中萩中学校	伊藤　捺未	78
中萩中学校	高橋　亜依有	78
中萩中学校	田上　陽南	79
中萩中学校	徳増　杏優	80
中萩中学校	藤田　留衣	81
中萩中学校	藤森　日菜	81
中萩中学校	山下　舞奈	82
大生院中学校	伊藤　楓華	83
大生院中学校	近藤　美咲	83
大生院中学校	瀧本　蛍	84
大生院中学校	野口　夏鈴	85
大生院中学校	藤田　美優	86
角野中学校	鈴木　一穂	86
角野中学校	吉岡　燦	87
角野中学校	吉田　小夏	88
角野中学校	渡邉　ねね	88

「高齢者体験から学んだこと」

西中学校　３年　　高橋　璃桜

３年生になると福祉、人権、環境の中から１つ選択する授業があります。私は手話に興味があったので福祉を選びました。

授業では福祉から連想する言葉をみんなで出し合ったり少しだけ手話もしたりしました。他に高齢者体験がありました。まずゴーグルをつけます。視野が狭くなり目の中心しか見えず黄みがかかっていてその上なんとなく白くぼやけて視界が悪くなるように黄色、白、黒のシートが入っています。自分の周りを見た後、オレンジ色の紙に黄色と黒色で書かれた文字を見比べると黒色の文字ははっきり見えましたが黄色で書かれた文字はかなり見えづらかったです。次にイヤーマフをつけました。耳をふさがれると周りの音が遠くで聞こえるような気がしてすぐ近くの声も聞き取りづらかったです。次にすべり止めがついていない軍手をつけました。指先がすべって新聞がめくりづらく、おはしを持って小さなビーズをつかんで違う容器に移し替えようとしましたが力が入らずなかなか上手にできませんでした。この状態で黒くて丸いチャックがついた小銭入れに入った小銭を出します。あらかじめ決められた金額が小さな紙に小さな数字で書かれていました。チャックが開けにくく小さな紙を小銭入れから取り出すのも大変で黒いため中身と紙に書かれた金額が見づらく小銭をぴったり出すのは苦労したので結局小銭を全部出してしまいました。

高齢者体験を通して視界が鮮明ではないことや視野が狭くなること、周りの声が聞こえにくくなること、手先が動かしにくくなることによって不安や疎外感、不便さを実感しました。いつもは簡単にできることがこんなに難しく感じたのは初めてです。今回は座った状態での体験でしたが席を立ったり教室から出たり学校を出て道路やお店に行ったとしていたらもっと怖くて動けなかったかもしれません。

私の祖父母は今はまだ元気にお仕事に行ったりお話ししたりしています。でも最近疲れやすくなったりなかなか疲れがとれないということを聞くようになりました。できること、やりづらいことの個人差はあると思いますが歳を重ねて高齢者になるのはみんな同じです。困っている人がいたら寄り添って話を聞いたり、自分が話す時は目を見てはきはき大きな声でゆっくり話したりして時間がかかっても待ちます。相手の立場に立って経験したことでわかったことがたくさんありました。２学期には車いすバスケットボールをします。テレビで見たことはあるけれどやったことはないので挑戦し、また改めて何かに気づけたらいいなと思っています。高齢者体験を１人でも多くの人に体験してもらい一人ひとりが思いやりや助け合いの心を持ってみんなが安心して暮らせるまちづくりが大切です。

「身の周りの福祉」

船木中学校　１年　　篠原　美雪

福祉と聞いて、最初、何のことかよく分かりませんでした。そして、母に福祉のことについて尋ねてみると「みんなが幸せに暮らすための取り組みだよ。」と教えてくれ

ました。そこで、どんなことが福祉なのか、詳しく調べることにしました。

まず最初に気になったのは、「補助犬」です。補助犬には、盲導犬、聴導犬、介助犬という三つの種類に分けられていることを知りました。盲導犬は、目の不自由な方の目となる役割を、聴導犬は、耳の不自由な方の耳となる役割を、介助犬は、手足の不自由な方の手足となる役割をしているそうです。よく公共施設で「ほじょ犬マーク」というマークを見かけたことがあるので、補助犬のことは知っていました。それと、何年か前にも、「介助犬フェスタ」というイベントにも行ったことがあります。でも、ずいぶん昔のことだったので、あまり覚えていませんでした。しかし、現役で活躍している介助犬を見たことは、今でも鮮明に覚えています。すごく優しそうな目をしていて、とてもかしこい犬でした。まるで会話をしているように感じ、これが介助犬なんだと思った記憶があります。障がいのある方と一心同体のように日々仕事する補助犬たちは、本当に素晴らしいなと思います。

そして次に気になったのは、「バリアフリー」です。例として、エレベーターや点字ブロック、音響式信号や多目的トイレなどです。どれも見たことのある、身近なものばかりでした。つい最近、エレベーターに乗ろうとすると、母が「車いすの方が待つことにならないように、私たちは階段を使おうね。」と言い、私は階段を利用したということを思い出しました。バリアフリーのことを知って、今日からは、自分視点で公共施設を利用するのではなく、様々なバリアフリーが必要な方たちの視点で生活していこうと思います。

福祉は、だれもが幸せに暮らすためのものだということを考えて生活していき、何より今回のように社会に目を向けて、より暮らしやすい世の中をつくっていきたいです。そのために、どんな問題があるのかや、その問題に対して、どのような工夫、取り組みがされているのか、今後も調べていきたいです。

「祖父が帰ってくる」

船木中学校　１年　　藤田　凌平

祖父は今、入院しているがもうすぐ退院して祖父の家に帰ってくる。その前に一時帰宅して、祖父が家で快適に暮らしていくための話し合いがあるというので、父や母と一緒にぼくも参加させてもらった。話し合いには、ぼくたちの他に、看護師、ケアマネジャー、理学療法士、福祉用具の会社の人が来ていた。ケアマネジャーは、介護を必要とする人がサービスを利用できるようにサポートしてくれる人で、理学療法士はリハビリの先生ということを初めて知った。祖父は久しぶりに家に帰ることができて、とてもうれしそうにニコニコしていた。話し合いはぼくにとって初めて聞く言葉ばかりでよくわからなかったが、家での生活のこと、食事のこと、ベッドやトイレのことなどをみんなで話し合った。どの内容も、祖父が快適に生活するには何が必要かということが中心だったと思う。退院して家に帰る前に、みんなで話し合いをして祖父のことを考えてくれていることがとてもうれしかったし、ありがたいなと思った。

ベッドや手すりやスロープの話をしていた時、テーブルに置いてあった福祉用具のカタログを見てみると、どれも値段が高くてびっくりした。どれもこれもこんなに高

いとお金がかかって大変だと思っていると、買わなくてもレンタルできて、しかも値段も１割ほどで良いと聞いてまたびっくりした。電動ベッドでも毎月１，０００円で借りることができるのだ。家に帰ってからいろいろ調べてみると、介護保険というものがあって、介護が必要な人にその費用を給付してくれて、自己負担が必要だが原則１割ということだった。１割なら安心していろいろなサービスを受けることができると思った。介護のことも少し興味がわいてきたので自分で調べてみようと思った。介護にかかわる仕事もどんなものがあるかもっと調べてみたい。

祖父が退院する日もあと少しになった。退院したら、祖父とたくさん話しに行こうと思う。これからもニコニコで長生きしてほしい。みんなで話し合って決めた新しい祖父の部屋も気に入ってくれたらうれしいと思う。

「職場体験学習で学んだこと」

船木中学校　２年　　安部　心結

私は医療関係の仕事に興味があり、職場体験学習で病院と老人ホームに行きました。老人ホームでは、最初は少し不安な気持ちがありました。でも、皆さんが明るく、優しく接してくださったので不安な気持ちはなくなっていました。

利用者さんとしたレクリエーションは楽しく初めて会ったと感じないくらいでした。菖蒲園に行ったときは車椅子を押させていただきました。歩くときは気にならない数ミリメートルの段差が車椅子では大きな障害になることを知りました。

職場体験に行く前に介護とはどんなことか、どんな人が向いているかについて調べているとき、力がいる、体力がいると書いていました。でも、実際はできる限り自分の力で立てるようなリフトがあって、力は少ししかいらないそうです。私はそのリフトを体験してみました。電動なので前にあるグリップを握っているだけで腰に付けてあるスリングが上がり、楽に立つことができました。椅子に戻る時は少し怖かったです。戻るときの声かけが大切なことが分かりました。

昔と比べて、介護士の負担が減っていることが分かりました。時代が進むにつれ減ってきているとすると数年後、数十年後にはほとんど負担がないことになるのかなと考えます。

お年寄りが増える一方、介護職員が足りていないそうです。介護士は「やりがいのある仕事」だと教えていただきました。

私は、明るく根気強くするということが苦手なので、私にとってこの仕事はとても難しいと思いますが、自分が将来、年を取ると介護してもらう側になるときがくると思うので、良い生活が送れるように、介護士の道も考えていきたいと思いました。

これからより良い世の中にするために、なりたい職業に就くために、勉強を頑張っていきたいです。自分の幸せだけではなく、大勢の人の幸せも守れる人になっていきたいです。まずは、自分の住む地域や自分の身の周りをよく見て、自分にできることから始めて、だんだんと幸せの輪を広げていけたらいいと思います。

「ふくしに支えられて」

船木中学校　２年　　藤田　蒼士

僕は、補装具の助成を受けています。うまれてすぐに難聴が分かったので、１歳の時には人工内耳の手術をして、今は日常生活で困らないぐらいコミュニケーションができるようになりました。手術してまもない頃は、電池代などにたくさんお金がかかっていたそうです。少ししてから、人工内耳や補聴器の電池代、修理代、新規購入代の助成が受けられることになりました。大変ありがたいことです。小さい頃は、よく故障して、何度もリハビリセンターに通ったり、耳型のイヤモールドは成長していくと耳の形が変わるので、ハウリングして１年に何回も耳型を作り直したりしていたので大変でした。今では、そんなに作り変えることは減りましたが、助成があるということはありがたいです。

それから、新居浜には福祉施設が多いと思いました。僕も保育園に入る前は、いろいろな施設で遊ばせてもらいました。福祉施設には、たくさんのおもちゃがあって、誰でもいつでも遊べる場所でした。母から聞きましたが、できるだけいろいろなところで遊ばせて、いろんな音を聞かせて、いろんな子供達と接することを心がけていたそうです。そこで出来た友達に難聴のことを知ってもらったり、普段も遊ぶような友達がたくさん出来たりして、本当によかったです。障がいがあっても気軽に遊べるところが、たくさんあってありがたかったです。

まだまだたくさん福祉に助けられています。高速代を、手帳で割引きしてもらったり、タクシー代も安くしてもらったりしているそうです。僕は、映画も手帳割引きで見ることかできています。何年も前から児童手当が始まり、僕には妹が２人いるので、親が大変助かると言っています。住みやすいように市や国が考えてくれています。

最後に、僕に出来ることは当たり前ではなくて、僕たちのことを考えてくれていることに感謝して、生きていきたいです。そして、税金が上がって苦しくなるけれど、税を納めることの大切さも感じました。

「色々なことを学んだボランティア」

船木中学校　２年　　木村　陽菜

私は、１年前に地域のボランティアに参加しました。１年生から３年生まで沢山の人達が来ていて　主催者の方々もとても嬉しそうでした。私は落ち葉をほうきで掃除しました。少し汗をかきながらも精一杯頑張り、思ったよりも早く終わったので違う場所に行き、クラスの友達や、他学年の人達と協力して地域をきれいにすることができて良か

たと思います。また、私が中学校に入って初めてのボランティアでもあったので新しい第一歩というような感じで、良い幕開けができたと思います。さらに、このボランティアでは、地域の人や、先生方とのつながり、クラスメイトや他学年との絆も深まったのではないかなと思います。

この経験からボランティアが大好きになった私は今回だけでなく、色々なボランティアに参加するようになりました。特に心に残っているのが神社のしめ縄作りのボランティアに参加したことです。その日は雪が降っていて、凍るような寒さでしたが一生懸命しめ縄を作ったことを覚えています。しめ縄が出来上がった時の達成感は半端ではなくて、本当に嬉しかったです。休けい時間には、地域の方が温かいお茶やお菓子を生徒一人ひとりに配ってくださり、人々の温かさや人とのつながりはどれだけ大切なものなのかも改めて感じることができました。周りの皆も、ホッとしたような顔をしていてとても心地の良い現場を体験することができました。

このように、私はボランティアという体験を通して、地域の方々やクラスメイトと協力する楽しさ、そして人々の温かさ、人とのつながりの大切さなどいろいろなことを学ばせて頂きました。 これからも、この経験を生かして、生活していきたいですし、また、ボランティアをする機会があれば、ぜひとも参加させて頂きたいと思います。そして、このような体験をさせて下さった地域の方々には、本当に感謝の気持ちで一杯です。

「支え合う福祉」

船木中学校　２年　　渡辺　小絢

私の両親は福祉に関わる仕事に携わっています。父は知的障がいを持った方が通われている施設で支援員として働いています。幼い頃に何度か父の職場にイベントなどで遊びに行く機会があり、知的障がいを持つ方とも話をしましたが、世間の皆さんが感じている程、健常者と呼ばれる私達との違いを感じることはありませんし、楽しい時には満面の笑みで喜び、辛い時には周りの目も気にせず泣く姿を見て率直に「素直にありのままの自分を表現していてすごいな」と感じた事を覚えています。父に「知的障がいの人ってどんな人なの？」と聞いてみましたが、「私と父が顔や考えが違うように、彼らもいろんなすごい面があって彼ら一人ひとりに個性がある。」と教えてもらいました。父の話を聞いた後、知的障がいを調べてみましたが、生まれつき発症するもののほか、遺伝や病気などが関係し何らかの日常生活に支障が生じる事があるとされていました。

母は高齢者施設で介護福祉士として主に食事介助、排泄介助、入浴介助を中心に高齢者の人の生活を支える仕事をしていると教えてもらいました。夜勤明けなどで帰宅してからも自宅の家事をしてくれている母にはいつも感謝しています。

当たり前のように福祉に従事している両親ですが、二人の話を聞くまではイメージとして「福祉とは？」体が不自由な人の手助けをしたり、高齢者の方のお世話をするといった漠然とした考えしか持っていませんでした。いろいろ調べてみると、高齢者福祉では介護職員やケアマネジャー、社会福祉士や看護士、理学療法士など様々な専門職の方々が利用者さんを支えているということに驚きました。障がい者福祉の方でも生活支援員や就労指導員、サービス管理責任者などの職種があるようですが、恥ずかしい事に職種を聞いてもどんな仕事が全くわかりませんでした。

「福祉とは？」で調べると、「幸福」や「幸せ」という意味が出てきます。そして、

もう一つの意味として、「公的扶助やサービスによる生活の安定、充足」　という言葉が出てきました。福祉、調べるだけでも、私の知らない言葉や情報を多く知ることができました。福祉の言葉の意味である「幸福、幸せ」は沢山の専門職の人や周りの支えがあって成立するものだとも感じました。

私の将来はまだ見えないものですが、自分の意志をしっかり持ち、今支えて頂いている家族や友人、先生方、周囲の人達に感謝をしながら、前に進もうと思います。そして、私自身が他の誰かを幸せに導いていけるスキルを身につけていこうと思いました。

「調べてみて知れたこと」

船木中学校　３年　　近藤　青葉

私は、福祉と聞くと高齢者介護や障がいをもっている方へのサポートだと思っていました。だけど、福祉は困っている人を幸せにすることだと知りました。今の日本は何も知らないのに偏見や差別などをする人がいます。自分もその中にいると考えればとても怖いです。これからはしっかり障がいの多様性を理解し、個人に合った対応をすることが大切ということを知りました。

私は、最近新しく知ることが多いです。一つ目は自閉症についてです。自閉症の方は、痛みや光、におい、音などに無関心、または過度に反応するということを知りました。二つ目はヘルプマークについてです。ヘルプマークは、義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病の方、妊娠初期の方、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせるものということを知りました。ヘルプマークを身に付けている人を見かけたら「何か手伝えることはありますか？」と声をかければいいということも知りました。三つ目は電車の優先席付近ではスマホの電源を切るということです。都会では当たり前のように電車内でスマホを触っていました。でも最近は混雑時には切ってくださいというステッカーがはられているそうです。自分は世の中の人が一番知っておかないといけないと思う四つ目は、障がいの種類は様々で外見で分かるものだけではないこと、症状も人によって違うということ、障がいがある人ではなく一人の人間ということを考えるなどを知りました。調べていくうえで思ったことは、障がいを持っている方は私のような健常者と違うところが一つあります。言い換えると、一つしかないということです。それは、「今ある自分の能力で社会生活に支障があるか、ないか」ということです。私には苦手なことがあるけれど障がいのある方の誰かが当たり前にできるということはたくさんあるということです。障がいをもっている、持っていないに関係なく、一人ひとりが生きていければ偏見や差別もない世界になるのかなと思います。今の私にできることは、中３という義務教育最後の年にできる限りいろんな考え方を学び、いろんな物や、人に触れ合い進学しても社会に出ても恥じないような常識と人を思いやる気持ちをのばしていくことだと思っています。これから先、障がいを持っている方と接する機会があるかもしれないけど少しだけ思いやる気持ちを持ち障がい者だからではなく、対等に接したいと思います。

「いつの間にか差別してない？」

船木中学校　３年　　近藤　若葉

みなさん、いつの間にか差別していることはありませんか。無意識で差別をしてしまっていることがあるかもしれません。私は絶対差別なんかしていないと思っていてもしてしまっていました。差別といっても何種類もあります。女性・子ども・高齢者・障がい者・感染者・服役を終えた人・アイヌ民族・外国人などの人権問題です。なぜ、私が差別・人権問題についての作文を書くのかというと、私は将来福祉関係の仕事に就きたいと思っていて、そのためには、「福祉」という言葉の意味を正しく知っておこうと思い調べたときに、生活を支援する公的な援助という意味で使われることが多いと知りました。その中で誰もがじぶんらしく、より良い暮らしを送れるようにという思いがあるのを知り、人権は福祉と似ているのではないかと思い、調べていくと人権問題につながりました。

「人権」とは、人が幸せになることをさまたげられないように保障される権利のことですが、私が上げた人権問題は、すべて人権が保障されていません。その中で私は服役を終えた人のことを差別してしまっていました。私は、服役を終えた人でもまた罪を犯すのではないかと決めつけてしまっていました。今考えると、刑務所でしっかり反省している人もいるのにと思っています。自分の偏見だけで判断するのはダメだなと思いました。私の決めつけだけで犯罪加害者家族も偏見の目で見られると調べて知り、悪いことをしてない人までも差別されるのはおかしいと思ったけど、私は差別している人と一緒のことをしてしまっていたと思うと、最低だし、申し訳ないと強く思いました。今は考え方が変わり差別をしていません。

私が差別してしまっているなと思ったきっかけがふくしの作文を書くために正しい知識を知っておこうと思ったことです。なので、この課題がなければ、私の考え方が変わらず、関係のない人までもが人権を侵害される可能性があったと思うと、この課題を出してくださりありがとうございました。

私は差別に対する考え方を変えられたので、誰かにこの作文を読んでもらい、差別に対する考え方が変わっていき、この世から差別がなくなることを願っています。

将来、福祉の仕事に絶対就き、差別に対する考え方を子供たちに教えていき、福祉の仕事は人権を大切にするものという言葉を自分自身が意識して、二度と同じことが起きないようにします。

「福祉について」

船木中学校　３年　　田中　暁葉

福祉、この言葉の中には、幸せという意味が含まれていると考える人々はどのくらい居るのだろうか。支えるということが「生きる」という行為の中でどれほど難しいのか私は理解しようとしていませんでした。今の社会のあり方を考えさせてくれるものがこんなにも身近にあるものなんだとも思っていませんでした。

福祉の中の一つ、介護について考えることが多くなりました。なぜなら、母が介護

士だからです。家で、会社の話を聞かせてもらったり、実際におばあちゃんおじいちゃんと関わってみたりして介護というものに触れているからです。自分が体験して感じたことは、誰もが幸せそうに施設の中で暮らしていることです。見ているこっちも心が温かくなって自分の目に入ってくる情報はその笑顔でいっぱいでした。この仕事は命を預かる仕事で、とても素晴らしいものなのだと思います。一人の人生を支える、力になるのはそう簡単なことではないですし、命を預かっていると考えたら怖くなる自分がいます。でも私の母をとおして見ると一人ひとりと真剣に向き合って、日々の生活を支え、よりどころとなるように努力している人がとてもかっこよく私の目に映ります。肉体労働だし、給料は高いわけでもないし、人は少ないし。だからこそ、この仕事がとても輝かしく、支えるということなのだと理解できました。母が言うには、「残念ながら命を落としてしまった方が今日居た。でもその人は毎日笑顔でいつもありがとうといってくれていた。悲しいこともあるけどそれが全てじゃないからね。」と。自分ができる最大限のことをしたのだと、胸を張っていっていました。その時私は、少していこうのあった介護を好きになれた気がしました。

私達は歳をとっていずれ自分だけの力では生きることも、何か行動することすら不可能になってしまう。その時は周りの人に、今まで関わりすらも、面識すらもなかった人にお世話になるのだろうと思います。そのお世話は、ただ生きるような支えだけでなく、楽しく幸せに笑顔で人生を送れるような支えになってくれるんだと思っています。福祉とは誰もが平等であり、幸せになれる温かいものだと考えられるような人が増えてほしいです。そして、私達が今できる「支え」になって日々の生活をいろどってあげたいです。はっきりいうと今の社会、高齢者の方や、障がいを背負っている方は生きづらいと思います。周りの人々が絶対支えになってくれる、助けてくれるという保障はないですし、かと言って自分から助けてほしいというのは難しいから私達がそのような環境を作って安心した世の中で社会の中で、過ごしてもらえるように身近でできることをさがして考えていきたいです。

私が思うことは一つです。生きている人々が、福祉の意味を考えて、生きるという難しい行為の手助けをして生きやすいようにしてあげてほしいです。学校でならうことだけで誰かが救われる、まだ無力の子どもたちでもできることが沢山あると思います。小さな行動でも少しでも今の環境がかわっていくのなら頑張りたいです。簡単なことではないし、大きくかわることもないかもしれないけど、支えになれるだけで十分だと思います。だから、日常の中での行動を考えながら生きていきたいです。かわりばえのしない生活の中で支える、助けになることを忘れることなくこれからも生きていきたいです。

「福祉について」

中萩中学校　１年　　加藤　龍之祐

僕は、今回の作文で福祉について書くにつれて、まず福祉について色々と調べてみました。

福祉とは、しあわせ、幸福、特に、公的扶助による生活の安定や充足、また、人々

の幸福で安定し生活を公的に達成しようとすることです。
　僕はなぜ福祉ってあるのかなと思いました。「ふくし」の仕事は、人が快適に生きられるように社会的な支援をすることです。すべての人びとの「いのち」を大切にして、「くらし」を豊かにして、「いきがい」を見つけることを支えるのです。「ふくし」と関係の深い言葉に「人権」があります。
　福祉の仕事に大切なことは何かと思いました。福祉の仕事をするうえで大切なこと、不安や悩みを抱える利用者さんの気持ちに寄り添うことです。また、利用者さんへの気配りやコミュニケーション能力も福祉の仕事に欠かせないスキルといえます。
　福祉はいつから始まったのかというと社会福祉事業のルーツは聖徳太子が開いた悲田院にまでさかのぼると言われており、各時代に生活に困っている人びとを救済する取り組みは脈々と営まれてきました。
　福祉が生まれた理由は当時は戦争の被災者や負傷者などの生活困窮者を支援することが目的でした。時代の変化に伴い、旧生活保護法、児童福祉法、身体障害者福祉法、老人福祉法制定など様々な法が制定され、生活支援が受けられる対象者も増えていきました。
日本の福祉にはおもに「保育・児童福祉」「母子・寡婦福祉」「障害者福祉」「高齢者福祉」の４つの項目に分けられます。
　福祉の別の言い方は、便宜・プラス・厚生・便益・特恵・恩恵・裨益・ベネフィットです。
　僕はこんかいの作文を書いてみてこれからは福祉の活動に参加していきたいと思います。

「福祉の作文」

中萩中学校　１年　　五反田　慶

　ぼくの課題作文は福祉についてです。
　僕は昔公園で遊んでいると、目が悪いおじさんが現れて周りの人達がそれを笑っていたのを覚えています。その体験をふまえて、福祉について考えていきたいと思います。
　まず始めにいいたいのが、人はどんなものをもっていても平等だということです。始めに言った通り公園の近くを歩いただけでも、ばかにする人がいます。笑ったりしているのはだいたい子供ですが小学生のころから道徳で習っているはずです。また笑っている人達は笑われている人達がどれだけ大変な思いをしているのかをわからないから簡単にいえます。笑っていない人などでも、「かわいそう」などといっています。「かわいそう」と言っている事は相手を下に思っています。それと時々公園で目の悪いおじいさんを見かけますが、僕にあいさつをしてくれます。
　次はボランティアについて話したいと思います。よく朝学校に登校すると、門の前にボランティアをしている人がいることがあります。ボランティアは、バイトや仕事ではなく自分の意志で世界中の体などが不自由な人達を少しでも楽にしようとしています。ボランティアは種類があり、国からの支援をえているボランティアや、国から

の支援をもらわず活動しているボランティアなどがあります。ぼくも、世界の人達のために少しでも募金しようと思います。

ぼくが、課題作文を福祉にしたい理由は、僕のおばあちゃんは足を悪くしているので、それに少しでも関係するものを調べて、どういう対応をしたらいいのかが知りたかったからです。

福祉のことを少しは知れたので、それを社会に活かしていきたいです。

「左側が動かない僕のおじいちゃん」

中萩中学校　１年　　松木　健悟

僕のおじいちゃんは、身体の左側がほとんど動きません。４９歳の時に脳出血になったからです。僕が、おじいちゃんたちとご飯をいっしょに食べている時に、すごく食べづらそうでした。僕は右手におはしを持って左手でお茶碗を持って食べれます。でも、おじいちゃんは左側が使えないから、右手でおはしを持って、お茶碗を机に置いて食べるからです。おみそ汁を飲む時は、一度おはしを置いて飲まなければなりません。僕があたりまえにできることが、おじいちゃんはその何倍もの時間がかかってしまいます。身体の左側が動かないことが大変なのは、分かっているつもりだったけど、おじいちゃんのことをよく見てみると、思った以上に大変そうでした。

お母さんは、車いすマークのついた駐車場に一度も車を停めたことがないそうです。その訳は、たった１０分だからという軽い気持ちで、車をとめている時に本当に必要な人が来たらいけないからと言っていました。おばあちゃんは、身長が１４２㎝と小柄でそれに比べ、おじいちゃんはとても大きな身体つきなので、車いすを押すのが大変です。病院に行った時に、おばあちゃんはまず車いすを取ってきます。そして、おじいちゃんを車いすに乗せて、診察に行きます。これを聞いて、おばあちゃんも大変だし、おじいちゃんは一人で待たされるので、その間はとてもさみしいだろうなと思いました。僕は、たまにイオンに行きます。その時にふとイオンに車いすあるっけと思って、お母さんに聞いてみたら、入口にあるやろと言われて、僕はすごくおどろきました。僕は、健康な身体で産まれたから気付かなかったけど、気付いているようで気付いていないんだなと思いました。他の人も、気付いていないから、車いすの前にカートを置いたり、障がい者などの専用駐車場に停めたりするのかなと、僕は思いました。でも、みんながちょっとでも分かるなら、みんなが幸せに暮らせるんじゃないかなと思いました。

僕は、この作文を通して思ったことは、僕は分かっているつもりでした。でも、気付けてないことがたくさんありました。僕は将来車に乗った時は、どんなに短い時間であっても、専用駐車場には、車を停めないようにしたいです。それに、車いすが変な所にあったら、元にもどしたいです。

「僕の考える福祉」

中萩中学校　１年　　眞鍋　颯琉

この作文を書くために、僕はまず福祉とは何なのかを考えてみました。

調べてみると、福祉とは、しあわせ、幸福、公的扶助やサービスによる生活の安定・充足という意味があることが分かりました。特定のだれかだけではなく、みんなが幸せになれるように取り組み活動や仕組が福祉なんだなと思いました。

僕は来年に８０才をむかえる祖母と一緒に暮らしています。今は祖母も身のまわりのことを支障なく自分でできているし、日常生活で特に困っていることはあまりありません。それでも、少しずつ歩くのが遅くなったり腰が曲ってきたりと、だんだん年を取ってきていると分かります。そういうことをもっと感じるようになってきたら、この先福祉サービスを利用したりし、僕がもう少し大きくなったら日常生活の手助けをして、幸せに暮らせるようにすることも福祉と言えるのではないかと考えてみました。

同居している祖母だけではなく、地域に住んでいるご老人の方々や日常生活で困っている方々の少しでも役に立てることがあれば、僕なりの福祉活動ができると思います。

僕は今までボランティア活動等の福祉活動をあまり気にしたことがありませんでした。大きなことはできませんが、家の周りの道のゴミを拾ったり、元気よくあいさつをしたり、困っている人がいたら声をかけたりしてみる、そしてなによりまずは、身近にいる祖母の手助けをすることができると思います。毎日の小さな積み重ねで身近な人が幸せに、安定した暮らしを送ることができる様にすることが僕の考える福祉です。

今、僕は中学生という立場ではありますが、この先高校生になったり成人したりしたら、周りに福祉の手助けを必要としている人たちがいるかもしれないということを常に考え、行動できる大人にならないといけないなと、思いました。これからがんばりたいです。

「ふくしの作文」

中萩中学校　１年　　守谷　理玖

皆さんは、募金活動をしたことがありますか。募金に協力すると、世界の人々を助けられるかもしれない大切な活動です。このようなことを「福祉」といいます。福祉とは、特定のだれかだけではなく、「みんなが幸せになれるよう」に取り組む活動や仕組みをいいます。いろいろな施策や福祉サービス、ボランティア活動、助け合い活動などがあります。募金もその中の一つです。

僕は小学６年生のときに募金活動のボランティアをしました。たくさんの人がボランティアに協力してくれました。小学生だけでなく、道を歩いているおじいさんや散歩をしているおへんろさんなど、たくさんの人が募金箱のお金を入れてくれました。とてもうれしかったです。僕も毎日入れました。そして募金期間が終わると。集まっ

た募金の合計金額をお昼の放送で伝えられました。なんと１万円を超える金額で、１０万円近くいきました。僕はとても驚き、そして、とてもうれしかったです。こんなにたくさんの募金が集まるとは思いませんでした。

では募金が１００円集まると、何が買えるのでしょう。ポリオという疫病から子どもを守るための経口ワクチン４回分、病気にかかりにくくしてくれる栄養素ビタミンＡのカプセル５０じょうと、１じょうで４～５ℓの水をきれいにすることができる薬２６３じょうを買うことができます。このようにたった１００円で世界の人々を救えるものをたくさん買うことができます。だからこそ、僕は募金がとても大切だと思います。

このような体験を通して、１円からでもそれがたくさん集まれば驚くような金額になり、たくさんの人々を助けることや、救うことにつながると知り、これからも募金活動があれば積極的に参加したいと思います。募金活動だけでなく、他の福祉活動にも協力することも大切だと思います。ぜひ皆さんも福祉活動に参加してみて下さい。そして、僕たちと世界の人々を救いませんか。

「街中にあふれるおもいやり」

中萩中学校　１年　　池口　椎菜

私は、普段とくになにも考えず道を歩いたり、公園で遊んだりしていました。ですが、気が付いたことがあるのです。それは、スーパーマーケットや、図書館、病院はもちろん公共の場に「おもいやりのちゅう車場」があることです。他にも、点字ブロック、音が鳴る信号、いつも使うせんたく機についている点字などたくさんの「おもいやり」があります。これは、どういう人のためにあるのでしょうか。

まず、このたくさんのおもいやりのことをふくしといいます。このふくしとは、体が不自由な方や、おなかに赤ちゃんがいる人など、普通の人のように合わせることが難しい方々を支えることをいいます。このふくしの活動が人々を支えているのです。

次に、どのような活動があるのかを紹介します。

例えば、おもいやりのちゅう車場。おもいやりのちゅう車場は、歩きづらい人や、車と車のはばがせまくて通りづらいと感じるにんぷさんたちのためのおもいやりです。店の入り口に近い場所にあったり、通りやすくなったりしています。そのため、はばが広くて、歩きやすくなっています。そしてこれがあるような店などの歩く場所には、点字ブロックがだいたいついています。点字ブロックは、丸や長方形のぼこってしたものの２種類あります。丸いのは、いったん止まれ。長方形のは、まっすぐ進め。白いつえ（はくじょう）などをもっている人は、先がどうなっているかも分かるので、しっかり曲がることもできます。これは目が不自由な方が使うものです。だから、点字ブロックの上に自転車やバイクを停めていたり、ごみが捨てられていたりしたら、すごくめいわくになります。だから、それに気がついた私は、しっかりと自転車などをよせました。他にも音でしらせるということを使ったふくしもありました。

このように、街中には「おもいやり」があふれています。それでも、何か困っている人がいるかもしれません。そんなときは、しっかり声をかけようと思います。

「福祉についての体験から得たこと、感じたこと」

中萩中学校　１年　　前谷　涼葉

私は福祉についてあまり考えた事が無いので、このお題にしました。

私が電車やバスに乗っている時に、周りに足こしが不自由そうなおばあさんが居た事がありました。でも、なかなか声がでず、「おばあさん、この席に座ってください。」のこの一言を言えば良いだけなのに、言えませんでした。そして、そのまま私は降りてしまいました。私がどうしようか悩んでいる間、ずっと心臓がドキドキしていました。その後も、一言も声が出せずに居た自分が情けなくて、旅行中ずっと心の奥この出来事がありました。家に帰って、ねようとしている時も「ああ、何であんな簡単な一言が言えなかったのだろう…」と心の中で、一人反省をしていました。今だって時々、「あの時に声をかけられればなあ」と考えることがあります。声をかけて、おばあさんに席をゆずれば、おばあさんも私も明るい、良い気持ちになれたのに、後悔しています。

最近は旅行などもしなくなり、電車やバスには乗らなくなりましたが、もしまた乗るのであれば、今度こそ、足こしが不自由な人や高れい者に席をゆずります。

私が、小学６年生の時のクラスは、朝教室に上がって来たら、大声であいさつをしなければいけなくて、ちょっとはずかしかったけど、いつも大声であいさつをしていました。みんなあいさつを元気に返してくれて、しだいに自信がついていきました。中学生になった今でも、６年生の時の自信で、笑顔で地域の人にあいさつができます。地域の人も笑顔で、あいさつを返してくれるので気持ちが良いです。

地域の人や友達、他人などの人にあいさつしたり、最初にも言った電車やバスに乗った時に、にんぷさん、高れい者の人、足が不自由な人などに席を積極的にゆずってあげたいです。みんなが明るく、笑顔で、幸せになる世界にしていきたいです。

「『ボケますからよろしくお願いします。』を見て」

中萩中学校　１年　　安達　康人

僕が見た、ドキュメンタリーは、「ボケますからよろしくお願いします。」という、題名です。この話は一人のおばさんが自分の親の介護をしているところの話で、そのおばさんがビデオを撮って母や父のことをフォローしたり見守るだけで二人の生活は、二人で協力してささえていました。母は、料理が上手く誰よりも見守ってくれた人で、父は、少しグータラしているが「お父さん達に構わず自分が歩みたい人生を行きなさい。」そう言っていつも励ましてくれた。でも最近父が無理している事に気づいてきて父に「大丈夫？」と聞いたら「全然大丈夫だよ。」と優しく答えてくれたけど心配になる。でも心配なところは、母がアルツハイマー型認知症になってしまったが母は、全然そんなことなかったかのように過ごしているが昼寝をする事が増えていって自分も実家に帰る事が多くなっていった。そして父が家事をだんだんとするようになった。

そして、母が最近料理をしなくなってしまったけれど台所をきれいにする事にこだ

わっていました。まるで台所は、母の城のような所だった。そこで料理を作っていたら母に褒められたことが嬉しかったし悲しくもあった。ここから感動するシーンが出てきます。

母と父の二人で暮らすのも大変だからデイサービスの人にお願いすることにしました。デイサービスにいっているときに父は、新聞紙を読んだりしたり私と今後のことを話したり母のためにリンゴを切ったり勉強していたりして気が付けば母が帰ってきた。

そしてたまにヘルパーさんが家に来て家で面倒を見てくれたりしてくれた。

そして母のきげんが悪くなってきた。朝になっても全然起きないし病気のせいで「自分がバカにされている」ように感じ取ってしまい怒って布団から出ないようになってある朝「もう死にたい。」といい父が本気で怒鳴りました。「死にたい」という言葉が怒らせたと僕は、思いました。その後母は、父がむいたリンゴを食べながら泣いていました。そしてその後母は、父に謝り父も「言い過ぎた。」と謝った。それでもけんかするときもあるけど頑張って生きていくことを夫婦でかたくちかったそうです。

このドキュメンタリーを見る前に、福祉という言葉を調べました。「幸福」という意味があるそうです。病気によりできないことが増えて辛い母、その母を支えて時に無理をする父。病気によって「幸福」とは離れてしまっている生活になっているけど、デイサービスやヘルパーを利用して少しでも無理な部分を減らし「幸せな生活」に近づけていました。しかしまだまだ大変そうでした。

そして僕は、「がんばれ」とすごく心の中で思いました。

「福祉について自分の思い、考えていること」

中萩中学校　１年　　内田　湊太

みなさんは福祉について、どのように考えているでしょうか。

ぼくは、「福祉」という言葉を学校などいろいろな場所で聞くけれどあまり深く考えたことはなかったので福祉の作文をかこうと思いました。

ぼくは、福祉の意味はまったくしらなかったのでネットでしらべてみると「特定のだれかだけではなく、みんなが幸せになれるように取り組む活動や仕組み」のことだそうです。

ぎもんに思ったことは、幸せと福祉はなにが違うのだろうと思いました。

幸せは人より自分で福祉はみんなで全体といういみがあるそうです。

福祉の活動はいろいろな施策や福祉サービス、ボランティア活動、助けあい活動などがあってとくにボランティアなど身近に参加する場所があったりするのでもっと積極的に参加したいと思います。

助けあいなどもすぐできるかもしれません。どんなときでも人が困っていてたすけてあげたりすることも助けあいにはいるのでいろいろな場面で福祉の活動ができていることが分かりました。

ぼくは、いままで福祉ときくとおとしよりの人を助けるということが頭にうかんできたけれどこの作文をきに福祉とはどんな人にもかんけいしていてみんなのことをか

んがえている活動だなと思いました。
　友達や周りの人は福祉と聞いてなにを思いうかべるのでしょうか？
　ぼくが、なぜこの作文をかこうと思ったわけは、学校など色んな公共の場で「福祉」という言葉をきくけどいざ福祉とはなんですかときかれるとこたえられるきがしないなと思ったのでこういうさく文のときに知るチャンスだなと思い福祉の作文をえらびました。
　この作文をかいて思ったことは、みんなはしあわせに生きようというけど、その意味は人より自分なのでこれからは福祉という言葉を大事にして生きていきます。
　あと周りの人にも福祉はこういう意味なんだよと教えられるようになりたいです。

「福祉について」

中萩中学校　１年　　田中　玲生

　僕は福祉の事が気になり書きました。書こうと思った理由はしあわせやゆたかさの事をより知りいいことをしたいと思いこれを書きました。
　まず福祉とは、人のしあわせやゆたかさと社会的援助を提供したりするといった意味があります。福祉の「福」とはふだんのくらしのしあわせ福祉の「祉」はめぐりあいや機会、またしあわせのためにそれぞれの人が力や知恵をし合う仕合せという意味がある。
　「ふくし」の仕事は人が快適に生きられるように社会的に支援をすることです。すべての人の「いのち」を大切にして「くらし」を手伝うことです。
　ぼくのお母さんは介護の仕事をやっています。ぼくが介護の事で思った事は、体の不自由な人を援助したり支援をして、その人の病気などを退院するまで看病をして最後まで見送りとてもいいなと思い、やりがいなどがあるなと思いました。しかも介護は看病だけでなくその人の悩んでいることを聞いてその悩みを解決することも介護の仕事ということが分かりました。介護は思っていたよりやる事があると分かりました。ご飯を食べさせてあげたり、トイレにつれていったり、お風呂につれていき洗うなどと思っていたいじょうにやることなどが多く、びっくりもしたし大変なんだなと思いました。
　お母さんにやりがいを聞き、その人が自分でご飯を食べられなくて、でも少しずつご飯が食べれるようになって、ご飯を自分で食べれてその人から「ありがとね」と言ってもらえてうれしいなどの事などがやりがいということがわかりました。介護は一つひとつの事が難しいけどとても良いやりがいがあるということが分かりました。これから生活していくなかでそのような人がいたらそっとやさしくせっしたり、よりそって、不自由がある人でもだれでも幸せの世界をがんばって作っていこうと思いました。これが僕の福祉などに思ったことです。これからも体の不自由な人に少しでも支援できたらいいなと思いました。これで僕の福祉の思った事です。

「福祉について」

中萩中学校　１年　　永井　李空

福祉とは、色々な種類があり、生活保護、児童福祉、老人福祉身体障害者福祉などがあります。おもに福祉は、子どもや障がい者等の相談支援や施設利用者の自立に向けた支援を行っています。僕たちも、おじいちゃんになったりしたら福祉を利用するかもしれません。だから、福祉は生きていくうえでとっても大切な仕事だとも言えます。福祉の仕事についている人に求められているスキルとは、コミュニケーション力、観察力、冷静さ、慎重さ、知識の吸収、応用スキル、にんたい力などが求められています。なので僕は福祉とは、とってもすごい仕事だなと思います。

今、僕が思っていることがあって、父さんや母さんに「福祉って何なん。」と聞くと、二人ともが「人を助ける仕事。」「障がいのある人を助ける仕事。」と言っていたので、たぶん、大人の人は、これから福祉などを利用するから福祉についての知識をつけているんだなと思いました。だから、僕もいまのうちに福祉についての知識をつけておこうと思います。

次に、僕が考えていることがあって、福祉の仕事についている人たちは、それぞれ、高齢者の人や障がい者などによって対応のしかたを変えているのだと思います。例えば、高齢者の人には、車いすに座ってもらったりします。けど、目や耳の不自由な人には、どのような対応をするのでしょうか。インターネットなどを利用して調べてみると、目の不自由な人には、まず、話す前に名乗る、肘の上をつかんでもらいゆっくりと歩く、言葉で周囲の状況を具体的に説明する。耳の不自由な人には、正面からゆっとりと話す、筆談の準備、補聴器使用者には大きな声で話さないなどの対応をしていて、福祉とはたいへんな仕事だと考えました。

これから、僕は、福祉についての知識をしっかりとつけて、大人になってもこまらないように早めに福祉についての勉強をしておこうと思います。あと、身の回りの障がいをかかえている人には、ていねいに対応しようと思います。

「福祉のために」

中萩中学校　１年　　藤原　優沙都

福祉とは、人々の生活や幸せに関することであり、くらしの幸せとも言います。その、人々が幸せになるため、福祉という言葉があり、色々な体験をしてきました。

僕は、よくコンビニなどのお店に行きます。そこでぼ金活動をしているのを見ます。その時は、１０円でも２０円でもぼ金をしています。そのぼ金箱にお金を入れたときに毎度思っていることがあります。このような安い金額でも、生活に困っている人達を助けることができるんだなと思いました。貧しい国や人々が、大勢います。僕達の今している生活は、当たり前ではないということを、改めて実感します。そんな幸せな生活を送っている僕たちだからこそ、できる活動であり、人々への幸せを願う活動なんだなと思っています。これからも積極的にぼ金活動に協力していきたいなと

思います。
　僕には、２年前に病気で死んでしまったおじいちゃんがいました。まだ物心ついてない時に、よくおじいちゃんの車イスを無感情でおしていた覚えがあります。車イスをおしているときは、特に何にも思わず、めんどくさいと思っておしていました。そんなころは、生活に困っている人のことを何にも考えずに生活していました。どんどん、体も心も成長していき、小学４年生のころ、担任の先生から、僕の心が変わる一言を言っていました。「生活に困っている人達を、全力で支えている人が、たくさんいるんだよ。」と言われました。その言葉がグッと心にささりました。今となっては、それが福祉であるということに気づきました。だれかのために、全力でがんばっている人がいることを知って、すごくすてきだなと思っていて、興味をもちだして、よく何かできないかなと考えていました。そこで思いついたのが、一番はぼ金でした。ぼ金活動は、すごく簡単にできる活動であり、身近にやっている活動であるので、僕はぼ金をよくしています。学校でぼ金活動があったときは、しょっちゅうお金をもっていって、ぼ金していました。自分が今、だれかを助けているということにうれしくなって、僕のぼ金活動はずっと続いています。いいことをするって、なんだか気持ちがいいなと思いました。他にも困っている人達を助ける活動は、まだまだあるので、色々な活動に目を通し、だれかのために動いていきたいです。
　僕の思う福祉は、人々の幸せを守り、人の手助けをすることであると思っています。これからも、人を助け、人を大切にして、福祉の世界を広げていきたいです。

「私が思う福祉」

中萩中学校　１年　　蘆谷　美友

　みなさんは福祉について、どんなことを想像するだろうか。
　先日、私の従兄が祖父母達に、こんな話をしていた。「学校の帰り道、横断歩道の真ん中辺りでおばあちゃんがまごついていて、信号を見たら点滅して赤になりそうだった。危ない！！と思いおばあちゃんの所に走って行き、荷物とおばあちゃんの手を引いて横断歩道を渡り切るのを手伝いしたんよ。」と言っていました。祖父も祖母も「すごいのぉ！！」「それはええことしたね～、エラいねー！！」とほめ、従兄のとった行動の「勇気」ととっさの判断に感心していました。その話を聞いていた私も「へえーすごいなぁー…」と同感したもののそれ以上深く考えませんでした。
　今回福祉について考えるにあたり従兄のこのエピソードを思い出し、ふと思いました。「私があんな場面にでくわしていたら、どうしていたんだろう？？」と一つの疑問が浮かびあがりました。①「あっ、助けなきゃ！！」と行動に移せるのか、②「助けてあげないとわかっているけど周りの視線が恥ずかしい…。」頭の中でアレコレ考え何も出来ないの？③その状況を見ても心が反応せず、ただ通り過ぎてゆくのか？③は絶対にありえないとしても、①か②の行動に迷っている私がいました。そんな思考錯誤の中でハッと気付きました。従兄は、自分の都合や周りの目よりも困っているおばあちゃんの手助けを優先しました。当たり前のように聞こえますが、いざ行動するとなったら、私のようにためらったりして、行動に移すのが、とても難しいのです。そこ

には、普段から持つ優しさと思いやりの心がけがあるように思いました。そして、何よりその思いの強さと行動に移す勇気が必要なんだと…私はそう思いました。

「福祉」という言葉を調べてみると「福」も「祉」も幸せという意味でした。福祉という言葉は、２つの幸せから成り立つのです。助ける方、助けられる方、支える方、支えられる方…与える側、与えられる側…互いに、思いやりを持ち、協力しあって感じられる「福祉」と呼ぶのだろうと理解しました。街に出かけると、スーパーの駐車場、点字ブロックの道路や音でしらせる信号、ショッピングモールのエレベーター、バリアフリーの通路など、見える思いやりはたくさんあふれています。しかし本当に、大切なのは、困っている人にさっと手を差しのべられる見えない思いやりなのです。自分の周りに目配り、気配り、心配りが出来る人は、いますか？自分の心の視野を広げ意識を行動につなげることが出来ると、目配り、気配り、心配りが迷うことなく出来ると思いました。

道路の点字ブロックの上に障害物がないか、気を配ったり、レジやエレベーターの順番をゆずったり、募金やクリーン活動に積極的に参加するなど私に出来る福祉を心がけたいと思います。

「障がい者とまわりの人達」

中萩中学校　１年　　濱田　寧央

私は、いろいろな公共の場で障がい者が、他の人とちがう対応をしている人を何度も見たことがあります。障がい者は、自分がこのような特別みたいな対応をされたくないし、自分の意しで障がい者になったわけではないと思います。

私が公共の場で、これは障がい者がいやな思いをするなと思った事が五つありました。

一つ目は、病院にいたときに、車いすの人がエレベーターにのろうとしていたけど、エレベーターに一人しかのっていないのに、車いすの人をいれずに先にいってしまったということです。

二つ目は、病院にいたときに他のかんじゃが、手のない人にむかってきこえるように笑っていたことです。

三つ目は、広場みたいなところに、ぎそくの人がいて、それを二つ目と同じように笑っている人がいたことです。

四つ目は、車いすの人がドアをとおるのにくせんしていたのにまわりの人は見て見ぬふりをしていてたまに笑っている人もいたりしていたけど、一人のひとが車いすの人を助けてあげていたけど、助けたあとにその人がまわりからへんな目でみられていたことです。

五つ目は、人が多い歩道で障がい者マークみたいなのをつけている人にいろんな人が、かたをわざとあてたりくつをふんだりしていたことです。

私は、これらの体験を通して相手の気持ちを考えないのと思ったし、そんないちいちくつをふんだり、かたをわざわざあてにしにいったりするんだったら、その自分の悪いところを直すぐらいの時間はあるだろうと思いました。

人の気持ちを考えずに、自分のいかりを他人にやつあたりとしてやらないでほしいし、障がい者を笑ったりする人が少なくなってきているから次に他から変な目で見られるとしたら障がい者のことを笑っている人なんだなと気づいてほしいです。そんなしょうもないことをしないのがあたりまえのような世界になってほしいです。

「ふくしについて（ユニバーサルデザイン）」

中萩中学校　１年　　尾藤　結菜

私は、障がいを持った人がテレビに出ている所を見たことがあります。そこでは、車いすで、生活をしている人は出ていました。段差が、ある所を通るのはとても大変そうでした。

このことから、車いすの人が通りやすいようにスロープを設置したり、お年寄りの方のために手すりを設けたりして、道路では、なるべく段差をなくすなどの環境整備をする事が必要だと思いました。

私も、スーパーなどで、車いすの人が使いやすいトイレなどがあるのを見た事があります。そのトイレは、多目的トイレと言うトイレです。多目的トイレは、公園やスーパーなどで、多目的トイレが増えました。見た事は、あったけど、使用した事は、無いと言う人もいれば、空いていたら、多目的トイレを使っていると言う人もいます。多目的トイレは、車いすの人だけが使えるだけでは、ありません。多目的トイレは、高齢者、内部障がい者、子供連れなどの多様な人が利用できるトイレです。

多目的トイレは、車いすやベビーカーもそのまま入る事が出来ます。ベビーチェア、オムツ交換台、着替え台も設置されています。オストメイト対応トイレ内には、パウチや汚れた物、しびん等を洗浄するための汚物流しなど、特別な設備が設置されています。

最近では、多目的トイレと言う名前ではなく「バリアフリートイレ」と言われています。

私は、最初多目的トイレの事を知りませんでした。私が知ったのは、お母さんに教えてもらって知りました。この多目的トイレの勉強を小４の時にして、多目的トイレのすばらしさを知りました。多目的トイレは、とても、便利な物なんだなとあらためて思いました。

これからは、障がい者、車いすの人が困っていたら、助けたり声をかけたりしてあげたいです。色々な事を知れて良かったです。

「未来を明るくするために」

中萩中学校　１年　　矢野　志緒莉

私の好きな YouTuber さんは、過去に辛い経験を抱えていました。生まれてから今好きなことをたくさんしている自分になるまでの「全て」を語ってくれていました。そ

の動画には、自分が性同一性障がいの持ち主であること。家庭は借金まみれで、母親が荒れていたこと。学生時代の友人のこと。部活のこと。小学生時代に友人からたくされた将来の夢のこと。そして、辛い学生時代から今に至るまでのこと。嘘偽りなく、何一つ隠さず、涙を流しながら話していました。

私はその人の話を聞いていて、涙が止まりませんでした。今の自分では想像もつかない境遇、恐ろしさ。だれが聞いても分かるほど、相当辛い過去、なのに、その人は明るい声色で語っていました。聞いている人を少しでも心配させないように。

そんな YouTuber さんを見て、何もできない、何も力になれない自分が嫌でしかたなくなりました。それと同時に、もしも自分が、同じ境遇だったら、まともに生きていられるだろうか、とも思いました。この YouTuber さんは、学校の友人に家庭のことを話していたり、たくされた夢を叶えるという目標があったからこそ、今を生きています。でも、もしそれがなかったら？と考えてしまいます。「相談するのは苦手」「夢なんてどうせ叶わない」なんて思っている人は少なくないです。そして何より恐いのが、今の世界には、そんな境遇の中で今を過ごしている人がいるということです。もしかしたら日本にも、私が知らないだけでいるかも知れません。

もしかしたら、自分の未来はそうなっているかも知れない。自分じゃなくても周りの人が、そうなっているかも知れない。可能性は消えません。もし自分がそうなった場合、周りの人は助けてくれるだろうか。もし周りの人がそうなった場合、私は手を差し伸べることができるだろうか。そう考えた時、周りの人との助け合いをしないということは、あってはならないことなのです。可能性は消えませんが、小さくすることはできます。なので、これからも周りとの助け合いを大切にしていきたいと思います。そして、そんな境遇で生きる人が、いなくなるような世界にもしていきたいです。

「ふくしについて」

中萩中学校　　１年　大滝　晃平

ぼくは、ふくしについて書こうと思います。

さっそくですが、「福祉」とは、何だと思いますか？「福祉」とは、「ふだんの暮らしの『しあわせ』をいう」そうです。ぼくは、福祉という言葉を聞いたことはあるけど、何も知らなかったので、すごいことを表しているのがすごいと思いました。「日本人や外国人、体が不自由な人みんながしあわせにくらせるように、よく思いやりをもってささえあって生きていこうということ。」らしいです。難しいと思ってしまいましたが、そうではないらしいです。「こまっている人を助けてあげる気持ちを大切に、だれかのために行動することが、『ふくし』」だそうです。

そして福祉という漢字も、「しあわせ」に関することらしいです。「福」と「祉」はどちらも、「幸運」と「しあわせ」を意味する漢字になっているそうです。だから、「福祉」は、人の「しあわせ」を意味する漢字だそうです。

次に、「福祉」を英語で見ると、「welfare(ウェルフェア)」という言葉になるそうです。この「welfare(ウェルフェア)」という言葉は造話であるどうで、「well＝よく」

という言葉で「fare＝生きる」という言葉だそうで、この二つの言葉が合わさってできた言葉で「よりよく生きる。」という意味になるそうです。こんなに、ひらがな、漢字、英語で、全部で、人のためにの言葉になっているのが、すごいと思いました。

ぼくは、福祉について何も考えたことは、なかったけど、今日調べて分かったことは、「福祉」は、人の「しあわせ」を願った言葉になっているので、すごいと思いました。しかも意外と簡単に出来ることなので、ぼくも、福祉にこうけんできていると思います。いろんな人、外国人、日本人、体が不自由な人みんなのためにささえ合うことだけど、とても大切で身近なので、これからもたくさんできたらいいなと思いました。

「僕たちが気づいていない幸福」

中萩中学校　１年　大星　凛太郎

みなさんは、いまなにげに生きていると思いますが、いま自分の中でしあわせだと思うことを思いうかべてみてください。僕の中では、コーラをのみながらゲームしたり、犬のさんぽをしたり、いろんなことがあると思いますが、そのことを考えてのしあわせは、いきていることや、ご飯を食べたりすること、そのなにげないしあわせを、かんじたことはありますか？

この世界には、ご飯がたべられない人や、水分をのめない人々がたくさんいます。その人たちからすると僕たちうらやましいどころじゃないぐらいだと思います。ご飯だったら、動物の命をもらったり、命をさずかっていきています。そういうしあわせをかんじられたら一日一日をたいせつにしながらいきていくことができると思います。ふくしというのは、人のしあわせや、幸福だと、僕は思います。人のしあわせは相手を思いやることや、相手の立場から考えて、そのときどう思っているか考えることだと思います。相手の立場から考えることは、けんかやいじめにあっている友達がいても相手の立場から考えると、どれだけくるしいかとかがわかると思います。そういうめんでも相手の立場から考えることは、すごく大切なことだと思います。

相手をおもいやるは、こまっていたときには、おたがいたすけあったりするのが思いやりだと思います。一番大切なことは、だめなことはだめということです。友達だから、かわいそうだからちゅういしないだと、その子は、ずっと同じことをしてしまうので、相手をおもいやるめんでもたいせつだと思います。

福祉は、すべてのことに、かかわっていると思います。いじめとか、けんかとか、生活とか、命とか、すべてのことをまなべるということでも福祉は大切だと思います。なのでみなさんも、いまの生活の中で、「あ、しあわせだな。」と思ったり、ありがたいと思ったりかんじょうをかくさずに「いただきます。」とかそういうあいさつでかんしゃしていきたいなと思います。

「『ふくし』とは」

中萩中学校　１年　　古味　蒼一朗

ぼくは、「ふくし」の意味を知っていませんでした。去年福祉委員会に入っていたのに知りませんでした。

ぼくは「ふくし」の意味をかんちがいしていたようで、ぼくが考えていた「ふくし」は人権とか人を助けるとかそういうことだと思っていたんですけど、実際の「ふくし」の意味を調べると、「サービスや公的扶助で安心して過ごせるようにする」というようなことがかいてあり、「自分はかんちがいしていたんだな」と思いました。いろんな場所で行われているぼ金はこのために行われているというのを知りました。そして、「ふくし」には、「サービスや公的扶助で安心して過ごせるようにする」ことの他に「幸せや幸福」という意味があるようです。「福祉」という漢字の福にも祉にも幸せという意味があることを知りました。なので人を幸せにするためにもぼ金活動などを行っているのかなと思いました。ぼくは、福祉というと外国(アフリカなど)の支援のイメージが強いのですが、東日本大しん災や西日本ごう雨なども福祉に関係するかが分からないので、調べられたら調べてみようと思います。

ぼくのお母さんは障がい者で右手が使えないのですが、お母さんのような障がい者の方達を助けたり、治せるものは治したりするのも、「ふくし」の「サービスや公的扶助で安心して過ごせるようにする」に入ると思うのですがどうなんでしょう。別にぼくはこのままでもお母さんはちゃんと過ごせているのでいいんですけど、もし治せるのであれば治ってほしいなと思います。他の障がい者の方もその障がいが治るような取組みをしていけたらいいんじゃないかと思います。

まとめると、「ふくし」というのは、「それぞれで助け合い、だれもが安心して幸せに過ごしていけるようにする」ことだと考えています。だれにだって幸せに過ごす権利はあると思うからです。この考えを心に入れて生活していけたらいいと思います。

「福祉とは」

中萩中学校　１年　　田邉　秀磨

僕は、福祉というものがどういうものかが分からなかったので調べることにしました。福祉とは「ふだんのくらしのしあわせ」とも言うそうです。福祉の「福」も「祉」もどちらも幸せという意味が込められています。祉はめぐりあわせや機会、また、しあわせのためにそれぞれの人が力や知恵をし合う仕合せという意味があります。

福祉とは、最低限の幸福、社会的援助を提供する理念を指します。その中で、援助を必要とする人に援助を提供する仕事が、福祉の仕事になります。福祉の仕事は、保育士、介護福祉士、ケアマネジャーなど様々ですが、共通して言えるのは「人の助けとなる仕事です。」福祉とは、主に「公的扶助やサービスによる生活の安定、充足」と

いう意味で使われています。もともとは、「幸福」という意味で使われていましたが、現在では、「公的サービスにより生活をより良くすること」という意味で使われるようになりました。僕は、この世には福祉は必要なのかと思い調べてみました。福祉の重要性福祉の整備は、社会の持続的な発展と人間の尊厳を守るために不可欠です。福祉の充実は、社会の安定と平等な機会の提供につながります。また、健康や教育などの福祉要素が満たされている社会では、人々がより積極的に社会参加し、経済的な生産性も向上する。福祉の心は、自分のことも周りの人も大切にする精神であり、これを基盤として、公共奉仕、社会連帯の精神を高めさせることが大切です、そのため、全教育活動を通して、生命を尊重する心、自立心や思いやりの心、助け合い協力する心を育てる必要があります。

僕はこの福祉の仕事は、だれかを助けるための仕事であり、みんな平等に最低限の幸福社会的援助を提供することを目的としているということが分かります。公的扶助やサービスによる生活の安定、充実という意味で福祉が使われているのなら福祉とはそれだけでも福祉はとても大切なものだと分かりました。

「楽しく誰もが幸せな世の中へ」

中萩中学校　　１年　小野　杏莉

みなさんは、ふくしについて考えたことはありますか。私は実際に体験していませんが、母からきいた話でふくしのことについて考えることがありました。

母は母の姉、私から見るとおばと一緒にパン屋へ買い物に行っていました。そしてそのお店に手が不自由なお客さんが入ってきました。トングでパンをとっておぼんに入れるというしくみで、その不自由な人はなかなかパンをとれず困っていたそうなのですが、店員さんも他のお客さんも誰も助けず見て見ぬふりをしていたそうです。そして母たちは、「何で、助けないんだろう。自分も見て見ぬふりされたら嫌じゃないの。」などと言っていました。私は母の意見にすごくなっとくしましたが、もしかしたら私も見て見ぬふりをする傍観者側になっていたかもしれません。

私があまり慣れていない人と話したりするのが苦手です。だから母たちみたいに声をかけて助けることも出来ないと思います。でもだからって傍観者側にはなりたくない。もし見つけた時は、母たちを見習って、勇気を出して助けることが出来たらなと思います。

でもなぜパン屋はトングのでとる方が多いのでしょう。そういう不自由な人たちがたくさんいるのになぜ対策をしないのだろうとふと疑問に思いました。これには母も「確かに。口で言ってたのめる方が良いかもね。」と言っていました。確かに口で注文した方が手など不自由な人には良いし、耳がきこえなくても手話で会話している人は何かしらの紙を置いておいて書いてもらえば良いし、本当にそういうシステムになったらと思いました。

もしもそういうことを考えていくうちに、犬も入れる店を増やしたらいいと思いました。犬というか目が見えない人の手伝いをする盲導犬が入れる店を増やしたらいいと思いました。あまり盲導犬が入れる店を見かけたことがないので、少し目に障がい

がある人には理不尽なのかなと思いました。
　私は普だん全然ふくしのことなどを考えていなかったのでとても良い機会になりました。これからの社会障がい者も楽しく理不尽ない世の中になったらいいと思います。

「祖父の死から学んだ福祉」

中萩中学校　　１年　河村　麗

　私の将来の夢は、看護師です。がんで亡くなった祖父が「麗には、看護師か、介護士になってほしい」と母に言っていたそうです。コロナで、入院中だった祖父は、看護師さんや介護士さんとの会話の中で生きる力をもらっていたようです。私が面会したときの祖父は車いすに座っていて点滴につながれていて、元気がなく、私は声をかけることができませんでした。
　私の母は作業りょう法士で障がいのある人や高れい者のリハビリをしています。父は社会福祉士で、病院と家族をつなぐ仕事をしています。私は目を向けると、身近に医りょう福祉があるのです。
　福祉とは何か改めて調べてみると、福祉とは「普段の暮らしの幸せ」とも言うそうです。福祉の「福」も「祉」もどちらにも「幸せ」という意味がこめられています。「祉」は、「めぐりあわせ」や、「機会」、また、「幸せ」のためにそれぞれの人が力や知恵をしあう「仕合せ」という意味があるそうです。その意味を知ると今の私でもできることが、あるような気がします。また、福祉はだれかの「できない」ことを「自分のできること」でサポートすることとありました。点滴につながれた祖父の手をふれることが私にできたら祖父に元気を与えることができたのかもしれないと今では思うことができます。
　将来、看護師になれたら医りょう福祉について学ぶことはできますが、今の私でもできることはたくさんあるのではないかと思いました。小さい子やお年寄りが困っていたら、いつでも声をかけ、手をさしのべられる思いやりや、優しさをもちつづけていたいです。
　祖父は、俳句や短歌を好んでいて、亡くなる前に読んだ句を母が教えてくれました。「力もらう　細ひ体の　看護師に　まごに話そう　看護の道と　力の訳を」
　祖父から直接話を聞いたわけではないのですが、これからその意味を理解できるよう、学んでいきたいと思います。

「動物と助け合う」

中萩中学校　　１年　角川　希

　私は夏休みにインターネットを使って福祉について調べてみました。
　まず、福祉とは簡単にいうと、みんなが幸せになれるようにしましょうというものです。
　福祉の中でも児童福祉というものがあります。これは、児童に対して行われる福祉サービスのことです。今現在、日本には親と一緒に暮らすことができない子どもが約

４万５千人もいます。それだけの子どもが親と暮らすことができない理由は、主に虐待です。実際、年間１２万件以上の虐待がおき、虐待によって死亡、つまり虐待死する子どもが年間約５０人以上もいます。その内４０パーセントは０才で生まれたその日に虐待死しています。そして、その他の理由としてあげられるのが親の病気や経済的な理由です。そういった家庭の子は児童養護施設で暮らしています。そして、その他１８パーセントの子どもが、里親家庭で暮らしています。今、その子たちに必要なのは愛情と整えられた環境、そして、人としての基盤となる信頼感や安心感です。これらは、人間の子どもだけではなく、大人も犬も猫も全ての生き物に必要不可欠なものです。

福祉の中にもう一つ動物福祉というものがあります。これは、動物が精神的、肉体的に健康で幸福であり、環境ともに調和していることです。人と同じで、犬や猫にもきちんと整えられた環境や愛情、安心感が必要となります。このことから私は、迷子犬や捨て犬が保護される保健所について調べ、考えてみました。

保健所とは、迷子犬や捨て犬などを一定期間保護し、里親募集などを行っている施設のことです。ここで保護された犬が期間をすぎるとどうなるのか知っていますか。なんらかの理由で保護された犬は動物愛護センターに集められ、その後シェルターの中で一定期間をすごし、期間中に里親が見つからなかった場合、ドリームボックスとよばれるガス室で殺処分となります。殺処分になってしまう犬は年間約１万４，０００匹もいます。これを聞いて多いと思いますか。少ないと思いますか。私はとても多いと思います。なぜなら、殺されているからです。生き物は生まれたら死ぬというのは当たり前です。けれど殺処分というのはまだ十分生きられた子も人間の意志によって殺されています。だから私は多いと思いました。

もう一つはペットショップについて気になりました。ペットショップは犬や猫を商品として売っています。ペットショップには可愛い子犬や子猫がたくさんいます。ですが私は、なぜペットショップというものがあるのか不思議に思います。なぜなら、売れなかった犬猫が可哀想だからです。ペットショップで売れなかった犬猫がどうなるか考えたことはありますか。売れなかった犬たちは保健所で殺処分になったり、実験用に使われ、命を落とすこともあります。全ての犬猫がそうとは限りませんが、少なくはないということを色んな人に知っておいてほしいです。

私は、人と動物は違うようで同じだと思います。人には目も鼻も口も耳もあります。動物にも目も鼻も口も耳もあります。毛も足もあります。言葉は通じないけれど同じ生き物です。目が見えない人を助ける盲導犬、警察を手伝う警察犬、人が気づかないところで人と犬はつながっています。だから少しでも幸せに暮らせる動物が増えるようによりよい環境を作っていかなければいけないと思います。

「福祉とは何なのだろう。自分には、何ができるのか」

中萩中学校　　１年　十河　幸穂

福祉とは、何か、どのようなものなのだろう。皆さんは、福祉とは、何か考えた事は、ありますか。私は、福祉という言葉は、知っていたけど、具体的にどのようなも

のなのかを知りませんでした。なので福祉の作文を通して福祉とは、何なのかを知り、自分たちに何ができるのかを考えようと思います。

まず福祉とは、何なのかを知るためにインターネットで調べると、福祉とは、普段の暮らしの幸せとも言い、福祉の福と祉もどちらにも幸せという意味が込められています。祉は、めぐりあわせや機会また幸せのためにそれぞれの人が力や知恵をし合う仕合せという意味があるそうです、私はインターネットで福祉のことについて調べて、誰もが幸せでいられるように障がい者だとしてもどこかが不自由だとしても関係なく、みんなが幸せでいられるのが福祉だと私的には、思います。

次に自分達にできることは、何なのかを考えたいと思います。私的に自分にできると思う事は、４つあります。

１つ目は、寄付や募金をすることです。ＳＤＧｓの目標を達成するために働いている団体、企業、自治体などに寄付や募金すると、食事、学習道具、ワクチンなどに変わり現地に届けられるからです。

２つ目は、ボランティア活動をすることです。ボランティア活動は、私達が身近にできることだと思います。少しでもボランティア活動をすれば、何かに繋がると思います。

３つ目は、理解を深めて周囲に広めていくことです。福祉とは、何かを知らない人に福祉とは、こういうものだよと言ったりして自分が知っている情報や気になることなどをいろんな人とシェアして、より多くの人に知ってもらう良いと思います。

４つ目は、車いすの人や何かの障がいがある人などを助けることです。私は、誰かが困っていたら放っておけないので誰かが困っていたら助けたり、少しでも手伝ったりしていくとほんの小さなことで幸せと思うことがあると思います。

私は、これから自分にできることを実際にしていきたいです。誰かのために何か自分ができると思ったことをする。それは、素敵なことだと思います。自分の幸せも大事だけど相手の幸せ、相手の気持ちになって考える。もし自分がこの人だったらきっと誰かに助けてほしいとか思うんだろうと考えてそれを実際にして、「ありがとう」と、言われると誰がだってきっとうれしくなります。自分も幸せ、相手も幸せそれが一番だと私は、思います。

「私と手話」

中萩中学校　　１年　則友　星南

私は保育園児の頃に聴覚障がいを持った方が保育園に来ました。保育園の先生に手話を習っている先生がいたので、何回か交流がありました。

年長の時には愛媛国体のテーマ曲を手話コーラスで歌ったり、十二支の歌を手話でしたりと手話にふれる機会がありました。この２つは姉も弟も保育園で習っていて、みんな家でやったりしていました。

保育園の夏祭りにも来てくれて、太鼓の響く振動で音がわかるみたいで、一緒に盆踊りをした事があります。教室では手話当てクイズをしたり、みんなで盛り上がったのはいい思い出です。

私のお母さんは大学生の時に手話サークルに入っていて、色々なボランティアや手話通訳をしていたので、保育園で聴覚障がい者の人達とも手話で話していました。大学を卒業してから手話を使って会話する事はなかったそうなので、忘れてしまった手話の単語もたくさんあったそうです。それでも指文字は全部覚えていたので、指文字で単語を表現して話していました。

私の姉弟も自分の名や誕生日等、簡単な会話なら保育園の時に習ったのでできます。わからない時はお母さんに聞いていました。保育園を卒園したら、障がいがある人との交流もほとんどなくなってしまい、手話をする機会もないです。

お母さんは、必ず起きると言われている南海トラフの時に必ず困る人がいるから、手話を学びなおそうと思っていると言っていましたが、コロナ禍になりマスクをしているとロの動きが読めないのでたくさんの単語を覚えないといけないと言っています。

お母さんがなぜ手話の勉強をしているのかというと、お母さんの同級生の両親に耳が聞こえない人がいて同級生が手話をして会話をしていたのを見てかっこいいと思ったのが最初だったそうです。その後、親戚にも耳が聞こえなくなってロの動きを見て話している人がいるのを知ってからちゃんと勉強しようと思って大学で学んだそうです。

私もお母さんみたいに手話を覚えて、災害時等に役に立てるようにしたいです。

「これからの未来と福祉」

中萩中学校　１年　　宮崎　桃花

皆さんは福祉について考えたことはありますか。また、それを行動に移したことはありますか。私が、福祉について作文を書こうと思ったきっかけは二つあります。一つ目は、私のひいおばあちゃんがデイサービスに通っているからです。ひいおばあちゃんは現在、９５歳で、週２回のデイサービスを利用して風呂に入ったり、同じデイサービスを利用されている方とお話したりしながら生活しています。二つ目は、私の母と叔母が福祉関連の仕事をしているからです。今、私の祖父が足を痛めているのでマッサージ方法を教えてあげたり、病院に連れて行ってあげたりしています。

私は、福祉はこの現代社会において必要不可欠なものだと考えます。根拠は、「福祉」というと、介護職や貧困の人々を助けるというイメージが強いと私は思います。もちろん、福祉にはそれも入ると思います。しかし、私はそれだけが福祉というのは少し違うのではないかと思います。それは、例えば、筆箱が落ちてしまった時に拾ってあげるという場面も福祉に該当するのではないかということです。つまり、人が普段、当たり前のようにしている優しさも福祉になるということです。また、筆箱が落ちた時に拾ってくれた人に、「ありがとう。」と言うことも福祉に関連するのではないかとも私は考えます。根拠は、この「ありがとう。」に嬉しさを感じて、「また人助けをしよう」とまるで、福祉と福祉が繋がっていくようで、とても素敵だなと思いました。この、「また人助けをしよう」という気持ちは、現代社会やこれからの社会になくてはならない気持ちだと思います。また、福祉と福祉が繋がっていくような社会を私

達、若者が責任をもって作っていかなければいけないなと感じました。
　私がこれから、福祉に関連することで実行したいことは、まず、困っている人を助けるということは当たり前にできるような人になりたいです。さらに、募金活動に積極的に参加したり、ごみ拾いなどの清掃活動にも参加したりしていきたいです。また、ベルマークを集めてお金にして貧困を抱える人々に寄付したいです。私は、これからの未来を背負う私達が中心となってみんなが安心して生活できる世界を作っていくことが大切だと考えます。

「福祉についての体験から得たこと、感じたこと」

中萩中学校　１年　　村上　心音

　福祉とは何か。私が保育園の年長のときにグループホームむつみの家に行きました。あいまいな記憶ですが、おばあちゃんや、おじいちゃんがそこにいて歌を皆んなでプレゼントしました。行く前には、歌の練習をしていました。そこで歌をプレゼントした後に、皆んなとお話をします。私がそのときに話をしたおばあさんは歌のお礼を言ってくれたり、私の保育園での話を聞いてくれたりととても楽しい時間を過ごしたのを覚えています。歌の練習の時は本当に喜んでくれているかや、プレゼントは歌でいいのかなと思っていましたが、一生懸命皆んなで作りあげてきた歌だったし、歌だから伝わる思いがあったのだと思います。こうやって体験して、感じたこと得たことは五つあります。
　一つ目は、中学生になった今でも記憶にはっきりと残っていることです。私は、保育園の思い出はと聞かれると発表会や、プール大会と言うけれど内容をはっきりと覚えていることが少ないのでこれだけはっきりと覚えているという思い出が残っていて、人の気持ちや会話をすることの楽しさを分かれる気持ちを得ることができました。
　二つ目は、本気でやることの大切さです。歌をプレゼントしたことがあって学べたことだと思えます。その歌を一人が本気でやっていなかった場合きっと聴く人からしたら、へただなとか、練習不足だとか思われるでしょう。でも、歌った後に上手だとかお礼を言ってくれるほど聴いている人の心に届いたのだなと思いました。それは、一人ひとりが本気で練習していたからだと感じました。
　三つ目は、交流の大切さです。交流の大切さを知る機会は少ないと思います。けれど、この保育園の体験を通して交流の大切さを知れたと思います。交流が大切だと思った理由は、相手も自分もうれしいことです。相手も喜んでくれたし、そんなに喜んでくれたら自分もうれしくなるので、互いにデメリットがなくいいことばっかりなのでそこが交流の大切さだと思います。
　これからは、保育園の行事みたいに行くことがないと思うので、自ら自分で積極的にボランティアなどに参加したいです。

「福祉について」

中萩中学校　１年　　鴻上　宋一郎

ぼくは、福祉についてしらべてました。福祉のことを書くにつれて、福祉について色々としらべてみました。

福祉とは、しあわせとも言います。「福」と「祉」の両方には、どちらにも、「幸せ」というのがいれられています。「しあわせ」のためにそれぞれの人たちが知恵をだしあったりするという意味があります。その次に、福祉とは、どのような仕事なのかをしらべてみたところ、福祉の仕事とは、介護士、保育士、社会福祉士といった対人援助職を指します。生活するうえでサポートが必要な人々を支援する仕事でやりがいを感じられる場面が多いのが特徴です。次は福祉の仕事で得られるやりがいは、人の役に立って社会に貢献できます。福祉の仕事は支援対象者の悩みを解決して、より良い暮らしを実現するサポートをすることなので、社会貢献度が高く人の役に立っていることを実感しやすいです。福祉の仕事を利用者から感謝の言葉をもらえてして楽しいしごとです。

介護士、保育士、社会福祉士といった福祉の仕事は対人援助職なので、人に感謝されることが多々あります。だからしてたのしい仕事なのです。福祉というのは、介護のしごとだったりして感謝されたりして、すごくやりがいのあるしごとです。だから、きょうみのあるかたは、してみてはいかがでしょう。やってみたらいがいとたのしいとおもいます。

ぼくは、ふくしのしごとややりがいのことをしらべてみて思ったことは、さいしょはふくしって何かとおもて、なにもきにしてなかったけれど、ふくしのことについてわかってすこしきょうみがわきました。じぶんでもやってたのしそうだなと思う。しごとでした。みなさんもきょうみがあるかたは、やってみてくださいとてもやりがいのあるしごとだし人たちにかんしゃされたりとすごくやっていいしごとなので、ぜひやってみてください。このように、これがぼくの福祉の作文です。

「ふくしとは何だろう」

中萩中学校　１年　　島　貴大

ぼくは「ふくし」が何かあまり分からなかったのでスマートフォンで調べてみました。ふくしとは、しあわせ、幸福、生活の安定や充足などのことを表すようです。

僕はあまり福祉について興味がありませんでした。しかし、小学６年生の時に僕が福祉委員会に入りました。そのころから、福祉に関する事をしました。例えば、ぼ金活動や、赤い羽根をみんなに配るなどの仕事をしました。朝早くから学校へ行き、同じ委員会の子たちと協力しました。少ししんどかったけど、いい思い出にもなっています。

今でも、コンビニや、ショッピングモールなどに行ったとき、ぼ金箱を見かけたりしたら、なるべくぼ金をしています。その時、僕はぼ金は、人のためだけではなく、犬やねこなどの動物のためのぼ金活動があることを初めて知りました。その後に動物

好きな友達に伝えると、「そのぼ金箱を見かけると、ぼ金している」と言っていました。それを聞いて僕はすごいなあと思いました。僕もぼ金活動などを続けていきたいと思います。

僕の母はかいご職員だそうです。母に「かいごってどんなことするん？」と聞いてみました。母は、「おばあちゃんやおじいちゃんのおふろに入るのを手伝ったり、トイレをするのを手伝ったりしている」と言いました。僕はその日かいごを具体的に知りました。かいごは母によると、楽しいらしいです。僕はしたことないのでまだ分からないけど、またいつか、かいごにふれることがあったら、このかいごは何かというのを思い出せるといいなと思います。

僕は、小学６年生に福祉について、友達と少し体験してみたけど、すごく協力できるし、仲が深まります。福祉という言葉を聞くと、すぐには思いうかばなかったけど、このような経験をすると僕はぼ金ということがまっ先に思いうかびました。難しい言葉だけど、調べてみると、とても大事なことに気づきました。福祉が気になった人は調べてみてください。

「福祉について」

中萩中学校　１年　　神野　連

僕はこの作文をかくまで福祉についてあまりよく知りませんでした。福祉について調べてみると、最低限の幸福、社会的援助をすることということがわかりました。

僕は今まで福祉というものをきいたことはあるけど、難しいものだと思っていたけど、身近なところにあふれていました。例えば職種でいうと、保育士、介護福祉士、ケアマネジャー、手話通訳士などがあります。

保育士は、お父さんお母さんの補助的な役割があり、子どもの世話をしたり、大切なことを教えたりします。

介護福祉士はおじいさんおばあさんの世話や手伝いをしたり、要介護者の自立生活を支援するために声かけをしながら横で見守ることも介護福祉士の仕事です。

ケアマネジャーは介護福祉士と似ているが、介護者の状況に応じて介護サービスのプランを作る人のことです。

手話通訳士は、耳のきこえない人とコミュニケーションをとったり、情報の共有をしたりするときにかつやくする人です。言語ではなく、手の動きで表現します。それ（手話）と似たもので点字があります。手話と点字は僕自身が小学生のころに授業でならいました。そのときはあまり深く考えず、ただ初めてのことだったのでよく分からず楽しい授業だと思っていました。思い返してみれば、僕は知らず知らずのうちに福祉に関わっていたのだということがわかりました。

日々の生活の中でささいな福祉はたくさんあり、不自由にしていることに対しておてつだいすることです。これはお店であったり、学校であったり、たくさんの場面であります。お店では、車いすの人や買い物をたくさんした人など動きに制限がある人がエレベーターに乗るときにボタンを押していてあげる事、学校でも、車いすのスロープなどが作られて、体の不自由な人でも、過ごしやすいいようになってきています。

どんな小さな事でもいいので僕たちが日々できる福祉をやっていきたいです。

「福祉についての体験から得たこと、考えたこと」

中萩中学校　１年　　上野　りつ

私は一度お母さんが仕事をしている場所に行って障がいを持っている人と会話などをしたことがあります。その時私は小学３年生でした。障がいについてよく分かっていない私は心の中でなんでこの人たちは話しかけても答えてくれないのだろうと疑問に思いました。その日私は初めて障がいとはどういうものなのかを知りました。自分が知らないだけで身近に障がいを持っている人がいると分かりました。

ある日私が友達と公園で遊んでいた時に、車いすに乗っている人がいました。その人は困っている様子だったけれど私はそのまま友達と遊んでしまったのです。今ではあの時、声をかけて助けてあげられていたらなと後悔しています。その時私は今後困っている人、障がいを持っている人を見つけた時は、自分から勇気を出して声をかけ少しでも力になれるよう心がけようと思いました。また周りの人が障がいを持っている人の事を悪く言っていたりした時にも、注意して障がいを持っている人でもみんなと一緒に楽しく過ごせるような世の中にしていきたいです。障がいを持っているからではなく、障がいを持っていても普段人と話している時のように接することを心がけることを忘れず、常に意識して生活していきたいです。

障がいを持っている人は自分が好きでなったわけではない、その人なりに頑張って周りになじめるように生活していると私は思います。だから障がいを持っている人に対して傷つく事や、いじめにつながることはしない、もしそのような場面を見た時はその人の支えになれるようにしたいです。また障がいを持っている人に対して言いたいことがあっても悪い事は言わないようにして、相手の心が傷つかないよう心がけたいです。これは、障がいを持っているからではなくだれに対してもこのようにしたほうがいいと思います。このようなことを忘れず、みんな公平に楽しく過ごせる世の中を作っていきたいです。困っている人の力になれるようこれからも意識して過ごそうと思います。

「福祉についての体験から得たこと、感じたこと」

中萩中学校　１年　　大塚　杏

私は、今まで、いろいろな体験をすることができました。体験したことは全部で三つあります。

一つ目は、車いすに乗ったことです。私にはひいおばあちゃんがいます。ひいおばあちゃんはたくさん歩くのがしんどいので、車いすに乗っていました。そして、休け

いの時に少しだけ、車いすをかりて、乗ってみました。
　私は初めて車いすに乗ってみて、立っているときと、視界が全く違うし、手で少しの坂をのぼってみると、とても疲れました。車いすは、足の不自由な人や高れいの方たちものるので、いつも運転しているのは、ほんとにすごいなと思いました。
　二つ目は、小学校のときに耳の不自由な人が手話で私たちに話してくれたり、歌を歌うときには、手話をつけて歌ったりしました。他にも、自分の名前を手話で表したりもしました。
　手話で話すことは、ないのでこういう体験ができて、よかったと思いました。手話も少しだけ覚えているのがあるので、これからの生活に役立ったらいいなと思います。
　三つ目は、目の不自由な人が学校に来てくれて、みんなに話をしてくれて、点字のことなどもよく知ることができました。教科書とかにも、点字があったり、歩道などには、点字ブロックがありました。また、学校で目をつぶって人のかたを持って歩いたりして、よく分かりました。
　私は、目の不自由な人が話してくれたことなどを、忘れないようにずっと覚えておきたいです。日常の事をよく思い出すと、エレベーターや、洗たく機、ジュースなどの缶に点字があったりしました。授業でも点字のことについてもやりました。点字ブロックもよく見たことがあって、４本線の点字ブロックは、進めという意味で、点々の点字ブロックは、止まれという意味があります。私は、目をつぶって歩いてみると、人のかたを持ってゆうどうをしてくれているのに、目をつぶっているから、足元が見えていなくてとても怖く感じました。
　私は、これまでに、改めてたくさんのいろいろな体験をしてきたんだと、実感することができました。車いすに乗っている人や、耳の不自由な人、目の不自由な人のことなどを前よりもっと知ることができて、よかったと思いました。これからもっといろんなことについて知っていきたいです。

「私の弟」

中萩中学校　１年　　瀬野　珀瑚

　私には、小学４年生の弟がいます。弟はみんなの弟とは少し違っていて歩いたり、話したりすることができません。でも、笑った顔はとても可愛いです。嫌なときは声を出して怒ったりもします。弟は、アンパンマンやドラえもんが大好きでケラケラ笑いながら観ています。これが私の弟です。
　私が小さい時、お母さんが弟には生まれつきの病気があり、障がい児だということを話したことがあります。私はその時、皆と違うってどういうことなのかなと不思議な気持ちだったことを覚えています。友達の兄弟が歩いたり喋っているのを見て、弟も歩けるようになったらいいなと思うこともあったけど、今は歩けなくても、話が出来なくても、弟なりの反応で感情表現をしているから、今の弟のままでもいいかなと思います。
　家族で買い物に出かけると、周囲の人が弟をじっと見ながら通りすぎることがあります。子供も大人もじーっと見てきます。私も両親もその視線に気づきます。お母さ

んがお父さんに、「ジロジロ見てくるよね！気になるなら聞けばいいのに。そしたら、可愛いでしょ！って言うのにね。」と話していたことを覚えています。私は、あまりジロジロ見られることは、好きではないけど見たくなる気持ちが分からなくもないです。街中で高齢者以外で、車椅子に乗っている人を見ることは少ないので気になると思います。他にもごはん屋さんで、注入していると視線を感じます。弟は、歩けないだけではなく医療的ケア児といって胃ろうという、胃に直接ペースト食を注入する医療的ケアが必要です。見た目は点滴をしているように見えるけど、ごはん屋さんで点滴をしている人はまずいません。何しているんだろうと思います。

弟のように医療的ケアや体に障がいがあっても、家で暮らしている人はたくさんいます。医療的ケアが必要だから、歩けないから、という理由で、出来ないこともたくさんあります。でも、「一緒にがんばろう！」と応援してくれる人もたくさんいます。病気や障がいがあっても、なくても、人はそれぞれ多様性のある存在として、みんなが特別な一人として愛されながら存在しているということを弟の存在を通していつも感じています。

どこかで手助けを必要としている人を見かけたら手を差し伸べ、一人では出来ないこともみんなでなら出来た！という経験に変えられるのかなと思います。そんな社会になればいいなと思います。

「障がい関係なしで生きられる世界」

中萩中学校　１年　　田上　桜空

―障がい。小さい子ども。高齢者。福祉。この四つを聞きあなたはなにを思いますか。

みなさんは『福祉』とはどういう意味か知っていますか。福祉とは『しあわせ』を意味します。『しあわせ』のためにそれぞれの人が力や知恵を出しあう『仕合わせ』という意味もふくまれています。

私の両親は『福祉』に関係する仕事をしています。母は保育士、父は障がい児通所施設で働いています。そこで私がベースに書くのは父の仕事で、この仕事を簡単に言うと『障害がある子の学童』です。通っている子は、色々な障がいの子がいます。コミュニケーションが苦手な自閉症の子、落ちつきがないＡＤＨＤなどの様々な子がそこだけではなく世界中にいます。芸能人の人も障がいをもった人は多くいます。

私の父は、障がいをもっている子の将来を考え、イベントに行ったり話したりなどということをしているそうです。一人一人の子の個性を大切にしながら、その子の好きなところやしんどいところをスキルアップさせて、将来その子が困らないようにするために、いろいろなことを経験できるような環境をつくっているそうです。私はこの話を聞いて、あらためて敬服しました。

私は障がいはその人の個性だと思います。私の友達にも障がいをもっている子がいますが、その子は好きなものに対しての関心意欲が高く、私に色々なことを教えてくれます。正直、私は「すごいなぁ」と思って聞いています。けれど、障がいをもつ子との関りを嫌がる人や、少していこうがある人もいます。私は基本的に色んな人と仲

良くなれると思っているので、そういうことはないですが、そのようなことを発している人がいて、私は少し残念な気持ちになりました。

私は、障がいなど関係なく暮らせる世界にしたいです。話してみると、とても特化している部分もあり、とても楽しいんです。でもまだ、関係なく暮らせる世界にはなりません。まずは、少しでも知識をもって接していける人を増やしていくことが重要だと思います。名前だけでも知って、少しでも理解する。そして、まだ、残っている『へんけん』をやめて、楽しく生きられる世界、まずは市から始めていきたいです。

「幸せに生きるために」

中萩中学校　１年　　二神　結菜

「みんなが幸せに生きていくためには」と聞いて私が思うことは、障がいのある人と障がいのない人が協力する、「介護」が必要なのではないかと思います。

私の母は介護施設で働いています。母は介護福祉士の資格を持ち、介護の仕事をしています。介護の仕事は、お年寄りや体などに障がいのある人たちが苦労なく生活できるように手伝う仕事だそうです。母の仕事はとても大変だと思います。母は週５日朝８時から仕事をし、遅い時は夜の８時くらいに帰ってくる日もあります。今のご時世で言うと、利用者さんがコロナになってしまうと責任も取らないといけないので、感染対策をしたり注意しないといけないと思います。

母の仕事は大変だと思いますが、今の高齢化社会になくてはならない仕事だし、お年寄りや障がいのある人たちが幸せに生きていくためにもこの仕事は大切だと思います。

私は、たまに母の仕事場にお邪魔させてもらっている時があります。母が仕事をしているところを見ていると母は、利用者さんと楽しくお話をしていたり、一緒に体操をしたり裏でパソコンで仕事したりなど色々なことをしていました。今までどんな仕事をしているかは聞いたことがありました。ですが、母が仕事をしているところを、自分の目で見ていると、この仕事は大変だけど母はやりがいを感じてそうだなと思いました。

なぜなら、利用者さんに優しく笑顔で話しかけたり、同じ仕事仲間の人とも親しく楽しそうに仕事をこなしているからです。

私の家の近所には、母の介護施設を利用している方がいます。その方はお年寄りの夫婦です。そのため、私は見守りのような感じで気をつけていることがあります。それは、その夫婦に会ったときは毎回優しく笑顔で声をかけてあげる。そのときは出来るだけ、相手に聞こえるように大きな声で話す。ということです。

なぜなら、別に仕事などは関係なく、見守りとして「みんなが幸せになるためにやりたい。」と思い、始めました。

こうやって、みんながだれかを手助けすることで、この地球上に生きている一人一人が「幸せに生きていくことができる」のではないかと思います。

「福祉問題」

中萩中学校　１年　　山下　華暖

私は福祉問題についてを調べました。まず福祉とは、安心して社会生活を営めるように、公的な支援を行う制度のことを言います。

今は、福祉問題が昔と比べると、とても増加しています。その中でも高齢者の増加や生活不安の増大、犯罪や事件などが主な問題になっています。

まず、高齢者が増加する原因は、二つほどあり、一つ目は、医療の発展や生活の変化で日本の平均寿命が延び続けている事です。二つ目は、少子化の進行です。この二つが原因とされています。次は生活不安の増大です。生活していときに不安だと感じる事は、お金について、収入が増えない、毎月の家計についてなどの不安を持っている人が多いです。犯罪や事件については、昔と比べると大幅に減少しています。その減少している理由とされているのが少子高齢化によって検挙人員が対象的に多い若者の人口が減少しているからです。

これらの事から色々な解決策があり、高齢化の増加に対しては、人々の意欲、能力を生かすエイジレス社会を目指す、生活基盤を整備し、地域コミュニティを作るなどがあります。生活不安の増大に対しては、カウンセリング（相談）する、合理的に解決出来る方法を考えてみる、自分が生活している中で上手くいっていると思う事を見つけてみるなどがあります。事件に巻き込まれないようにするには、夜間の一人歩きは避ける、防犯ブザーを持ち歩く、不審者やあやしい人に声をかけられたときにどうしたらいいかを調べておく、あやしい人を見つけたら逃げるなどがあります。

このように、福祉問題について考えたり、自分に出来る事は一つでも多く実践したり、自分達に出来ることを自分の身近な人達に伝えてそれを広めるということも大切だと思います。私も自分にできる事は実践したいです。

「認知症」

中萩中学校　１年　　若山　璃奈

みなさん福祉とは何か知っていますか。福祉とは、みんなが幸せになれるように取り組む活動や仕組みのことをいいます。私はその事を知った時自分も何かできないかなと思い認知症の事を思い出しました。

私は学校の授業や、本などで認知症についてくわしく知りました。認知症は若い年齢の時からなる人もいます。８０歳以上になると男性の３５％女性の４４％の人が認知症になっています。認知症になると数時間前にあったことを忘れてしまったり、人や物の名前を忘れたり、今までできていたことができなくなったりします。私の家族や親せきには今認知症になっている人がいないので私は調べながら想像しました。例えばおじいちゃんがさっき夜ご飯を食べたのに食べたことを忘れて食べてないと怒ります。私は食べたよと言うんじゃなくて果物をあげたり、納得するまでよりそってお話しします。ほかにもおばあちゃんが私の事を忘れてとまどっている時も私は、そば

によって「私は孫の璃奈だよ」とまた納得するまでよりそいます。
　私は本で、認知症なった人の思いを理解して、本人の立場になって考えたり話すことを知ったので、もし家族が認知症になったら、よりそって話そうと思いました。
　学校の本にあった物語では主人公の女の子が自分のことを忘れたおばあちゃんにどなったり自分の気持ちをぶつけておばあちゃんが泣いてしまったり認知症の症状が進んでしまったりとだめなことになっていたので私はそれを参考にして前もって対策を考えたり、認知症の人にがみがみ言わないようにと自分の心に言いきかせたいと思います。
　認知症は軽い病気だと思っている人もいると思いますが、認知症の終末期として誤えん性肺炎や衰弱死などによって命をおとすこともあります。
　私は長い間、家族や親せきの人といるためにもこの作文に書いたことをし、みんなによりそって生活していきたいと思いました。

「福祉についての考え」

中萩中学校　２年　　杉　凛叶

　まず福祉とは何かについてです。福祉とは幸せを意味する言葉です。人間が幸せになるためにする事を、福祉活動や社会福祉援助と呼びます。例えば、高齢者の方を補助するための福祉施設や福祉サービスなど様々なものがあります。大きな枠組みで言えば高齢者だけでなく、身体的に不自由な方であったり、小さな子どもだったり、誰かの助けがないと生きていけない何らかの事情を抱えた方を救済するのが福祉です。つまり、困っている人を幸せにするのであれば、それは立派な福祉活動です。
　ぼくにはひいおじいちゃん、ひいおばあちゃんがいます。歳は９０をこえていて、入院をしたことも何回かあります。最近は体があまり動かなくなり畑仕事もやめてしまいました。ぼくは月に何回か家に行ってそこで泊まったりします。その時に食べるひいおばあちゃんの料理がおいしかったけど、今は作れなくなりとても残念に思いました。
　高齢者の人口は年々増加しています。そのため少子高齢化が一つの社会問題となっています。その大きな理由は日本の医療の発達です。自分は関係ないと思っている方も多いと思います。しかし高齢者のことを考えるということはとても大切なことだとぼくは考えました。関係ないと思っている人も自分が高齢者になった時の社会はどうあるべきかしっかり考えるべきだと思いました。住みやすい環境や社会をつくっていくそれが今の若者にある仕事ではないのでしょうか。今、大切なのは身のまわりにいる高齢者を考えてあげることだと思います。今の高齢者はぼくたちよりもはるかに社会に貢けんしてきたと思います。なのでぼく達は感謝の気持ちを伝えながら接することがいいと思います。そして、それは福祉について深く考えることにもつながると思います。今、ぼく達がすべきことは高齢者の住みよい社会、環境をつくり、高齢者との正しい接し方をすべきだと思います。ぼくは今回、高齢者の考え方、見方を大きく変えました。

「福祉についての体験から得たこと感じたこと」

中萩中学校　２年　　伊藤　紗樹

みなさんは、障がいを持っている人々の生活について考えたことがありますか。私は、テレビや本の中で見た事はあれど、自分には関係のないことだと思い、日常的に考えることはあまりありませんでした。ですがある日ふと、自分や自分の周りの人たちが身体に障がいを持っていて、現在とは違う暮らしをしていたら、私の生活はどのように変わっていたのかと気になりました。そこで、実際に障がい者の方の生活を見て、福祉についての自分の考えを深めたいと思い、身近にある福祉施設へのボランティアに参加しました。この施設で行っているサポートは、入浴や排せつ、食事といった生活に必要不可欠なものから、自立や就労などの訓練を行うもの、また、移動や外出などの社会参加を支援するものなど様々で、障がい者の方の特性や希望に合わせて変えていくそうです。今回のボランティアではそれらのやり方や障がい者の方々との関わり方を学び、実行することが目的です。

実際にやってみると、思っていたよりずっと大変だということが分かりました。人の体を支えたり、体力が求められることもそうですが、周囲の人たちと信頼関係を築いたり、一人でたくさんの業務をこなさなければならないことも理由です。このような仕事を毎日のようにしている施設の方々はすごいんだなと思いました。ですが、大変なのは支援をする側だけではありません。障がいを持っている人々が日常生活の中で困ることは食事や入浴だけではなく、公共機関などでも起こります。肢体や視覚、聴覚などに障がいを持っているとさまざまな場所で不便だと感じることに出くわすことが多いので、私たちは積極的に周りを見て、困っている人の手助けをすることが大切なのだと思います。

施設の中でも、実際に彼らと同じ生活をしてみて、食事や排せつなどをしている風景を見ました。自分だったらこういった生活はなかなか厳しいと思いましたが、その当事者である彼らはとても楽しそうに暮らしていました。私は、今まで障がい者について自分が思っていたよりもずっと明るく精いっぱい生きていること、それを一生懸命に働いて支えている人たちがいることを知りました。私もそのことを忘れずに人と協力して生きていきたいです。

「自分らしく生きる」

中萩中学校　２年　　大野　栞

私は、去年の１０月頃あるドラマに出会いました。そのドラマは、耳の聞こえる聴者と耳の聞こえないろう者が８年ぶりに再会するお話です。このドラマを見ようと思ったきっかけは出演者さんの中に私の大好きな人が居たのでその人を見るために見ようと思ったからです。

私は、このドラマを見て心に残った言葉があります。その言葉はろう者である想が

大学のセミナーで生まれつき耳の聞こえないろう者である奈々と筆談で話をしている時に言った奈々の言葉です。「私は生まれつき耳が聞こえない。でも幸せ。」「音がなくなることは悲しいことかもしれないけど、音のない世界は悲しい世界じゃない。」「私は、生まれてからずっと悲しいわけじゃない。悲しいこともあったけど、嬉しいこともいっぱいある。」「それは聴者もろう者も同じ。あなたも同じ。」この言葉はすごくすてきだなと思いました。中途失聴者である想はまだ聴者でもろう者でも無く一人で人生をさまよっていました。私は、音楽が大好きなのでもし自分が聞こえなくなって奏でられなくなる、と考えると生きる希望を失ってしまいそうなぐらい絶望しました。それでも奈々は、笑顔で想に語りかけ、まるで希望を失くさないでと明るく振舞っていました。ここでびっくりしたのは聞こえても聞こえなくても明るい人、心をふさいでいる暗い人、様々な自分を生きている人がいて本当に生き方というのは人それぞれという事です。私はよくあれは自分のせいでだめな空気になっちゃったなとかあんなこと言わなかったらよかったなとネガティブな思考になるときがあるので奈々の生き方がすごくいいなと思いました。

このドラマに出会ってから私は前よりも自分の生き方を見直す機会が増えました。たとえ何か人生の壁をかかえている人でも明るい未来を見すえている人もいて、それなら私はその人よりももっと幸せになってやる、と思えるようになりました。自分らしく、というのを大切にこれからの人生を歩いていきたいです。

「ふくし」

中萩中学校　２年　　髙橋　璃乃

私の曽祖母は、グループホームの福祉施設でお世話になっています。

グループホームとは、社会的弱者が少人数で支援を受けながら一般住宅で生活する施設。高齢者や重度障がい者を主とした介護施設から、軽度障がい者や親と同居不可能な子供などが共同生活を行うシェアハウスのようなもの、アパートのような集合住宅まで様々である。社会的介護、養護の一形態となります。ほかにどんな施設があるかと言うと、有料老人ホームが三つあります。一つ目は、介護付き有料老人ホームです。介護付き有料老人ホームは主に介護を必要とする高齢者が、生活支援を受けながら居住するための施設です。食事、洗濯、清掃等の生活支援、排せつや入浴等の身体介護、機能訓練レクリエーション、サークル活動などのサービスを受けることが出来ます。「介護付き」と表示できる施設は「特定施設入居者生活介護」の指定を受けた、介護サービスの提供基準を満たした施設のみになります。次に、住宅型有料老人ホームとは、ホームのスタッフが介護サービスを提供しない点が介護付き有料老人ホームとの違い。そのため、入居者が要介護となった場合は訪問介護などの在宅サービス事業所と契約する必要があります。訪問介護事業所やデイサービス、居宅介護支援事業所などが併設されているなど入居者が在宅サービスを受けやすく配慮されている点が特徴です。身の回りのことは自分でこなせる高齢者が入居できます。元気な状態を維持することを目的とした設備が充実しており、温泉やスポーツジムなどがついていることもあります。要介護になった場合は退去することになりますが、移動先の施設が

隣接している健康型有料老人ホームもあります。グループホームは、中等度までの認知症の高齢者が対象。５～９人の入居者同士で家事を分担して共同生活を送ることができる。入居までにしばらく待機が必要な場合もあります。有料老人ホームは、要介護度に関わらず高齢者全般が対象している。介護設備や介護サービスが整備された施設で生活する。施設数が多いのですぐに入居できる場合もある。グループホームで働いている職種は、介護職員、入居者さんが快適な生活を送れるように手助けをするのが主な業務です。計画作成担当者は、入居者さんの介護計画を作成するのが主な仕事です。管理者は、グループホーム全体の管理を行います。有料老人ホームは、管理者、ホーム全般の管理・運営を行う。ケアマネジャー、主治医や家族、利用者の状況をふまえてケアプランを作成する。生活相談員、入退去・入退院の調整や生活相談、事務代行業務などを行う。介護職員、日々の介護業務や、レクリエーションなどを担当する。看護職員、健康管理業務、機能訓練補助業務、投薬などを指導する。機能訓練指導員、心身機能維持向上のためのプログラムを作成・実施する。栄養士、ケアマネジャーと相談の上、献立の作成や栄養管理などを行う。

私は、このことを生活にいかしていきたいです。まわりの人たちは、どれだけたいへんなのか、しんどいおもいでしているのかがわかりました。自分が大人になっていって親を見るときがきたらこのことをいかしていきたいです。自分にできることをこれからもしていきたいです。

「ふくしについて」

中萩中学校　２年　　佃　美羽音

私が「ふくし」について聞かれたら、募金活動のことを始めに考えると思います。小学校や中学校のときの募金活動以外では「ふくし」についてふれることが私にはなかったからです。

私は募金は、困っている人やワクチンがうてない人のためのワクチンを買うために使われると思っています。この他にも、たくさんあると思うけど私が十円募金するだけで誰か１人でも命が救われるならうれしいなと思います。

最近中萩中学校では、戦争中で苦しい思いをしている子どもたちのために使わなくなった古いおもちゃや人形を集める活動をしていました。生徒会役員の人が中心となってやっていたけれど、私のクラスでも持ってきている人がいてすごいなと思いました。私は募金するのが一人とか少なかったらどうしよう、恥ずかしいなと思ってしまうので、とてもいいことだなと思いました。

この作文を書いたことをきっかけにもっと「ふくし」のことを勉強したいと思います。募金をするにしても、募金をしたお金がどの国のどんな人や物のために使われるのか知っておかないと募金したときに私は何のために募金をしたのだろうと思ってしまうと思ったからです。そして、募金活動以外にも自分にできそうなことがあれば積極的に取り組んでいきたいなと思います。でも、今までにもなじみのある募金は一人じゃなくても、家族や友達とも一緒に参加できたらいいなと思います。同じ地球に住んでいる人どうしで共に協力し合い、助け合って生きていけたらいいなと思います。

急に遠くにいる人から助けるのではなくて、身近な、家族・友達から助け合いの輪を広げていって、みんなが笑顔で過ごせるようにしていきたいです。自分の周りにいる人も、募金をしてつながれる人もみんなが楽しく笑って暮らせる世界がいつかきたらいいなと思います。そのための道を今日から歩いていこうと思います。

「ふくし」とは

中萩中学校　２年　秦　陽愛

私がこのテーマを選んだきっかけは、以前に私の母が介護の仕事をしていて長期休みの日は職場について行っていました。そこで少しですが興味を持ちました。

介護の仕事は簡単な仕事では決してありません。何をはなしているのか分からない人。はなしがかみ合わないことがずっと続きます。そんな中でもてきぱきと行動し、余っている時間を無駄にせずに精一杯仕事をこなしている介護職員の人達はとってもかっこよかったです。介護職員の人達は周りがとてもよく見えていてすぐに行動できていました。利用者の人達に寄りそって安心してもらえるような優しい声かけをしていました。私にもそんな対応力が欲しいなと思いました。

また、介護は「利用者のできることをすべて奪う」と言っている人、SNS(インターネット)にかき込んでいる人もいます。でもそれは違うくて介護職員の人達は「利用者本人の持っている力をできるだけ保ち、誇りをもって暮らし続けていけるように支援する」といったことを重視されているので、あくまでもその人ができないことを支援しているので、「利用者本人のできることを奪う」ということは絶対に言ってはならないことです。

私はこのテーマ「ふくし」のことをかくことで以前に疑問に思っていたことを思い出せて良かったです。私は実際にはたらいている介護職員の人達を目で見て、決して簡単なことではなく、とっても大変なことだと思います。何も知らない外部の人達が悪く言ったり、偏見、差別、変な目で見たりするのは良くないと思いました。『介護福祉士』という仕事は、すばらしい仕事です。

しかし、現在では介護士になる人は年々減少してきています。こんなすばらしい仕事が無くなってしまうと、仕事をするしせつも無くなってしまいます。無くなってしまうと利用者の人達が大変な思いをすると思います。利用者の人達の家族の人達も大変になると思います。私にも夢があるので私にはその職につく人が増えることを願うことしかできませんが、できることをしていきたいです。

「障がい者の方、高齢者の方と上手なコミュニケーションをとるために」

中萩中学校　２年　　眞鍋　怜亜

私は、福祉と介護の仕事に興味を持っています。なぜなら、誰かのために働けるからです。最近、高齢者の方、障がいのある方の生活を支える仕事が気になったので調

べてみました。
　まずは、障がいのある方です。障がいの種類は主に四つあります。一つ目は、身体障がいです。これは、体に障がいのある人のことです。二つ目は、知的障がいです。これは、子供のことからの成長のおくれがある人のことです。三つ目は、精神障がいです。これは、見た目では分かりにくい心の病気です。最後四つ目は、発達障がいです。これは、コミュニケーションが苦手などの人のことです。私は、聞いたことがあるのとないのがありました。障がいのある方とは私はあまり関わったことがないので、どんな生活をしているのだろうと思いました。車いすを使っている人は動きやすいよう部屋などが広くしてあり、うまく話せない人は、上手に伝わるように工夫していました。障がいの方専用の車があってすごいなと思いました。私はこれから生活していく中で、障がいの方が困っていたら、「私だったらどんなことをしてほしいか。」や、「どう思うか。」を考えて行動したいです。思っていることは障がいがあってもなくても同じなので、して嬉しいことを進んでしたいです。
　次に、高齢者との関わり方です。介護にはコミュニケーションが大切です、コミュニケーションは、共有する事、わかち合う事を指します。とても大切なことです。
　よく、高齢者の方が自分が言ったのと違うことを言って話が合わないことがあると思います。これは、聞こえにくくなるからです。他にも、目が見えにくくなったり、骨折しやすくなったり、足が曲がりにくくなったりなどたくさんあります。個人差はありますが、これはだれにでも起こる変化です。では、私たちは高齢者の方と話す時、どんなことに気をつければ良いでしょうか。ゆっくり言ったり、視線を合わせたり、表情をうまく使ったりなど色々なことができます。そして、大切なことは、一つ目、あいさつをする。二つ目、ゆっくり話す。三つ目、大きな声で。四つ目、うなずき、あいづちをする。五つ目、オウムがえしをする。六つ目、感謝を忘れない。の六つです。認知症の人は、同じことを何度も聞く、言葉が出にくい、などがあります。その時、私たちはイライラせず、一緒に考えたり、質問に答えたりして、気持ち良くするのが大切だと思います。
　私は、障がいの方、高齢者の方と会ったら、自分にできることは進んでして、おたがい良い気持ちでいられるようにしたいです。そして、将来のためにも学んでいきたいです。

「福祉について」

中萩中学校　２年　伊東　美羽

　私は、福祉について調べました。きっかけは、職場体験で社会福祉士という仕事を知り福祉についてもっと知りたくなったからです。私が福祉と聞いて、すぐに思いついたのは、介護です。祖父の母が老人ホームに入居していて、よく訪ねていたときに、母が介護福祉士たちについて教えてくれたからです。しかし、調べて見ると、他にも福祉のお仕事がたくさんあることが分かりました。例えば、ケアマネジャーや心理カウンセラー、保育士さんも福祉のお仕事にふくまれるそうです。私が知らないだけでも、福祉に関する仕事がたくさんあることにとても驚きました。私が知っている

保育士さんなどの仕事から、社会福祉士などの私が知らない仕事まで、色々な仕事が福祉に関わっている事が分かり、福祉や福祉のお仕事は社会になくてはならない、とても大切なものなんだと実感しました。

私は、福祉のイメージとしてあまり身近なものではないと感じていましたが、町でよく見る障がいをもつ方専用の駐車場や、点字ブロックなども福祉の一環であることや、町の中にも、福祉に関するものがたくさんあることを知り福祉は普段私が見ているところで存在する身近なものだと感じ町の中で、ユニバーサルデザインや、バリアフリーを見つけたくなりました。福祉は、お年寄りの方のためだけではなくこの国で暮らすすべての人に平等にあたえられているものでありけっして遠いものではないと福祉を調べて分かりました。

福祉の名前の意味には、幸福、ゆたかさという意味があるそうです。福祉は人権と同じで、生まれた時から皆にあたえられたものであると分かりました。なので福祉は自分には全く関係のないものではなくて、自分から誰かのために何かをしたり、人のことを大切にして生活するというのもりっぱな福祉なんだと思いました。今まで私は福祉はつらいものだというイメージをもっていましたが、本当はもっとあたたかいものだと分かり、もっと福祉について知りたくなりました。私のように福祉をつらいものだと思っている人もたくさんいると思うので、これからは、福祉のすばらしさをたくさんの人に伝えていきたいです。

「少子高齢化を防ぐために」

中萩中学校　２年　　藤原　瑠香

今日本は高齢化が進んでいる。高齢化が今のまま進むと、労働力人口の減少に加え、高齢者人口が増加することから、総人口に占める労働力人口の割合が低下すると考えられる。そうならないために、今私達にできることは、一、政治に興味を持ち、積極的に選挙投票をする。二、家族や友人、同僚など、自分を取り巻く人々の多種多様な生活背景や価値を知り、尊重する。三、自分に合った仕事や働き方を見つけることで就労を継続し、経済や社会保障を支える。などできることがたくさんありますが、今１４歳の私達ができることは少ない。

次に医療や介護での人手不足だ。現在の日本では、少子化に伴って労働人口が減少している中で、「賃金が低い」、「仕事がきつい」とされる介護職はほかの職業の中で人材を確保しにくい仕事とされている。２０１５年に発表された厚生労働省の報告によると、２０２５年における介護人材の需要に対する供給は３７．７万人分不足すると予測されており、需要と供給がつり合っていない状況になるとされている。そして、今後ますます人手不足が深刻になると考えられている。

この事実を少しでも良くするために、最初に挙げた三つの私たちにできることを少しずつ実せんしていき、自分たちが住みやすく、居ごこちのよい地域にすることが大事なのではないのではないだろうか。

高齢化が進む今、地域が団結し、お年寄りと話したり、少しの時間過ごしたりするだけで認知症の予防になると考えられ、介護をする人が減り、みんなが楽しく過ごせ

る世の中になるのではないだろうか。
　今このような日本の現状を簡単に変えたり、自分だけの努力で全てうまくいくことは考えられないが、一人の小さな努力が、たくさんの人の気持ちを動かし、その周りの人も動き、考え、働きよりよい世の中にしてくれるのではないだろうか。
　私はそうなることを心から願っている。

「福祉の体験から得たこと」

中萩中学校　２年　河田　陽色

　福祉を一言でいうと「幸運」。私たちは福祉のために何ができるのか。身の回りの福祉な設備、例えばバリアフリーがどのくらい大切なのか。私にはそれらの疑問と向き合う機会がありました。７月にあった職場体験学習です。その７日間、私は福祉と向き合いました。たくさんの体験から感じたことがあります。
　私は職場体験学習で車椅子を自分で操作するという体験をしました。大変だったことが三つあります。一つ目はドアの少しの高さしかない敷居の部分です。タイヤが空回りして入るのに時間がかかりました。これが人の多い場所だったらかなり迷惑をかけるだろうと想像しただけで、少し怖くなりました。二つ目は、トイレの手洗い場です。そこでは小回りが必要になるので、慣れていない私には大変でした。車椅子という大きなものを使って移動しなければ、よく見る公共のトイレの手洗い場を広いと感じると思います。でも、車椅子だったら、あれくらいのスペースを広いとは感じないだろうと思いました。三つ目は自動販売機を使うときです。立って買うときは一番上のボタンも押すことができると思います。でも、座ったままだと上半身分の高さしかないので、１番上のボタンに手が届きませんでした。私はこれらの体験から、バリアフリーの大切さを実感しました。
　でも、だからといって車椅子や高齢の方のために全てをバリアフリーにするというと、これはまた違うのではないかと思います。今ある高さでいい人もたくさんいることでしょう。そう思うと、世の中の全てをバリアフリーにしたら困る人がいなくなるわけではないと、私は考えています。
　確かに障がい者や高齢者優先の考え方は必要です。でも全てを変えたら、全ての人が過ごしやすいかは分かりません。なら私たちは福祉のために何ができるのでしょう。私は協力だと考えます。困っている人がいたら声をかけて助ける。そうして、小さな温かい行動が困っていた人にとっては「小さな幸せ」として残ります。家を出ることが怖くない。何かあったら助けてくれる人がいる。そう思って外に出て思い出を作れば、今のままの設備でも満足感を得ることができます。私たちの小さな福祉の行動が、いつか私たちに大きな幸福を返してくれるかもしれない。私はふと、そう思いました。

「高齢者についての僕の考え」

中萩中学校　２年　　海田　琉斗

　僕が保育園の時、行事で老人ホームに行ったことがあります。僕は老人ホームに初

めてその時行きました。そこには、車いすに乗っている人や、リクライニングの車いすに乗っている人、ベッドで横になっている人たちがいました。僕は近所などで、杖をついて歩いている人や、シルバーカーを押して歩いている人たちを見たことがあったけれど、老人ホームにいるような人達を見たことがありませんでした。老人ホームにいる人たちは、家で生活することが難しい人たちで、僕たちが当たり前に自分で歩いたり、自分で食事をしたりすることが出来なくなってしまっている人たちなんだなと思いました。僕たちが当たり前にできていることは、幸せなんだと思いました。

去年、僕のひいおばあちゃんが亡くなりました。ひいおばあちゃんは、家で生活をしていたけれど、杖やシルバーカーを使っていて時々、デイサービスに通っていました。僕は老人ホーム以外にもいろいろな老人施設があることを、お母さんから聞き知りました。また生活するのに、杖や車いす、手すりなど、安い値段で借りられることも分かりました。

僕は、ひいおばあちゃんが立てることが難しくしていたので、先に手を貸していました。そのあとで、お母さんに「手を貸しすぎるのはよくないよ。」と言われました。本当に出来ない時に手を貸して、助けてあげるように言われました。高齢者は、なんでも手を貸しすぎるとよけいそのことですら出来なくなることがあると知りました。出来ないことは手伝い、出来ることは一緒にしてあげることが、ひいおばあちゃんにとってもよいことだと分かりました。僕はひいおばあちゃんとの関わりを通して、高齢者が生活する中で、老人ホーム、デイサービスなどいろんな施設があることが分かりそのような仕事をしている人たちがたくさんいる事が分かりました。僕はまだなりたい職業が決まってないけど、人を助ける仕事はすごいことだなと感じました。

「僕の考える福祉」

中萩中学校　２年　坂本　暢秋

福祉作文を書くにあたって、福祉とは何か考えてみた。僕の思う福祉は「人を助けること」だ。福祉とは何だろう？と思い、調べてみると、「幸せを意味する言葉」や「誰かの助けを必要とする何らかの事情を抱えた方々を助けること」、「とても広い意味を持ち、困っている人を幸せにすることが福祉の活動」などのたくさんの情報や言葉が出てきた。僕の考えは、間違ってはいないんだと思った。でも、もっと広い意味ってなんなんだろうと考えた。人を幸せにする活動、助ける活動が福祉であるならば、僕が今までにしたことのある福祉活動は「募金活動」以外は思い出すことが出来なかった。だが、他にも意識せずとも、何かで人の助けになったことはあるかもしれない。例えば、海のごみを、一つでも拾ってもち帰ると、そのことは、環境美化だけでなく、ごみ問題に苦しむ漁師の方や、魚そのものの助けになり、それを食べている僕たちの助けになっていくのではないだろうか。めぐりめぐって、結果だれかの助けになっているのであれば、それも一つの福祉といえるのではないだろうか。そう考えると、日々の何げない行動の一つ一つがだれかの助けになり、「福祉」と言えるものになっているのかもしれない。

福祉という言葉を考えたとき、パッと思いつくのは、介護や、社会的な難しいこと

に結びつけて考えてしまうことが多いけれど、もっと身近なこととして考えても、いいのかもしれないと思った。「福祉」や「福祉活動」、「福祉の気持ち」が何の変哲もない日常に拡がって幸せと笑顔が世界中に広がる未来にしていきたいと思いました。そして、一人ひとりが、「福祉」について考えなくても、自然に助け合い、結果、みんなが福祉活動をおこなっているような日常になるといいなと思った。これを実現するために、今、自分にできること、しなければならないことを、しっかり考え、笑顔のあふれる未来につなげたいと思います。

「福祉の体験で感じたこと」

中萩中学校　２年　　伊藤　妃菜

私は今まで福祉とはどういうことか知りませんでした。けれど、職場体験をきっかけに福祉のことを考えるようになりました。

私は職場体験で上部児童センターに行きました。児童センターの職種が児童福祉だったので福祉について考えるようになりました。私は福祉について知らなかったのでインターネットで福祉について調べてみました。調べると、「しあわせ」「幸福」、「生活の安定や充足」など、市民全員がしあわせになるような意味が込められていました。福祉でみんなをしあわせにするのですごいなと思いました。児童福祉は児童のみんながしあわせになることだと考えました。小さい子や小学生などが雨で外で遊べないときに、児童センターなどに来て遊べるので、子どもたちにしあわせをあたえているんだなと思いました。

私はもう一つ体験しました。それは、赤い羽根募金です。赤い羽根募金は、１年に１回ぐらい募金活動を学校でしています。私はときどき募金をしています。赤い羽根募金は、何に使われているのかを調べてみると「同じ都道府県内で、子どもたち、高齢者、障がい者などを支援するさまざまな福祉活動や、災害時支援などに役立てられている。」ということを書いていました。私は、この内容を見て、募金を積極的にしようと思いました。募金をすることで子どもたちや高齢者、障がい者の役に立つなら１円や１０円でも募金をしようと思いました。１円でも募金をみんながすると、災害時の支援のときに一人でも助かると思いました。

私は福祉がなければみんなしあわせに楽しく暮らせていないと思います。保育士や介護福祉士、ケアマネジャーなどの人を助ける仕事をしている人がいるからみんながしあわせにくらせていると思います。児童センターも無料で遊べるのでみんなに役立っています。保育士の人や介護福祉士の人たちを私はほこりに思います。私も赤い羽根募金などをしてみんなの役に立てれるようにがんばりたいです。

「ふくしについて」

中萩中学校　３年　　一井　克斗

ぼくがなぜふくしについて知ろうとしたかというと、ふくしについてまったく知ら

ないことだらけだったからです。これからの時代ふくしをすることはとても重要になってくるとおもうので、このきかいにしっかりと勉強しようと思いました。
ふくしとは、「公的扶助やサービスによる生活の安定、充足」というのがあります。
　身の回りにどんな福祉があるのかを調べると、高齢の方を支援するサービスの提供「特別養護老人ホームなど」子どもの生活を支援するサービスの提供「乳児院、児童養護施設など」障がいのサポートをするサービスの提供「同行援護、重度訪問介護など」生活をサポートするサービスの提供「宿舎提供施設、救護支援など」があります。ぼくがこの中でなじみがあるものは、高齢の方を支援するサービスの提供と子どもの生活を支援するサービスの提供です。逆に障がいのサポートをするサービスの提供と、生活のサポートをするサービスの提供はあまり知らないのでしっていきたいと思いました。
　障がいのサポートをするサービスとは、知的障害または精神障害により行動上著しく困難を有する障害者等であって常時介護を要するものにつき、当該障がい者等が行動する際に生じ得る危険を回避するために必要な援護、外出時における移動中の介護、排せつ及び食事等の介護その他当該障がい者等が行動する際の必要な援護を行うことです。
　生活サポート事業とは高齢のため、日常のちょっとした事ができずに困っている人の自宅に養成講座を受けた住民ボランティアである生活サポーターが訪問し、買い物・掃除・外出の付きそいゴミ出し等の支援を行う住民参加型の生活支援サービスです。
　地域支援サービスというのもあり、地域支援サービスとは、可能な限り地域で自立した日常生活を営むことができるよう支援することを目的として、市町村が行うものです。
　まだ福祉のことを知らないことばかりなのでこれからも調べていきたい。

「食料不足の人たち」

中萩中学校　３年　　伊藤　響生

　僕は、世界で、いろいろな人が、毎日のようにご飯をじゅうぶんに食べれていない人たちについて考えてみようと思って、この作文を書きました。
　僕が、ご飯を食べれない人たちのことを考えて思ったことは、２０２１年に、約２３億人（世界の２９．３パーセントの人）が、食料不足だということを知りました。アフガニスタンや中央アフリカ共和国、コンゴ民主共和国などのいろんな国で、食料不足に困っていることを知りました。
　食料不足の原因は、COVID－１９のパンデミックによる経済的影響などがあります。
　僕が、こういう食料不足の人たちを救うためにしたらいいなと思うことは、お金を集めて国に送ったり、食料など飲み物を送ったりすることです。そうすると、今までよりはご飯や飲み物が増えて、おなかがいっぱいに食料を食べれると思いました。
　僕が、今後の生活で変えていきたいと思ったことは、学校の給食で出たものは、のこさず食べるということです。食料不足の人たちはじゅうぶんにご飯を食べれていな

いので、食糧不足の人たちのことを考えると、のこさず食べたいなと思ったからです。次に僕が変えたいと思ったことは、日頃から、毎日の生活でいろいろ困っている人たちのことを考えて生活することです。食料不足以外でも、毎日普通の生活ができていない人もいて、困っている人もいるからです。そういう人たちのことを考えて、学校である支援に積極的に取り組んでいきたいです。次に僕が変えたいと思ったことは、学校であるいろんな行事に参加することです。一学期は、一回も参加していなかったので、二学期は、一回でも多く参加していきたいです。

僕が福祉について調べてわかったことは、いろいろな国で、普通の生活ができていなくて、困っているということです。食料不足でおなかがすきっぱなしで、とてもかわいそうだなと思いました。

僕が、福祉について調べた感想は、全然知らなかったことがわかって、学校でなんのために支援しているのかが分かってよかったです。

「いい町づくり」

中萩中学校　３年　越智　理音

福祉とは何でしょうか？

「福祉」とは、主に「公的扶助やサービスによる生活の安定・充足」という意味で使われています。

ぼくは、福祉といえば、ぼきんが頭にきます。

それでは、なぜぼきんをするのでしょうか？何らかの原因、しょうがいによって日常生活または、社会生活にえいきょうの出るような制限を受けている人や、社会生活で不便さがある人たちのために、使うひようだったりとかにぼきんのお金が使われたりすることがあります。

それをすることによってしょうがい者の人たちがすみやすい町になっていくと思います。では、これを読んでるみなさんは、「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」という言葉を耳にしたことがある方は多いのではないでしょうか。

もともと建築用語で、直やくすると「障壁の除去」を意味する「バリアフリー」や「どんな人でも使いやすい」がとくちょうの「ユニバーサルデザイン」があります。

まず「バリアフリー」とは、しょうがい者、こうれい者、にんぷや子ども連れの人などに主な焦点をあて、そうした方々が社会生活をしていく上でバリアとなるものを除去するとともに、物理的な障壁のみならず、社会的、制度的、心理的なすべての障へきに対処するという考え方のことを言います。

次に「ユニバーサルデザイン」は、しせつやせい品等についてだれにとっても利用しやすくデザインするという考え方で、ねんれいや性別人種にかかわらず、すべての人を対象としているのが特徴です。

身近な具体例でいうと、センサー式じゃロやドラム式せんたくき、れいぞうこの中のぎゅうにゅうパックの上のへこみやお風呂場のシャンプーやリンスの側面のデコボコなどがあります。

このように、ふだん何気なくあつかう物や社会的インフラサービスの中にふくしの

よう素は存在していてしょうがい者関係なくわたしたちは生活する上でたくさんの恩恵をうけています。

ほかにも、町にこまっているひとやしょうがいをもつ人と居合わせた場合、見のがすのではなく、話しかけてたすけてあげることでよりいい町づくりになっていくと思います。

僕もふくしについて色々わかりました。こうゆうことをする人たちがふえるとよりいい町になっていくと思います。

一緒にいい町づくりをはじめましょう。

「福祉」

中萩中学校　３年　　金本　良祐

僕は、福祉についてつい最近まであまり知りませんでした。ユニセフとかは、知っていたけど福祉がどのようなことなのかを僕はあまり知りませんでした。僕は、小学生の時の募金活動に参加していました。小学校でも福祉委員会というものがありました。

福祉とは、「幸福」や「幸せ」という意味があります。そしてもう一つの意味に「公的扶助やサービスによる生活の安定・充足」があります。これは、僕たちが日常的に使用している福祉の意味と一致します。現在では、この後者の意味がスタンダードになっています。福祉というのは、お年寄りの人の手伝いをすることや、世界の生活が貧しい国々に募金をしたりすることです。僕は、小学生のころに、お年寄りの人のしせつに行き、手伝いをした事があります。やってみると、とても難しくて、とても、いそがしかったです。なので、福祉に関わる仕事は、とても難しいものなんだなとその時、初めて思いました。実際に福祉のサービスの人や、お年寄りの人の介護の仕事をしている人は、とてもすごい人なんだなと思うようになりました。そのころから、福祉のことについてすこしかんしんをもつようになりました。そして今の中萩中学校でも福祉に関しての仕事があります。ユニセフの募金活動や赤い羽根共同募金、ベルマーク、使用済み切手の回収、資源回収などがあります。僕は、中学生になってそれらの活動があると知り、少しおどろきました。なのでその活動にこうけんしたいと思いました。そしてどんどん学校生活すごしていくうちに、原ゆかりさんのことやほかの福祉の仕事をしている人たちを知っていき、とてもきょうみがわいてきました。そしてとてもこうけんしたいと思うようになりました。今、ロシアとウクライナ戦争で、困っている中、僕たちができるさいぜんの行動をとって世界の人たちのために行動したいです。

「福祉についての自分の思い、考えていること」

中萩中学校　３年　　髙橋　煌桜

僕は福祉について考えたことは何度かありますが、実際にそのような方などを見た

り、接したことがないのであまり分かりません。なのでこの作文を通して考えることにしました。
　実際にインターネットで調べると、しあわせ。幸福。特に、（公的扶助による）、生活の安定や充足。
　また人々の幸福で安定した生活を公的に達成しようとすることと、でてきました。
　普通の人とは違いできることが少なく生活するのが難しい人などがまだ大勢いるのだと分かりました。
　それを知り、凄く残念に思いました。そしてこの生活困難の人がより良く暮らせる方法がないかと私は考えました。そこで思いついたことが、生活困難ではない人が生活困難の人を助ければいいのじゃないかと思いました。
　一人一人が助け合うことで、生活困難から抜け出せるきっかけになったり、介護施設を多く作り助けたらいいんじゃないかと思いました。
　たとえばそういった施設でボランティアを募集していたら進んで応募したり、日常生活で、困っている人を見かけたら進んで声をかけて僕にできることがあれば手伝ったりできたら良いなと思いました。
　将来、人々が快適に生きられるような社会になって欲しいと心から切実に願います。そのためには、今以上に人々が協力しあうことや、国の支援も作文を通して、私は福祉について考えることができたと思うし、この先福祉について考えることがまだまだあると思うので、頑張りたいと思います。
この作文で福祉について考えるというきっかけができてよかったと思いました。そしてこれからもがんばりたいと思います。

「福祉でまわる世の中」

中萩中学校　３年　　加藤　紅羽

　「福祉」とは、すべての人の「幸福」を意味します。人が幸福に感じる内容や幸福感の度合いはいろいろだと思いますが、人がひとらしく生命を維持し、生活をゆたかに発展させようと求めるものが、幸福の具体的な内容になると思います。幸福を求めるのは人の権利です。
　これは「福祉」を調べていた時に書かれていた言葉です。私は「福祉」と言えば、高齢者や障がい者のイメージを持っていましたが、すべての人が幸せになるために「福祉」というのがあるのだと分かりました。
　そこで自分あてはまる福祉を探すと、「児童福祉法」があると分かりました「児童福祉法」にはたくさんの項目がありました。その中には「母子保健対策等」とあり、私が生まれる前から福祉の対象なんだなと思いました。その他にも児童手当や医療費の補助や保育、虐待対策などがあると分かりました。自分にあてはまらないものでも、ひとり親家庭施策や障がい児支援施策、非行、情緒障がい児施策など本当にすべての人に公平に行われているんだと思いました。
　また、私の家の隣には祖父母が住んでいます。今はまだ元気ですが、介護が必要になる時があるかもしれません。そうなった時には介護や看護という高齢者福祉が対象

となります。よくいろいろな名前の介護施設の車が毎日走っているのを目にします。介護施設にもデイサービス訪問介護、老人福祉施設の他にも、福祉用具のレンタルや住宅の改修なども含まれます。高齢化によって介護もいろいろなニーズが必要になり、それによって新たな法律ができたりして、人々のよりよい生活のために福祉という制度も変化していくのだと思いました。

これらの他にもさまざまな福祉があり、人が生活する中で、支えたり支えられたりしてるんだと思います。このような福祉がいつまでも続けられたら良いなと思います。

「福祉を通じて」

中萩中学校　３年　　桑原　陽妃

私は小学６年生のときに、福祉委員をしていました。最高学年になると、何かしら委員にならなければなりませんでした。私は本が好きなので図書委員をやりたかったのですが、人気がある委員会だったので他に余っていた福祉委員をすることになりました。

正直、希望していた委員になれなかったこともあり、福祉委員はあまり気が進みませんでした。元々福祉に興味がなかったのも理由のひとつです。これから１年間、興味のないことをやらなければいけないのかと思うと、とても憂鬱でした。

福祉委員の活動内容は、ペットボトルキャップ・ベルマーク・使用済み切手の回収、ユニセフ・ユネスコ・赤い羽根共同募金を募ることなどです。どの活動もすごく大変でした。毎回各クラスからたくさんのペットボトルキャップが集まるので、重くて運ぶのに苦労したり、時には袋が破れてキャップが散乱していしまい回収するのが大変でした。募金は、早朝に門に立って呼びかけをしていました。暑くても寒くてもずっと立っていないといけないので、今考えても他の委員より全然大変だと思います。

しかし、あんなに嫌で仕方なかった活動に次第にやり甲斐を感じるようになりました。募金の合計を先生から知らされた時に、すごい金額集まっていて、校内で募金してくれている人が沢山いるんだと思い、とても感動しました。募金を集める前は、まさかこんなにも集まるとは思っていなかったので聞いたときは驚きました。こうやって目に見える形にすることで、以前まで福祉に興味のなかった私も、もっと福祉に貢献したいと考えるようになりました。やり甲斐に気付けてからは今まで面倒だと感じていた活動も楽しく感じるようになり、自分から積極的に行動するようになりました。

地道な作業かもしれませんが、積み重ねていくことで、福祉に貢献出来たらと思います。

「介護の難しさ」

中萩中学校　３年　　小山　夕莉

私は「ふくし」について幼いころから少し関わっていました。私のお母さんは、介

護の仕事をしています。私は小学生のときから親の仕事場に行って手伝いなどをしていました。お年寄りの方とお話しをしたり、一緒に手遊びなどをしたりしました。だけど、私は幼いころから人見知りでした。家族以外には、まったく心を開かず、喋ろうとしませんでした。特に、お年寄りの方と話すのはさらに苦手でした。大きい声ではっきりと喋らないといけないので、正直すごく嫌でした。その後、私はお年寄りの方と関わるのが嫌でお仕事の手伝いにあまり行かなくなりました。それから親が朝早くに仕事に行き、夜遅くに帰ってきて、すごく忙しそうだなと毎日思っていました。休日の日も午前中だけ仕事に行ったり、家でも仕事をしたりしていました。お年寄りの方のことをしっかり考えていました。時々親の仕事場に行くとき、お年寄りの方にいつでも笑顔で大きい声ではっきり喋っていました。自分のお昼ご飯の時間を割いて、テキパキ仕事をしていてすごいなと思いました。介護の仕事は、すごく忙しそうだし、お年寄りの方のことを考えて気遣いながらお世話をしないといけないのですごく大変な仕事だと思いました。私は幼いころから介護をしている人たちのことを近くでみていたけど、小さいときは、あまり忙しそうだなと思ったことはあまりなかったし、お年寄りの方に対していろんな気をつけなけないといけないことがあることを知りませんでした。それでもずっと近くで忙しく働いている親を見たり、学校の授業で習うこともあり介護の仕事の大変さ、大切さをたくさん知りました。今まで介護の仕事を見てきて大切なことがわかりました。まずは、相手に伝わるように大きい声ではっきり喋ること、お年寄りの方を尊重すること、他にも食事やトイレなどの生活をしっかり支えることすごく大切なことだと今考えてあらためて思いました。介護の仕事をするためにはさまざまな努力をしないといけないと思います。「ふくし」とは誰かの役にたつ支える仕事だと思います。介護のように簡単な仕事はないと思うけど、すごく必要な仕事だと思うのでこれから介護などの仕事に就く人が少しでも増えたらいいなと思います。

「ベルマーク回収箱」

中萩中学校　３年　　近本　心咲

私の通っている学校にはベルマークの回収をするために各クラスにベルマーク回収箱というものがあります。ベルマークを集めることで学校の設備や教材をそろえることができたり、国の内外でハンデを背負いながら学んでいる子どもたちに援助の手を差し伸べることができます。

私は学校でボランティア活動をしたときにベルマークの仕分けをしました。集まったベルマークを仕分けて枚数を数えるという作業です。その作業でまず始めにクラスごとに集まった数を数えたのですがクラスによって数が全く違っていることに気づきました。１００枚以上集まっているクラスがあるのに０枚のクラスもあるのです。このことで私はとても悲しい気持ちになりました。もっと集めることができたと思います。なにが原因なのかと考えるとベルマークについてあまり知らないから集まらないのかなと思いました。学校でベルマークの回収の呼びかけはあるものの、ベルマークがどんなものについているのかをくわしく知らない人がたくさんいると思います。そ

のためベルマークが家にあっても見つからないし見つけようとしないのではないかなと思いました。このような考えができたので私はこれから身の回りの人からじゅんにいろんな人にベルマークをもっとくわしく知ってもらえるよう、呼びかけてみようかなと思いました。より興味をもってもらうためにベルマークを集めたらなにができるのかということも教えたいなと思いました。

また私ももっとベルマークを集めたいなと思います。これまでは家にあるものからさがしていたのですがこれからはおかしを買うんだったらベルマークがないかなと探してあるものを買ったりおばあちゃんの家にあるものを探してみたり、夏休みだからできるベルマークの集め方をしてみたいです。

これからもっとベルマークの回収ができるようにまずは自分のことから身の回りの人たちへとより大きな助け合いの輪となっていくようにがんばりたいです。

「誰もが幸せ」

中萩中学校　３年　　西原　未莉愛

みなさん、エレベーターの中に何があるのか思い出してみてください。何か思い浮かびましたか。そうです、鏡です。それでは、どうしてエレベーターの中に鏡があるのでしょうか。それには「ユニバーサルデザイン」が関係してきます。今から、いくつかのユニバーサルデザインについて、私が考える福祉について書いていきます。

まずはじめに、ユニバーサルデザインとは何なのか、簡単に説明します。ユニバーサルデザインとは、バリアを取り除くだけでなく、障がいの有無に関わらず、はじめから誰もが使いやすく利用できる施設や製品、情報などを設計、デザインすることを言います。バリアフリーを一歩進めた考え方と言われているそうです。ユニバーサルデザインが何なのか再確認できたところで、あの鏡の正体を発表します。それは、車いすの方がエレベーターを降りる時に後ろを確認できるものだそうです。私はネットでこれを見た時に、おもわず

「えぇぇ～～」

と声が出てきました。そのような理由があるとは知らずに、身なりをチェックしたり、変顔したりしていたので、よりいっそう驚きました。もう一つ驚いたユニバーサルデザインがあります。それはプッシュ式の醤油ボトルです。私の家もそれを使っていますが、このボトルはかけすぎ防止のために作られているのだと思っていました。もちろん、それもありますが、どのくらいの量が使われたかが分かるためにも作られたそうです。これは、視覚障害のかたを対象にして考えたアイデアです。他にも、シャンプーとコンディショナーの違いが分かる凹凸や、牛乳かそれ以外の飲み物かが分かるへこみ。両手いっぱいに荷物を持っている人や杖、車いすなどを利用している人でも簡単に通ることができる自動ドア。たくさんの便利で優しい施設や製品、情報などがこの世の中にあります。そんな中、暮らしている私達は、とても嬉しいことで、ありがたいことだということを改めて感じることができました。

最後に、私が考える福祉について書きます。福祉とは、一人一人が幸せな日々を送ることだと考えます。みなさんが幸せだと感じる時は何ですか。おいしい物を食べる

時、ぐっすり眠る時、湯船にゆっくりつかる時、自分の趣味を楽しむ時。一人ひとり違うと思います。その福祉を、今生きている人々、これから生まれてくる子ども達が感じられる、もっともっとすてきな世の中を作りあげていきたいです。

「福祉と私」

中萩中学校　３年　　藤田　恵衣

私は今まで、福祉ときいてもとくにピンときませんでした。なので今回この作文を書くにあたり、福祉について調べてみました。

まず福祉とはどういう意味なのか調べてみると、「しあわせ」や「ゆたかさ」を意味する言葉であり、すべての市民に、最低限の幸福と社会的援助を提供するという理念をもっているというものだということが分かりました。そしてその中でも社会福祉とは基本的人権の保障の観点から生活困窮者の生活保障や心身に障がい等があり介助などを必要とする人への公的なサービスのことをいうらしいです。

そんなたくさんの支援をしている福祉活動の中から今回は、私たち中学生や小学生が参加できる活動について調べてみました。１つ目は親子でも参加できる「高齢者の方と学生の交流会」です。こちらは初めて参加する方でも親子で参加できるので、きんちょうなどもなく楽しくボランティアとしてもできると思います。ボランティアときくと堅苦しいものをイメージしがちですが、このようにくわしく調べてみると「一緒に楽しむ」をコンセプトにしているものも多いことが分かりました。２つ目は「中高生によるチャリティームービープロジェクト」です。こちらは今のこの時代だからこその「リモート参加型」のボランティアです。リモート参加型なので「人の役にたってみたいけど、直接会うのは少し苦手、怖い。」と思っている方でも比較的参加しやすいと思いました。３つ目は「書き損じはがきや中古CD、DVD、ゲームをおくる」というものです。こちらは１つ目、２つ目とはまた違う形でのボランティアになっています。このボランティアは生活困窮者の方たちと法人スタッフさんが近況の手紙のやり取りをするためにおこなっているもので、私たちが直接お話をすることは無く、物資提供という形で手伝うものになっています。このように一つ一つ少しずつちがうボランティアがあり、どんな人でも合うものがあると調べてみて感じました。

今回、自分たちにできることを調べてみて、私が考えているよりもっと沢山のボランティアがあることを知りました。なのでこれからはもっといろいろな人の役に立てる人になりたいなと思います。

「注意する勇気」

中萩中学校　３年　　三吉　愛梨

私が母と買い物へ行ったときのことです。お店に着くと、障がい者専用の駐車場に一般の方が車を止めようとしているのが分かりました。してはいけないことだと思い

ましたが、深く考えることはなく、私はそれを見てみぬふりをしました。そしてこの作文を書くと決めたとき、初めてあの時、なぜ私は注意できなかったのだろうと思いました。もし、あのときに障がい者の方がお店にきていたなら、もし、注意していればと思いかえすと自分に対して反省する気持ちが浮かび上がりました。してはいけないことだと理解していても実際にしている人がいても止めることができないということは本当にその福祉が必要な方が使えなくなるということになります。それでは全員が安心して暮らすことができなくなると思います。そこでもう一つの体験で学んだことを思い出しました。

私は何気なく店の中を歩いているとエレベーターに乗ろうとする車いすの人がいました。その人はボタンがおせなくて困っているように見えました。助けなければと思い、そばにかけよろうと思ったとき、お店の方がボタンをおしていました。その一部始終をみた私は困っている人を助ける勇気としてはいけないことを注意する勇気は違うのではないかと考えました。どちらをするためにも勇気をもつことは必要だと思います。しかし、困っている人を助けるより、してはいけないことをする人に注意をすることの方がおこられたらどうしよう、という不安の気持ちがこみあがってくると思います。私もエレベーターで困っている人を助けることはすぐにしようと思いましたが注意をするのは不安な気持ちが注意をしなければならないという気持ちよりも勝ってしまうと思います。その現状が今の日本にも現れていると感じます。注意をするという勇気をなかなかひき出せない人が多く、結果的に全員が安心して暮らせるとはいえなくなっています。だめなことをはっきりと注意する思いをもつことが安心して暮らすための方法ではないかと思います。

身近なところにも福祉活動は存在しています。してはいけないことをする人に注意する勇気をもち、日本が少しでも明るくなるように注意する勇気をもちたいです。

「これからの私たちと福祉」

中萩中学校　３年　　大滝　陽平

僕はこの作文を書くまで「福祉」というものを詳しく知らないまま人生を歩んで来ました。令和２年度の国の支出の中で社会福祉費は大きな割合を占めています。そしてこれからその額は増加していくと予想され、国の抱える大きな問題の一つとなっています。国の抱えるほど大きな問題にも関わらず、僕は調べるということもしたことがありませんでした。

僕がまず疑問に思ったことは、福祉にはどのような意味があるのかということです。

福祉は、「普段の暮らしのしあわせ」とも言います。「福」も「祉」のどちらにも「幸せ」という意味が込められています。つまり福祉には、「人を幸せにすること」ということであると言えます。僕はこの意味を知って福祉に対する考え方が変わりました。社会福祉の取り組みがこの世の中に広がれば、この世界に住む人々が、幸せで過ごしやすい環境ができると思います。しかし、今は社会福祉の取り組みと言っている場合ではありません。なぜなら高齢者福祉に問題点が多いからです。一人で生活するのが困難な高齢者の方達を介護する若者の人数が減っています。１９５０年時点では

高齢者一人を約１２人の人達が支えていましたが、２０２１年時点では約２人で高齢者一人を支えています。

僕の祖母は現在１０１歳で重度の認知症です。僕の叔母は介護で毎日疲れきっています。自分が言った事や叔母の言った事、した事をすぐに忘れてしまいます。介護というものの大変さが想像できます。僕の祖母のような人は何人もいます。そしてその人を介護する人がいます。日本の社会はいつか崩れてしまうのではないかと考える度に心配になります。近年、日本では高齢化が進み、国民の４人に１人が６５歳以上となっています。高齢者が増えると介護する人も増えます。同時に少子化が進んでいるため介護を担える人が減り、将来にさらに大きな高齢者福祉の問題が起こると考えられています。だからこそ、若者である僕達がこの問題について考えていけなければならないのです。これから起きてしまうかもしれない問題を誰かのせいにしてはいけません。社会全体で考えなければいらないと思います。年齢関係なく互いに支え合う、これがこれからの高齢者福祉のあり方だと思います。

「身の回りにある福祉」

中萩中学校　３年　　小野　杏虹

皆さんは福祉について考えたことはありますか。福祉は気付いていないだけで、意外と身の周りにあるもので自分たちにとってもとても身近なものです。

福祉とは「幸せ」を意味する言葉です。人間が「幸せ」になるために活動する事を、福祉活動・社会福祉援助と呼びます。例えば、高齢者の方の補助をするための福祉施設や福祉サービスなども福祉活動のひとつです。福祉は大きく言えば高齢者だけではなく、身体的に不自由な方だったり、小さな子供だったり、誰かの助けがないと生きていけない何らかの事情を抱えた方だったりと、とても幅広いものなのです。困っている人を「幸せ」にするならどんな小さいことでも立派な福祉活動のひとつになります。福祉活動の例として、地域の公民館などで参加できるボランティア活動です。地域のお祭りを盛り上げたり、地域の川や浜辺などの自然環境や公園などの清掃活動やごみ拾いなどがあります。他にもコンビニやスーパーのレジの横にある募金も福祉活動のひとつです。赤い羽根募金や心の友運動など学校でもあると思います。１円の募金でも困っている人が少しでも幸せになるのでこれも立派な福祉活動のひとつです。

最近では、高齢者や身体的に不自由な方のために階段だけではなくスロープも用いて、バリアフリーな社会にしていこうという取り組みが多くなってきています。中萩中学校でも、校舎の正面玄関には階段とスロープが置かれていて、色々なところでバリアフリーになってきているのが分かります。また、電車や新幹線などでも優先席などもできて、ますますバリアフリーが広がっています。それによって、優先席に何もない人が座って高齢者や身体的に不自由な方が座れないという事も問題になることがあります。僕はこの問題を聞いて、なんでこんなことをするんだろう、と思いました。優先席は高齢者や身体的に不自由な方が座る席なので、何もない人は座るべきではないと思います。このようにバリアフリーは良いところもあるけど、悪いところもあるのです。

福祉活動として色々なものが普及してきている中、少しのことが守れていないだけで、高齢者や身体的に不自由な人が困ってしまいます。少しのことを気を付けるだけで、困っている人が少しでも「幸せ」になると思います。僕はそんな少しのことでも気を付けれる人がもっと減って最終的にはいなくなって欲しいです。そして自分も更に気を付けれる人になりたいです。

「福祉の出会い」

中萩中学校　３年　佐伯　爽太

僕の、おばあちゃんは、おじいちゃんと一緒に生活していました。でもおばあちゃんは病気になって、自分のいろんなことに手が付けられなくなったので介護施設でお世話になることになってとても悲しかったけど、仕方のないことなので、僕は涙をぐっとがまんして、こらえました。こういうことがあったので、僕は福祉について考えてみることにしました。

僕の身の周りのことなど、たくさんいろんなことを考えたので、募金などたくさんの仕組みがわかりました。いつもできていることが、できなくなると、誰かにお世話をしてもらわなければなりません。お父さん、お母さん、兄ちゃん、姉ちゃんがいないと、他の方や、施設の人達に介護をしてもらわなければなりません。僕は、ニュースなどで、おじいちゃんおばあちゃんが邪魔者扱いをされたり、そういう人達を優しくできないという事をニュースで聞いたことがあります。なんでそんなことが起こるのかと思っていました。どうしてそんなことがあるのか、もっと深く考えてみました。僕は、沢山の友達や相談に乗ってくれるいとこや、他の野球チームの大人などが沢山います。でも色々な個性があり、色んな性格などがみんな違って価値観なども違います。そんな時は、なんでも色んな人に聞いてみて、絶対一人で考えこまない環境作りをしてみたらいいと思います。そこから見直していけばいいと思いました。みんなが不自由なく落ち着いて暮らしていけるようにしていくことがこの世の中で大切なことだと思います。たくさんのお年寄りや体が不自由な人に親切にしてすみやすい環境になればいいなと思います。生活がひとりでできなくなったお年寄りや、不自由な人は、気軽に誰でも相談してほしいし、ひとりで悩んでも苦しいだけだから周りの人もそういった環境づくりや、表情を良くするなどの工夫が必要だと感じた。福祉と出会って、不自由な人が、どこに行っても暮らしていけるようにすることが大切だと感じた。自分のために、お年寄りや不自由な人達や友達や大人の人たちを、平等にしていく社会作りを自分から、積極的に社会作りをしていきたいし、みんなも協力して作っていって欲しいです。人を思いやる心もとても大切だと感じた経験で、この経験を今後の人生に活かしていきたいです。福祉は、現社会に大切なものだと改めて感じました。

「自分が思う福祉について」

中萩中学校　３年　　中野内 優音

ぼくが､福祉に対して思っていることは福祉というのはすごく大切なものであるとい

うことだ。
ぼくのおじいちゃんがそうなのだが、ぼくのおじいちゃんは、８０をこえており、耳が遠くなり、足こしも悪くなっている。そしておじいちゃんは、デイサービスに週３~４回通うことになった。
デイサービスというのは、その曜日に高齢者の方が通い、１日を過ごすというものだ。おじいちゃんは、そのデイサービスで、食器を運んだり、ﾀｵﾙをたたんだりと、ﾘｰﾀﾞｰ的存在にあるらしい。この元気なおじいちゃんがデイサービスに通ようことで、友達の輪が広がり、交友の場が広がると思っている。
そして、デイサービスだけでなく、介護施設や、高齢者への考え方や見方を一つかえるだけで新しい世界が広がると思っている。
福祉は、高齢者にとって大事なもので、高齢者が安心して生活できるようになるための第一歩がこの福祉というものなのかなと思っている。
自分が福祉に対して思っていることは、福祉のサービスがもっと増え、いろんなところに活用できることである。福祉がいろんなところで活用できれば、今の少子高齢社会の中で生き抜くことができるのではないかと思う。
福祉を高齢者のためという考え方でなく、みんなが国民、そして世界の人のためにあるということを認識してほしい。そして、福祉というものが行き届けば、全世界、全国民の人が暮らしやすい環境と手配が整い、世界平和や難民などの問題を解決や実現に向かえるのではないかと思う。
生活の中にとけこんでいる福祉、その福祉についてもう一度考え、今、その福祉というものがだれに欲されているのか、そして、そのサービスがほしい人にちゃんと届いているのか確認してほしいと思う。

「これからの福祉」

中萩中学校　３年　　村上　竣

私は、この作文を書くまで福祉というものをあまり深く考えずに生活してきた。しかし、これを機に福祉について詳しく調べてみることにした。
福祉とは、「しあわせ」や「ゆたかさ」を表す言葉である。つまり福祉は、「人を幸せにすること」ということであると言える。よって、福祉の取り組みが社会に充分に行き届けば、みんなが幸せでゆたかな生活ができると思う。しかし、今の社会はそうであるとは言えない。私は特に、高齢者の増加による、高齢者への福祉には問題点が多いと思う。
私の母は今、福祉施設で高齢者の介護をしている。高齢者が増えているということによって、一人で何人かの介護をしているそうだ。それに伴い、負担がすごく大きい。その話を聞くだけでも、介護というのが、とても大変なのが分かる。
私はこのような話を聞くと、この先の日本の未来が不安になってしまう。それは、高齢者が増えているからだけでなく、それと同時に少子化も進んでいるため、介護者の人数が減り近い将来に大きな高齢者福祉の問題に繋がってしまう可能性があるからである。そのようなことが起きないためにも、私たちが福祉の問題についてしっかり

と考えていかないといけない。しかし、これから起こりうる高齢者福祉の問題は、今の社会に与える影響として良いものだけではないだろう。けれどもこれからの社会を築いていくには、いろんな人の関わりが大事である。そして、いろんな人が生きやすい国をつくっていくことも大事である。今の日本は高齢者に優しい環境が完全に整っているとは言えない。若者が分かっても高齢者には分からないことも多い。だからといって、これからは全て高齢者に合わすということはできない。でも、いろんな人が助け合いみんなで支え合っていくと、できることも増えていくだろう。このようになっていくことで今よりも、もっと良い社会になっていくと私は思う。

私たちは、今できることをすることしかできない。高齢者への配慮をしっかり行い、支え合って生きていくことが必要だ。そうすることによって、これからの社会を生きる人々が「しあわせ」で「ゆたかさ」のある生活ができるはずだ。これが、私の思うこれからの福祉である。

「体験して分かった補助する福祉」

中萩中学校　３年　　伊藤　希紗

私は最初、福祉は具体的に何なのかを学校で行っていること以外は、よく分かっていませんでした。なので、親に聞いてみることにしました。すると、「福祉だといろいろあるからまずは一回自分で調べてみて、気になることを一つか二つくわしく見てみな。」と言われました。それがきっかけで私は補助する福祉を実際に体験というか見学してみることにしました。

私の両親は二人ともそれぞれ違った福祉施設で働いています。なので、私は両親にたのんで実際に職場に行ってみました。すると両親の職場ではそれぞれ雰囲気と仕事内容と違うところがたくさんありました。

父のところでは、ほとんどの人が自分で歩いたり数人でボードゲームをしたり、体操していたりと比較的に送り迎えして通っており、家でも元気にしていて、昼食も固形物だったりと一緒にできることもたくさんありました。別の日に母の職場にいくと、父の職場と違うところがたくさんありました。ほとんどが車いすだったり昼食も液体が多く自分の意思で動ける人はほとんどいませんでした。

私は両親の職場を体験・見学して、補助の福祉施設でも、こんなに違うんだと思いました。母の職場にかんしては、ほとんど見学するだけになってしまいましたが、実際に行ってみて調べてみたときに、思っていた「あんまり変わらなそう。」とか、偏見で勝手に思ってた「少し怖い。」とかはほとんど消えました。

それに、父と母に職場のことを聞くと、「かわいいおばあちゃんがおってね。」とか、「この仕事内容のときはいそがしい。」とか、日によっても違うことがあることが分かったので、いい体験になったなと思います。それに、仕事をことを話してくれる両親はとても熱心に分かりやすく細かく教えてくれていたので、つらいこともあるけど、それだけじゃなくて、しっかりやりがいもある仕事となんだなと思いました。

「福祉を身近に」

中萩中学校　３年　　河野　葵

「福祉って結局何だろう‥。」私はそう想いこの作文を書こうと決めました。私は今まであまり「福祉」という言葉に疑問をもたずに過ごしてきました。小学校や中学校でも「福祉委員」という役柄があったけれど、務めることはありませんでした。なので、少し疑問に思い、これはやるしかない!!と思い決めました。

まず、「福祉」とは最低限の幸福、社会的援助を提供する理念を指すそうです。また、幸せ、幸福のこと意味するようです。私はまず「福祉」とは何かということすら知りませんでした。私が当たり前に家で寝ること、ご飯を食べること、清潔な服を着用すること、お風呂に入ること、その当たり前の日々を最低限の幸福というのでしょう。そんな大切なことを知らずに過ごしてきたと考えると肩身が狭い思いです。また、その中で、援助を必要とする人に援助を提供する仕事が、「福祉の仕事」なんだそうです。例えば、私の身近な職業だと、「看護師」、「養護教諭」、「保育士／幼稚園教諭」など、誰もが一度は会って助けていただいた方なのです。他にもたくさんの職業が「福祉」に携わっていることを知り、私達が成長、生活していく上で、とても大切なことが多いということが分かりました。

課題面に関しては、高齢者の孤立、災害時・緊急時の困難、子育ての疑問や不安が親の孤立や子どもへの虐待の増加などがあることが分かりました。「交流」という面を中心に対処がおこなわれていることも分かりました。

私は、今回初めて自ら「福祉」について調べました。「福祉」というものをより身近に感じることや、自分自身のことと照らし合わせながら、考えることができました。「福祉」というものは身近ではありますが、地道にコツコツ積み重ねて築いていくことが分かりました。私達も学校で行っている、ベルマーク集めや赤い羽根募金にも、何かのために、積極的に、そして気持ちや考えを日々深めながら協力し、何かの役に立てるようにしたいです。

「地域がよくなるために私ができること」

中萩中学校　３年　　篠原　多輝

私は人が繋がり支え合い、健康で暮らす街にするためにはどのようなことが私にできるのかを考えました。

一つ目は、地域の人々をつなげるために、イベントや集会を開催することです。

二つ目は、健康的な習慣を身につける支援をすることです。

三つ目は、地域の環境問題などのいろいろな問題について理解し、取り組むことが大切だということです。

これらのことが私にできるように、私が暮らしている新居浜市ではどのような活動を、行っているのかを調べてみました。例えば、歩道において段差により自転車や歩行者の通行に支障となる箇所が多く、またガードレールや信号機の設置されていない危険な箇所もあり、その所の整備などがおこなわれているそうです。わたしが自転車

でよく通る道は、前までは段差がたくさんあってマンホールなどですべってこけてしまう人が多い道でした。だけど、最近は地面の段差がほとんどなくなって、こけてしまう人が減ったのではないかなと思います。このように、地域がよりよくなるためにいろいろな人が協力してくれているんだなと実感しました。他にも、高齢者や障がい者、子どもなどの交通弱者に限らず、誰もが安全で快適に通行できるよう、歩道の段差解消などのバリアフリー化や、見通しの悪い交差点でのカーブミラー設置や歩行者自転車用防護柵の設置などのさまざまな道路交通安全の対策を新居浜市はおこなっているそうです。私はカーブミラーは地域の人やいろいろな人の命を守る大切な物だけれど、あまり深くは考えていませんでした。だけど、この調べたことを生かして、これからは日ごろから感謝の気持ちを持って生活しようと改めて思いました。

これから私は、カーブミラーや、地面の段差が直ったことなどの福祉活動について地域の人に恩返しができるように感謝の気持ちを持って生活し、あいさつをすることとか、いろいろなボランティアに機会があれば参加したいと思います。

「守られる日本と私達の暮らし」

中萩中学校　３年　　瀬尾　日茉莉

私たちは日々たくさんの人たちによって守られています。たとえば、家族や友達、学校の先生や病院で働いている人や消防員の人そして警察官。たくさんの人達によってこの日本は安全に暮らすことができていると思います。

私はよくこの日本にもっと病院も消防官も警察官もいなくなったらどうなるのだろうかと考えてしまうことがあります。なので一度母親と話してみると「そういうことになると私たち人間は犯罪をしてしまう人や病気で苦しんでいる人、火事でもなってしまう人が増えると思う」ということを言っていたのを覚えています。私はそういう日本を見たことがなく、だから日本は安全なんやなって思っています。

そして私は祖母と老人施設について最近話すことが多くあります。家の人が見れないから老人施設で見てもらうんだよって教えてもらいました。そこではご飯も食べさせてくれるらしく、手指が使えなる人にはうれしいですし、それなら親なども安心する理由が分かりました。

私は普段の暮しとは考えてみました。考えたのは、食べること寝ること、　風呂に入ること、私の場合笑うことだなって思いました。
それが私にとってのあたり前の生活だと思います。それが私の幸せな１日です。それが無くなることがあるのだとしたら、病気になるかもしくは火事に遭うこと以外考えられません。人々はたくさん病院に行って検査などをしてもらいます。それが無いと考えるとありえないと思います。

福祉の問題点は最近、少子高齢化社会になっていっているので地域社会のつながりが少なくなっていっているし、高齢者の増加で地域に対する関心の希薄化が問題になっていると思います。解決策は無いと私は思います。

私は今まで何でなんだろうと考えたことがあっても、それを解決しないことが多かったので今回福祉の作文を書いてた　せんの問題を理解し自分なりの答えが出たかなって思います。なのでこれからも何でなんだろうって思ったら母さんや祖父母とかに

聞いて自分なりの答えを出し、理解をしようと思いました。
私はあまり福祉活動にあんまり興味が無く、先生の話しや祖父が話していることをだいたい話しを聞いていなかったでのこれからは自分から聞きに行こうと思いました。

「不自由な人を支える」

中萩中学校　３年　　高田　青空

　自分の父が昨年足首を骨折しました。
　自分は、骨折している人を見ると、かわいそうなと思っていました。思うだけで何もしませんでした。
　父が骨折して半年ぐらいで帰ってきました。帰ってきてもまだ完治はしていませんでした。久しぶりに見た父の足には、ギブスがついてあり、手には、松葉杖を持っていました。
　父が外に買い物に行くときは、松葉杖を支えにして歩いていました。そこで一緒にいた自分は目立つ父がいやで一緒にいてはずかしい気持ちでいっぱいで、もし、知り合いに会ったりしたらいやだとかそんなことを思っていました。そこから父の足を見るのがいや、外に出ないでほしいと思うときもありました。
今思えばなんでそんなことを思っていたのかそんな自分がとても最低だと思います。
　父の足も治って父と自分のかよう病院から帰ろうと出たときに老夫婦の人がいて、自分たちがその二人をすぎた後おじいさんがたおれて動けなくなっていました。
おばあさんの方は、どうしたらいいのか分からなくてあたふたしていました。
それを見た父は、すぐに車いすを持って来て、おじいさんを車いすに乗せて、あとは、おばあさんが病院の中に入っていきました。自分はその間なんにもできないままつったっていること、見ていることしかできませんでした。
　車に乗って帰っているときに、「どうしてあんなに行動できたん」って聞きました。すると父は「そんなん当たり前やん　助けないかんやろ」って即答してきて、今まで父のことを恥ずかしいとか、一緒にいたくないなど、つったって見ていただけの自分がすごく人としてどうなんだろうと思いました。
　あの時、もっと父を支えていれば、おじいさんを助けていれば、もっと良かったのではないかとひどく反省をしました。
　次からは、困っている人を見かけたら父みたいに支えていきたいです。

「福祉についての思い、考えること」

中萩中学校　３年　谷口　千暖

私の福祉に対しての考えは、世界中の人々が十分は生活を送れるように支援していることだと思っています。学校での福祉活動には生活が困難な人や十分に治　などを受けれていない人たちに満足に生活できるように赤い羽根募金やユニセフなどを行っているからです。

私は福祉に、あまり考えたことがなかったのでインターネットで調べてみました。
まず、社会福祉事業について調べてみました。社会福祉事業とは、社会福祉を目的とする事業のうち、規制と助成を通して公明かつ適正な実施の確保が図られなければなりません。第一種社会福祉事業には、障がい者支援施設、重症心身障がい児施設、養護老人ホームの経営などです。第二種社会福祉事業には、保育所の経営、ホームヘルプ、デイサービス、相談事業などがあります。私は社会福祉という言葉を初めて聞きました。私は老人ホームはいなかに多いと思っています。特に海辺ではなくて山のふもとに多いと思っています。
私は最初、福祉は募金やペットボトルキャップのイメージが強かったです。でもよく考えると、地域の行事で老人ホームを二箇所訪問していたことを思い出しました。他にも小学生のころ私の学年ではなかったのですが、特別支援学校に行っている学年がありました。
私は福祉は世界規模で考えていることが多くて、募金をして何人の人を救えるのだふろうと考えていることがありました。でも学校の資源回収の時に誰かが大型トラックが資源を運んでいろんな所に行くのにガソリン代がかかったり、地球温暖化が進むと言っていました。たしかに日本から南アフリカに募金によって物になった物を届けるのにも時間がかかるし、そもそも安全に届けれるかのかも分からないです。福祉というともともとは幸福と言う意味というのをはじめて知りました。今とはかなり福祉という言葉の使い方が変わっていてびっくりしました。これからは若い世代が高齢者や障がい者を支援しないといけないので、福祉についてもっと勉強し、みんなが満足して過ごせる世界を少しずつ築いていきたいです。

「福祉はしあわせ」

中萩中学校　３年　　松木　彩夏

私の祖父は、体が左側が全く動けない。祖父がこのような体になったのは４９歳の時に脳出血になったからだ。その日から祖父は、自分で歩くことも、食事をすることも、お風呂に入ることも困難になった。祖父母の家に会いに行った時、祖父の行動を観察してみた。
寝室からダイニングへ移動する時、私なら１分もかからず移動できるが、祖父は一度止まって寝室のドアを開けて、手すりをもって一歩一歩歩いてダイニングのドアを開けてと、少しの移動でも大変だった。そしてご飯を食べる右手でお箸を持つことができない。何をするのも私より倍以上の時間がかかる。祖父母の家で、私がご飯を食べるときは、必ず祖父の隣の席に座る。私はまだ子どもなので祖父も私に何かを頼むことはほとんどないが、少しでも手伝いたいと思うからだ。でも実際助けになるどころか邪魔になっているかもしれない。
祖父は脳出血になってから自分で好きな所へ行ったり、好きな物を食べたり、これまでの自由な生活ができなくなってしまった。でも一番大変だったのは、私の祖母ではないだろうか。祖母は文句一つ言わず毎日毎日、祖父だけを家に残して遠出することもできないので、祖母も生活に制限がかかってしまった。それでも何年も文句も言

わずにしている祖母は尊敬する。
　もし私の母や父も体の半分が動かなかったら、私も祖母のように毎日の生活を手伝うことができるだろうか。そう考えた時、到底できないと思った。自分の事でさえできていない自分が家族でも人を支えるなんて、何歳になっても無理だと思った。
　もし自分も脳出血などで体の半分が動かなくなってしまったら、私の生活はどうなるのだろうか。私だけではない。家族の一人でも体が動かなければ、これまでできていたことが、みんなできなくなってしまう。私はこれまで普通にできていたことができなくなったショックなどから、周りに沢山迷惑をかけると思う。でも一番大変なのは、周りで支えてくれる人。そのことを忘れてはいけないと思った。
　私の体は思ったように動く。歩きたいと思えば、無意識のうちに左右の足が動く。ご飯を食べようと思えば、右手でお箸を、左手で食器を持ち食べることができる。
これは当たり前のことではない。身近な所に、それが当たり前ではないと知らせてくれる人がいるのにも関わらず、私は気づくことができなかった。これまでの生活を振り返った時、気づけなかったことが多かったことに気づいた。体が不自由な人に限らず、その人が助けてほしいと思っていることにも気づけずにいた気がする。
もし困っている人がいたら、すぐに行動に移せる人になりたい。言葉にして言うことは誰でもできるが、私にとって少し気がついたことがあったとしても行動に移すのは難しい。でもこれからは周りをよく見て、困っている人がいたら自分から率先して取り組みたい。「福祉」とは何かと調べると「しあわせ」と出てきた。みんなが誰かのために行動できる社会になれば、きっと誰もがしあわせな社会になると思う。そんな社会をつくるためにも、今できることを自分なりに頑張りたい。

「福祉」

中萩中学校　３年　　柳澤　紗妃

　私が考える住みやすい町は、福祉環境が整っている町です。福祉環境が整っている町は例えば、「老人福祉施設」「生活保護施設」「障がい者支援施設」など他にもたくさんあります。職員には、介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士の三福祉士がいます。
ほかには、非常勤の医師や看護師、指導員、保育士などがいます。
　新居浜市はこの福祉環境が整っていると思います。なぜなら、福祉施設が充実しているからです。そして福祉施設だけでなく、地域のボランティアに子供から大人まで参加しているイメージがあります。学校では、ベルマーク集めや資源回収、募金活動が行われています。
　私は２学期連続で福祉委員をしたことがあります。そこで、私たちが集めたベルマークやお金やビンが何のためにいるのか、たくさん知ることができました。自分が地域のために、社会のために、今、何ができるのか深く考える機会になりました。
　私のいとこと姉は、看護学生です。なので、看護師の仕事のついて話を聞くことがたくさんあります。私のいとこが看護大学にいる中でいちばん辛いのは、実習だそうです。その中でも、精神看護学実習は本当に大変だと聞きました。精神看護学実習は、

精神科病棟の精神疾患を持つ患者の特徴や看護を学ぶ実習です。ネットで調べてみても、精神科がいちばん大変という声がたくさんありました。精神科に来る人は、心に傷がついた人が多いと思います。患者を常に観察し、心に寄りそってあげることが大切だと思います。少しでも目をはなすと、自傷行為をしてしまう人もいると思います。そんな中で、私は十分に寄りそうことができないと思います。なので、看護師はほんとうに尊敬します。

作文を書くにあたって、福祉についてたくさん調べました。福祉に関する仕事がたくさんあることが分かりました。みんなが住みやすい町を作るために、ボランティア活動や、老人、介護などにも目を向けて、広い視野で見ていきたいです。

「ＳＤＧｓ目標１、貧困をなくそう」

中萩中学校　３年　　湯村　有幾莉

世界では、子供の６人に一人が学校に通えていません。程度１年前、美術部の課題で、ＳＤＧｓについての絵を描くことになり、ＳＤＧｓについて、インターネットで調べていたところ、衝撃の事実を知ることになりました。私が今まで辛いことも、楽しいことも共にしてきた学校。そんな学校に通うことが当たり前だと思っていた私の常識が、常識ではない子供が６人に一人もいると知った時は、世界に絶望しました。

なぜ、貧困問題、人権問題、格差社会は、いつまでたっても解決しないのだろうと、腹が立ちました。普通に学校に通えている私には、学校に通えない、充分な学習ができない、大切な友達に会えないことがどんなに悲しいか分かりません。

私の学校では年に数回、赤い羽根共同募金やベルマーク回収が行われています。もちろんそれだけで貧困問題がすぐに解決されるとは思っていません。しかし、世の中を変えるには必ず多くの人の力と想いが必要です。したがって、まず、「赤い羽根共同募金、ベルマーク回収は何の役に立っているのか」「世界の貧困の解決に向かい、私たちができることは何か」をインターネットで調べました。

そうして分かったことは主に３つあります。１つ目は、赤い羽根共同募金は世界の４３の国などで行われており、その国の高齢者や、障がいのある人など、私たちの住む町で助けが必要な人に使われているということです。ゆえに、その国の中で助けを求めている人に使われています。

２つ目は、ベルマーク回収は、世界各地で活動する団体を通じて、発展途上国の教育環境に恵まれない学校や子供たちのために役立てられていることです。例えば、奨学金や無担保融資に変えられ、大地震、大津波で傷を負った子供を救ったり、日本ユニセフ協会が、集まったベルマークをカンボジアの村に送り、タンクやポンプで安全な水を作り出しました。これによって、６５パーセント以上の学校に、清潔なトイレができたといいます。

３つ目は、とても遠い国の貧困問題を解決するために、私たちができることは多くあるということです。それは、今までと同じように、募金やベルマーク回収の団体に支援すること、そして、ボランティア活動に参加することです。ボランティア活動には、募金の呼びかけやイベントの手伝いなど、間接的に貧困を無くすために有効です。

私の中学校には、福祉の活動をしている環境委員会があり、放課後にベルマークの分別のボランティアなどを行っています。少しでも、世界の貧困問題への解決に向かう、私の一番身近な取り組みだと思います。

２０３０年までに、世界で達成するべき１７個の目標、ＳＤＧｓのうちの「貧困をなくそう。」世界中の子供たちが笑顔で美味しい水を飲み、けがや病気に立ち向かえる環境、そして毎日学校で学びを深められる明るい未来が一早く叶えられるよう、今できることを想いだけで終わらせず、行動に移したいなと思います。

「福祉について」

中萩中学校　３年　内田　航平

まず、福祉とはなにかを考えていきたい。

ぼくが思う福祉はいい活動のようなものでそこまで具体的には知らなかった。しかし調べてみると福祉の「福」と「祉」という字にはどちらにも幸せという意味があって、福祉とは「普段の暮らしの幸せ」とも言うことが分かりました。現在ではそちらの意味よりも「公的サービスにより、生活をより良くすること」という意味で使われることが多いことも分かりました。

次に、福祉の活動や取り組みは何があるんだろうなと思いました。調べてみると、たとえば、お年寄りや障がいのある人を支援する活動なら、在宅介護のサポート、外出介助や、一人暮らしの家庭の訪問、点訳・音訳、手話通訳や傾聴ボランティアなどがあることが分かりました。このような活動にたずさわる機会はあまりないかもしれませんが、自分でもできる清掃活動や募金活動や資源回収などの活動に積極的に取り組んでいきたいです。

次に、障がい者福祉について深く見ていこうと思います。まず障がい者福祉とは社会福祉の一つで、身体、知的発達、精神に障がいを持つ人々に対して、自立を支援する社会的サービスのことです。そして、障がい者福祉のサービスは、「介護給付」「訓練給付」「地域生活支援事業」の３つに区分されます。介護給付は住宅介護や生活介護などで、介護の支援を受けるものです。訓練等給付は、自立訓練や在就労移行支援などで、訓練等の支援を受けるものです。地域生活支援事業は、移動支援など利用者の状況に応じて実施するものです。

しかし、こういった福祉制度はあっても、障がい者の困ることとして、公共交通機関を使用しづらかったり、あまり働きたくても働けないなど、いろいろな問題があります。

これらの問題を解決するには、ぼくたちの障がい者を見る視点を変えなければならないと思います。日本では障がい者というとサポートが必要な人と見られることが多いですが、海外では「さまざまな特徴・特性をもった人たちの一人」という考え方をしています。一人ひとりが長所と短所を補い合って生活していけたらいいと思います。

「ご飯のありがたみと募金の大切さ」

中萩中学校　３年　　岡田　晃誠

僕や僕の兄弟がまだ小さい頃、夜ご飯を食べていると、たまにこう言う兄がいた。「お腹いっぱいでもう食べられない。」すると、僕の親はこう言っていた。「外国ではお腹いっぱい食べられない子供もいるのだから、感謝して食べなさい。」当時の僕は、何も気に留めていなく、ただ、ご飯は残すことはいけないとしか思っていなかった。

そして、大きくなって、コンビニエンスストアでお会計をしていると、ふと募金の箱に目がいった。それは災害で被害を受けた地域への復興の支援や、最近起こったウクライナとロシアの戦争で、ウクライナに支援を送るなどの募金箱だった。自分はその時、深い意味も特にないまま、募金をした。

今になって、親の言っていた意味がよく分かった。戦争や紛争、２０１１年に起こった東日本大震災のような震災が起こった、または起こっている地域では、自分の好きなだけご飯を食べれないだけでなく、自分の家で暮らしていた頃のような生活は送れない。今日ご飯を自分が満足するまで食べられていることに感謝をもてということを小さい頃から叩き込んでくれた親には感謝しかない。僕は、日頃の生活に感謝するとともに、苦しんでいる人達の役に立つような、募金をしていきたいと思う。また、募金の大切さが分かった。

募金活動は、これだけではない。僕の小学校、中学校で行われている赤い羽根募金もこれにあたる。この募金は現在、地域の福祉に利用されている。僕は、この募金を積極的に行ってなかった。周りの人があまり募金活動をしていなかったので、人に流されていたのだと思う。募金は流されてするものではなく、積極的に行うものだと思うので、これからは、周りに流されず、募金活動に参加したいと思う。

僕は、今までに習った事や、体験した事を通して、苦しんでいる人たちのために、復興を願って、募金したいと思う。小さい頃からの教えで、貧しい人たちがいることは知っているので、自分たちと同じような生活が送れるようになってほしいと思う。そして、こういう人たちが増えることで募金が増えたらいいと思う。

「人々の障がいへの理解」

中萩中学校　３年　　福田　海輝

僕は以前、障がいについての本を読んだことがあります。その本では特に、耳の障がいについて書かれていて、まだ周りの人の理解が足りていないなと思ったことが３つあります。

１つ目は、補聴器についてです。障がいを持っている人にとって必要不可欠なものであり、特別なことはなく、至って普通のものだという訴えも耳にしたことはありますが、実際に、差別はなくなっていません。僕が読んだ本では、後ろから歩いてくる足音に気付けずにぶつかるということがありました。障がいのある方はすぐに謝りましたが、相手の方から差別する言葉を吐かれてしまいます。障がい者の方は、「もう慣れた。」とおっしゃいますが、このような事に慣れてしまうような社会でいいのでしょ

うか。
　２つ目は、障がい者の国会議員の少なさです。過去に当選された方もいますが、差別によって、当選するのは一握りです。障がい者からの視点でしか見えない社会の現実を訴えようと出馬しても、スロープ付きの選挙カーがなく、自分や家族の車を改造しなければならないといったことがありました。また、周りの人々からの特別視などの影響で誹謗中傷の被害もありました。これらの問題には、社会全体で動き、解決することが必要だと僕は考えます。
　３つ目は、公共施設についてです。街の中の公共施設には、障がい者用のスロープや手すりが付いていない施設がまだたくさんあります。都会では、バリアフリーが進められていますが、地方では、まだ取り入れられていないことがあります。どこに住んでいても、障がい者の方たちが過ごしやすくすることも大切です。
　このように、障がい者に関しても、理解や配慮が足りていない場面というのは、たくさんあります。障がい者に対して、「社会的不利」といわれたりしますが、バリアフリーが社会に浸透すれば、解決されることもたくさんあります。僕は、この先の未来で障がい者が健常者と同じような生活を送れることを願います。

「１つの考えにとらわれず」

中萩中学校　３年　　松本　拓真

　ぼくは、ある一冊の本を読んで障がいのある人への見方が変わりました。その本は、耳の聞こえづらい女性と一般の男性が恋をする物語ですが、その女性は好きな人とは普通の女性でいたかったため初デートでは映画は字幕付きのを見たいと理由も言わずに押し付けて、男性が少しワガママだなこの子という考えになってしまうという場面があります。
　ここの場面を見た時に僕は、そういう所は言ってほしいと思いました。多分みんなもそうなんじゃないのかと思います。ただ、逆の視点になって考えてみたらどうでしょう。自分の障がいを言う、つまり自分のコンプレックス、または秘密を言うことです。そんな簡単に秘密を言えるものでしょうか。もし嫌われたりしたらどうしよう。そんな気持ちになるのではないでしょうか。障がいのある人が認められつつある世の中ですが、そうそう言えないと思います。
　そして次の場面、その女性が勇気を出して耳の障がいのことを男性に言いました。そして男性に仕事をことをたずねられました。その女性は事務員をしていて障がいのある人への支援制度がある所だが、その女性は高い音が聞きづらく会社の中でも聞きとりやすい男性と話すことが多いようで、社内では女性陣から陰口を言われるそうです。実際にも多いのではないでしょうか。障がいのことが知られておらず、色々かんちがいが、悪口などを言われたりなど。
　ここで僕は思いました。自分の偏見や考えで障がい者とひとくくりしてはダメなんだと。これは耳だけでなく、足の悪い人も、歩けるけど、あることをしたりするのが難しい人がいたとして、自分は、歩けるなら障がいなんかないじゃんと思いそうです。でもその人はその人なりに苦ろうなどもしているはずです。こういうことから僕は自

分の考えをあらためて深く考えていきたいです。

「みんなが安心して暮らせる社会」

中萩中学校　３年　　太田　葵

私には７９歳の祖父がいます。今年の２月の寒い夜中にトイレに行こうと思ったところ転けてしまいました。祖父は元々若い頃に首を痛めていて、そのうえに骨がとても弱い状態でした。だから今回転けてしまった時に大腿骨を骨折してしまいました。私は、よく「高齢者が大腿骨を骨折してしまうとベッドから起き上がれなくなり寝たきりになってしまう」ということを聞いていました。祖父は大腿骨の骨折だけでなく、転けた振動により首の頸髄を損傷してしまい、右の手足が動かなくなりました。骨折の手術は成功しましたが、右半身は不自由になったこともありリハビリがうまくいかず、歩くこともできなくなり、その上、自分の力で食事が出来なくなり、胃瘻という決断をしました。この間まで元気だった祖父が短期間で弱ってしまいました。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、祖父に会えることもなかなか難しかったのですが、それでも、家族で励まし、少しずつ元気になり、車椅子に乗れるようリハビリを頑張りました。もうすぐ、退院して家で生活をしようと考えていた矢先、状態が悪化し、ついにあと数週間という余命宣告が出されました。家族はその言葉に涙を流しました。そして私達は祖父に長生きしてほしいという思いから透析を始めました。祖父自身が曾祖母が透析を経験していたこともあり、透析をとても嫌がっていましたが、祖父も家に帰りたいという気持ちがあるので、透析を頑張ろうと決断しました。そして、これまで祖父のケガがあるまで、介護のことをあまり知らなかったので、介護サービスについて調べました。

介護サービスとは、介護保険に加入している人に介護が必要なったときに受けられる公的サービスのことです。介護サービスでは主に３つの種類があります。１つ目は居宅サービスです。介護を必要としている人が住むところを変えずに利用できるサービス全般です。介護福祉士や「デイサービス」「デイケア」に代表される通所サービス、「ショートステイ」と呼ばれる短期入所生活サービスなどがあります。２つ目は、施設サービスです。「介護老人福祉施設」「特別養護老人ホーム」「介護療養型医療施設」という３つの施設に入所している要介護者に給付されるサービスの　内容が異なります。最後に地域密着サービスです。介護を必要とする人が可能な限り住み慣れた地域で暮らせることを目的に作られたサービスです。利用できるのはその地域の特性やニーズを反映したきめ細かな内容のサービスが提供されています。

祖父も元気だった去年には、居宅サービスにあるデイサービスを利用して入浴サービスを受けたり、転倒防止の器具を借りるなど家で楽しい生活をすることができていました。現在祖父はまだ入院しており、家に帰れることができるかどうかもわからない状態となってしまいましたが、私がお見舞いに行くと、よく来てくれたなと喜んでくれます。祖父自身が大変な状態にもかかわらず、家族の心配をしてくれます。そんなやさしい祖父だからこそ、また元気になって家に帰ってきてほしいです。今親たちが祖父の介護をしていますが今回調べた色々な介護サービスを利用して、どうにか祖

父を家に帰らせてあげてみんなで集合できるよう、私も何か協力していきたいと強く思っています。

「私が救う」

中萩中学校　３年　　奥宮　百音

　みなさんは、世界に５歳まで生きられない子供がたくさんいるという事を知っていますか。世界では、その命を救うために沢山の活動が行われています。

　まず、５歳まで生きられない子供は年間５６０万人います。おもにアフリカに多く、この原因には、肺炎・マラリア・下痢などのワクチンで救える病気が多くあります。私はそれを知ってすぐに動かなければと思いました。今思えば、日本に生まれた私達はすぐワクチン接種を受けられています。そのおかげで私達は今、こうして生活できているのだと気がつく事ができました。けれど、アフリカにあるナイジェリアやチャドでは死亡率が高く、ワクチン接種が受けられない子供が大勢います。みなさんは、この大勢の子供の一人でも救いたいと思いませんか。私はすぐにでも救いたいと思い、ワクチンについて調べてみました。ワクチンは一人分約２０円で、意外にも私達がすぐに払える値段でした。考えてみると、たった１００円でも、５人にワクチンを贈り小さな命を救うことができるのです。もっとお金を集めて、やっと一人を救えるのだと私は思っていましたが、私たちが払える値段だったことに驚きが隠せませんでした。それにくわえ、１円でも、感染症予防の薬が買える事がわかりました。けれど、どこに募金をしたら良いのか、どうやって子供達に届けたらいいのかがわかりませんでした。でも募金箱などが置いてあった場所を思い返してみると、コンビニや、ジョイフル・ガスト（ファミリーレストラン）、スーパーなど、とても身近な所にある事がわかりました。こんなに近くにあったのに、なぜ私は募金をしようとしなかったのだろうろ、とても後悔しました。

　今回調べた事で、ワクチンで救える命があること、１００円の募金だけでも、今の世界の状況を変えることができる事、身近な所に募金箱があるということがわかりました。私はこれから、１円や１００円でも救えることができるのだと、みんなに知らせていきたいです。私は、一人ひとりの小さな命を大切にして、一人でも多くの人を救ってみせます。みなさんも救える事のできる大切な命を救ってみませんか。

「福祉についての自分の思い・考えていること」

中萩中学校　３年　　小野　かなみ

　自分の周りには、福祉について関わっている人が数名います。最近その一人から福祉についての話を聞いたことで、「日本の福祉はどうなっているのか」と、とても興味が湧いてきました。しかし、自分は全く福祉について知らなかったので調べてみることにしました。

まず初めに、福祉とは何かを調べました。すると「最低限の幸福・社会的援助を提供する理念」と書かれていてくわえて福祉には、社会福祉制度というものが６種類もあることが知れました。自分は福祉について福祉施設など介護のイメージがあったので全く違うなと感じました。

次に、日本の福祉についてひと通り確認することができたので他国の福祉状況が気になりました。調べてみるとある記事が目にとまりました。それは、福祉は主に北欧諸国が進んでいるという記事です。てっきり自分はヨーロッパの北西部が進んでいると思っていたので少し驚きました。また福祉が一番進んでいる国がフィンランドということも知れました。そこで自分は、北欧諸国と日本の福祉の何が違うのか比較してみようと考えました。自分は初め北欧の人は体が丈夫だからなどと考えていましたが北欧は高福祉・高負担。日本は中福祉・中負担で自助の精神が非常に弱い。という結果となり自分は初めて高福祉・高負担という言葉を知りました。それだけでも福祉が進んでいるなと感じたのにも関わらずフィンランドについて深く探ると、北欧型福祉国家の三つの特徴がありました。その中でも自分が考えた部分が「介護が文化として生活の中に定着している」という所です。これは自分の憶測ですが、自分のような一般市民の生活の中に介護は定着していないと思います。理由は、いつ家族が病気を患い看病をしなければならなくなった時、今の自分は完璧な看病はできません。しかし、文化として定着していればご飯を食べる事のように行う事ができると考えたからです。なのでここで考えた自分の意見としては、日本全体でもっと国民に介護や福祉を日常生活の中で学べる機会を設ける事が必要なのではと思いました。

しかし、まだ日本の福祉の課題点があります。それは少子高齢化や価値観の多様化によっての社会の繋がり、地域に関する関心の希薄化です。これには自分も同意見です。特に最近はコロナ禍という事もあり行事が無く、地域の人とも話す機会が減ってしまっているなと感じている所でした。そこで自分は地域の希薄化の対策として、地域の活動には積極的に参加する事が良いと思いました。当たり前のことですが行事があることを知らなかったり時々参加しないこともあるので、定期的に回覧板を見て確認したり自分にできることを精一杯することが大切だなと思いました。

自分は、この福祉についての作文で日本や他国の福祉の現状、地域の問題について知ることができました。特に印象に残っている点は、日本の福祉は世界から見てあまり上位ではないという点です。自分は初め、日本の福祉は十二分に整っていると思っていましたが他国と比べると少し遅れていると気づき驚きました。自分は福祉について何もできないと思い気づかぬ内に知ろうとしていませんでした。しかし、この作文を通してよく考えてみると寄付やボランティアなどでも貢献できるのだと気づくことができました。なのでこれからは、積極的に福祉ついて気付いたことは行動に移せるよう日々意識を持って生きていきたいです。

「福祉について」

中萩中学校　３年　　片上　紗来

私は今月の初めにあったワークキャンプに参加しました。ワークキャンプでは、障

がいのある方の生活・高齢者の方とのコミュニケーションについて学びました。他にも、実際に福祉の現場で働いている方や、福祉の勉強をしている学生さんからのお話を聞きました。

障がいのある方の生活では、障がいのある人が近くにもいるという視野をもったり、相手の立場になってどうふるまればいいのか考えること大切だと学びました。

次に高齢者の方とのコミュニケーションでは、相手と同じ表情になったり気持ちを理解することで距離が縮まることや、否定や説得ではなく世界観に合わせて話すことが大切だと学びました。

これらのことを学び、これから気をつけたいと思ったことが二つあります。まず一つ目は、障がいのある方との接し方です。私は今まで障がいのある方との接し方は難しいと思いこんでいた部分がありました。でもワークキャンプを通して、相手のことを考えていなかったからそう思っていたのだと気づくことができました。相手の立場になってその人の気持ちを考えるということは、障がいのある方や高齢者の方と関わるときだけではなく私の生活にも大切なことだと思います。なので、誰と関わるときでも相手の気持ちを考え行動するように気をつけたいと思いました。

二つ目は、できないことを無理にさせてしまわないということです。障がいのある方や高齢者の方は、やりたくてもできないことがあります。それを無理にさせてしまうと、とても嫌な気持ちになります。だから、コミュニケーションをとりサポートすることで嫌な気持ちにならないように気をつけたいと思いました。

私は、ワークキャンプを通して今まで知らなかった福祉についての知識を知ることができました。それに加えて、私が間違っている知識を持っていたことにも気づくことができました。福祉は、私にとってすごく身近なことだと思うのでワークキャンプで得た知識をこれからの生活で生かしていけるようにしたいです。

「福祉について思ったこと」

中萩中学校　３年　　工藤　莉央

私は、福祉について浅慮でしたので、ネットで調べてみました。

まず、驚いたことが一つあります。それは、福祉は「幸せ」と意味しているところです。今まで福祉と聞いたことはあったのですが、意味を知らなくて、初めて見たとき素敵過ぎて驚きが隠せませんでした。

福祉施設について調べてみたところ、様々な種類があることも初めて知りました。

それは、介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士の３福祉士の他に、非常勤の医師や看護師、指導員、保育士などがありました。

保育士が福祉だということにびっくりしました。精神保健福祉士という名前と精神に関わるお仕事なのでかっこいいなと思いました。

福祉施設、介護施設などは、日常生活を支援、高齢者のサポートをするお仕事なので、高齢者の方にとってはとても喜んでもらえるのではないかなと思いました。

ヘルパーさんがしてはいけないことがありました。それは、利用者さん以外の食事を作る、正月や節句等の特別な季節料理や手の込んだ料理、本人が使わない部屋やベ

ランダ、庭の掃除、家電、家具の移動や修理、自家用車の洗車や清掃、デパート等への付き添い、家族分の買い物、車の運転の代行などです。たくさん決まりがあって覚えるのが大変そうです。初めて見た時は疑問だらけだったけれど、よく考えたら理解できました。私ならやってはいけなくても行動しそうで少し怖いです。声がけも丁寧に、慎重に行わなければいけないので緊張します。指示や詰問などは控えたほうがいいと知れたので良かったです。

病院と介護施設の違いが気になったので調べました。何が違うのか、それは利用目的です。病院は、重度の病気や怪我の入院患者に対して「治療や、回復、退院」を目的として技術を提供します。介護施設では、要介護者に「心身ともに自分らしく生き生きとした生活」を送ってもらうことを目的とされています。

どの施設でのお仕事も大変だけど、素敵だなと思いました。福祉の福に幸せと意味されているのがかっこいいです。

利用されている方々が笑顔で毎日過ごせていると思います。重要なお仕事だと心から思います。

「高齢者の福祉」

中萩中学校　３年　　小山　結菜

私は、福祉についての体験で考えさせられたことがあります。

私には、今年で９０歳の曾祖母と９６歳の曾祖父がいます。二人は、足腰が弱っていたり、耳が遠くて日常生活で困ることがあります。そこで、先日、福祉について考えさせられる出来事がありました。

先日、親せきでの食事で、曾祖母達も一緒に焼肉屋さんへ行きました。すると、お店の座敷へあがるところに大きな段差がありました。その時は、母や祖母達が二人を支えていたので登ることはできましたが、いろんな公共施設でこういう段差などがあると、いつか怪我をしてしまうのではないかと思いました。他にも、歩く時に手すりなどがないとしんどそうだなと思いました。そういう面から、老人ホーム以外などの公共施設でも、もう少しお年寄りが過ごしやすい環境になったらいいと思います。

他にも、曾祖父はかなり耳が遠く、補聴器をつけていても、大きくハキハキした声で話さないと伝えることができません。私たちのように聞こえる人が付きそっている時はいいのですが、曾祖父と曾祖母だけで買い物をする時などは大変じゃないのかなとも思います。このように考えると、日々の生活でお年寄りをもっと気遣うべき課題があると思いました。

今、日本は少子高齢化が進んでいます。その中で、若者がお年寄り全員を支えるのは難しい思います。だから、私は、高齢者もよく使う公共施設のバリアフリー化をもっと進めるべきだと思います。そうすることで、若者の数が減り、補助が難しくなっても、お年寄りが過ごしやすい社会をつくることができると思います。

しかし、若者が近くにいる場合は補助をする方がお年寄りも安心できると思います。なので、バリアフリー化が進んでも、私、お年寄りが困っていたら助けたいです。今、自分にできることを探して全ての人が過ごしやすい社会にしたいです。

「私の福祉」

中萩中学校　３年　　曽我部　弥絵

私の母は、介護施設で働いています。私は時々、母から仕事のこと、職場のことを聞きます。いつも疲れて帰っていて、とても大変な仕事なんだろうと思います。ですが、施設に来ているお年寄りの話になると楽しそうに話してくれます。福祉ってかっこいいです。

私は、母の仕事についてもっと詳しく知りたいと思い、ワークキャンプに参加しました。障害のある人のお話、高齢者とのコミュニケーションなど様々なお話を聞きました。母が介護福祉士をしていることもあり、やはり高齢者との関わり方に興味を持ちました。友達同士でコミュニケーションを図るときより、気を付けなければならないことが多いと感じましたが、本当に大切なのは友達同士でも大切になることだと思います。なので、人とコミュニケーションを図るときは、今まで以上に笑顔でいたり、反応をきちんとしたりしていきたいです。

高齢者の方は、耳が少しずつ悪くなったり、目が悪くなったりすることは知っていましたが、聞こえにくい音や、「消毒液」と「ショートケーキ」のように判別が難しい言葉があることを知りました。私の祖母も会話をしているときに、よく聞き間違えたり、「もう一回言って」などのことがあります。そんなことを減らすには、ジェスチャーを加えたり、近くで話したり、少し声のボリュームを上げて話すことが大切だと考えます。また、曾祖母は、少し認知症で同じことを何度も何度も言います。今までは、「何回同じこと言うんよ」と冗談っぽく言っていました。ですが、正解として、何回同じことを言っていても初めて聞いたようなリアクションをとることが大事だとワークキャンプで教わり、私は曾祖母の自尊心を傷つけていたんだと気づけました。今後は、二人が楽しく会話ができるよう気を付けたいです。

曾祖母は最近、介護施設に通い始めました。会う度、楽しかったこととか最近したことなどを笑顔で話してくれます。たくさんお友達ができたそうで、とても喜んでいるのを見ていると、私自身も幸せな気持ちになります。祖母が今まで曾祖母の身の回りのことなどをしていたので、施設に通い始めてから楽になったとポツンと言っていました。そう思うと母は、大変ながら、とてもすごく人を笑顔にさせる仕事をしているんだと思いました。働いている人も、通っている人も、その家族をも笑顔にできる福祉って、やっぱりかっこいいです。

「ボランティア活動を通して」

中萩中学校　３年　　田中　陽咲

私は、今まで「福祉」について考えたことがあまりありませんでした。ですが、中学校３年生になり、「受験生なんだ。」と自覚するにつれ、内申点や自分に対する評価などが、以前よりも気になるようになりました。そんな時に友達から、「ボランティア活動したら、上がるらしいけん一緒に参加せん？」と言われたので、参加することにしました。

まず、最初に参加したボランティアは、「ＢＩＫＡ☆ボラ」です。このボランティアは、放課後に集まってベルマークの仕分けをするといったものです。正直、「面倒だな。」と思

っていました。ですが、いざ参加してみると、意外と楽しく、学年や組、性別関係なく協力して活動することができました。それになにより、一人一人が集めて持って来たベルマークが様々なことに利用されて、社会に貢献されると考えると、あまり気にしていなかった福祉が、急に身近なものに感じられました。

それから私は、ＢＩＫＡ☆ボラはもちろん、朝清掃や、その他で自分にできることはしようと心掛けるようにしました。最初は、「内申点のため。」と軽い気持ちで参加しましたが、今ではボランティア活動がすごく楽しいです。

このように私は、学校で開かれているボランティア活動を通して、社会のために貢献できるということを知りました。そして、ボランティア活動は、強制参加ではなく自主参加です。自分が決め、自分で行動することはとても大切で、とても難しいことだと思います。ですが、強制的に参加し渋々するのと、自主的に参加し楽しんでする。この二つには、とても大きな差があると思います。自主的に参加することで、活動を積極的に取り組むことができ「また参加しよう。」という気持ちになれます。そして、自分の一つの行動で社会に貢献でき、繋がれることを実感できます。

最後に、福祉活動は、社会に貢献することができ、自分を変えることもできます。社会に貢献したい、自分を変えたいと少しでも思っている人は是非、福祉活動に参加してみて下さい。

「福祉について」

中萩中学校　３年　　杉野　翔哉

福祉とは、世界中の人々の困っている人達に、少しでも、手助けをしたり、全員が幸福で幸せにすごすためのものです。

福祉委員を今年してみたけど、人のためにできていると感じれたり、本当に福祉のよさを感じれてよかったと思いました。

他にも公的扶助やサービスによる生活の安定があり、これは自分たちが日常的に使用している意味で使っているのと合意していると思いました。

福祉は、１９４６年に制定された、日本国憲法の２５条で「社会福祉」についてのべられている。

今は、高齢化が進んでおり、しかし。それに介護が少なく、このままだと、高齢者が増えていくため、なにもできずに亡くなってしまう人が増えていってしまうと思うので、それが今、福祉における問題だと思います。

なので、介護士を増やすために、国が介護士の給料を上げるようにしたり、介護士と何かの仕事を２つ以上かけもちさせやすくしたり、ボランティア活動の一つにいれたりしていくことなどをしていかないといけないと思います。

一方、給料を上げてしまうと、税金が上がってしまったり、２つ以上の仕事をしてしまうと、どちらかにかたよってしまったり、ボランティア活動にしてしまうと人が集まらなくなってしまったりしてしまうのも、課題だと思います。

でも、この中でも、ボランティアにしたらお金もかからなくて、人が集まるように呼びかけをして、人を集めれば、問題は、かいけつすると思うので、介護士の人の数

がたりないのは、かいけつすると思いました。
　このように、介護士の人がたりなかったり高齢化が進んでいったり、世界中にはまだまだ貧困でくるしむ人が何千人もいるなかで、どのようにし、数を減らしていけるようにしていけるかや、福祉活動をかっせいかできるかなど、いろいろな、問題をかいけつして、世界中の人が全員たのしく、平和に暮らせるような、世界にしていけるようにして福祉活動に取り組めるように積極的に参加できるように今からしていきたいと思いました。
　今回福祉について考えたけど、今あたり前にしているようにしていることが、あたり前にできていない人々がいるので、そういう人達に少しでもそういう人達に手助けをしていけるようにして、世界の中でもまだまだ貧困でくるしむ人たちがいるので、その人達が少しでも、減るように願っていきたいと思いました。

「『ふくし』について」

中萩中学校　３年　　山内　悠生

　僕は「ふくし」について何回か聞いたことはあっても、その意味も知らないから、スマホのＧｏｏｇｌｅで調べてみました。すると福祉･････しあわせ、幸福。特に、（公共扶助による生活の安定や充足。また人々の幸福で安定した生活を公的に達成しようとすることと書いてありました。また、もともとは幸福という意味で使われていたが、今では公的サービスにより生活をより良くすることという意味で使われてることを知りました。
　僕はこれらを見て、老人ホームについて書くことを決めたけど、老人ホームに行ったこともないし、入った人も周りにはいなさそうなので、ＡｍａｚｏｎＰｒｉｍｅＶｉｄｅｏで「老人ホーム」と調べたところ「老人ファーム」という映画があり、見ました。ぜひ見てください。その映画のあらすじは、和彦は母が病気を患ったことをきっかけに、実家へと帰った。そして、老人ホームの介護職員の仕事に就いた。和彦は周囲に対して文句や意見を言わず、大人しい性格だった。しかし、気の強い入居者のアイコと出会ったことで少しずつ変わり始めるというものです。僕はこの映画を見て鳥肌が立ちました。過こくな仕事かんきょうで男性がどんどん変わっていく様がとてもリアルに描かれていたからです。何なら１番やばそうと思っていた主人公の上司が一番人間としてまともかもしれないと思いました。
　そして、レビューには赤ちゃんよりも扱いが難しく、精神的にやばいそうです。また、仕事の量と給料が見合っていないそうです。
　老人を老人ホームとして入れるのもいいことだけど、それによって精神をきたすのはとても怖いと思うし、これから少子高齢化が進んでいくからもっとたくさんの人が入ってきて働く人も次第にへり、キャパオーバーになってくるのかなと思いました。
　今回ふくしを学んで、いいことだけど、全ていいと限らないのかと思いました。

「私達にできること」

中萩中学校　３年　　伊藤　捺未

現在、日本では少子高齢化が進んでいます。そんな社会では若い人達が高齢の方々を支えていく必要があります。

世の中には「福祉」という言葉があります。この言葉をきいて想像するのは介護や支援などだと思います。けれどこの言葉の本当の意味は「しあわせ・幸福」というとても明るいものです。福祉の語源をたどると「よりよく生きること」という意味がこめられており、福祉とは人の幸せな生き方ということです。

私達の身の周りには様々な福祉があります。一つ目は高齢の方を支援するものです。これは一番身近なものだと思います。特別養護老人ホームなどが例で利用者が多いものです。二つ目は子供の生活を支援するもので、乳児院、児童養護施設などがあります。三つめは、障がいをもっている方を支援するものです。同行援護などがあります。他にもたくさんの福祉があるのですが、私が一番気になったのが三つ目の障がいをもっている方を支援する福祉についてです。私は福祉といえば高齢の方々を支援するという印象が大きくあり、障がいを支援するという印象があまりありませんでした。けれど福祉についての知識をつけていくにつれ、様々なことを知ることができました。
障がい福祉サービスの中にもたくさんの種類があるのですが、私が目についたのは「居宅介護」というものです。これは簡潔に言うと、生活全般にわたる援助をすることです。身体障がい・精神障がい・知的障がいなどの重度の方々が利用対象者であり、人生のほとんどを介護士の方と過ごすという方もいます。年々、障がい福祉サービスの利用者は増加しており、介護士は減少しています。これは少子高齢化と同じで、支えが必要な人々が増えていくばかりで、支える人がいない状態です。この現状は深刻化していくと、私達が支えが必要になる年齢では誰も支援できなくなってしまいます。介護士が少ない理由は、生活の半分を利用者と過ごし、常に利用者への気遣いなど負荷が大きいためです。仕事内容を見ると、とてもきついものだと思います。福祉とはこのように簡単な事ではないのです。けれどどの人にも幸せになる権利があるのです。そのために支えていくこと大切なんだと思います。

私は福祉について調べてみて、まだまだ知らないことがたくさんありました。私達、子どもはもっと社会について学ぶべきだと思います。赤の他人のために働くというのではなく、今後の自分のため、日本の未来のために支えるという考え方が大切なんだと思います。ひとりひとりが自分と他人の幸せを考慮し、行動に移すことでよりよい生活を送れる世の中を目指すという意識をもって生活していきたいです。

「福祉とは」

中萩中学校　３年　　髙橋　亜依有

みなさんは、「福祉」とは何か考えたことはありますか。
私は、ボランティアなど自分が自主的に、社会のために活動するものだと思っていました。

しかし、少し気になって、インターネットで検索してみると、福祉は行政や企業などが行うもので、ボランティアとはその福祉でカバーできない部分をカバーすることです。それをもっと簡単にあらわすと、バームクーヘンの中心の穴の部分が援助を受ける立場の人で、バームクーヘンの外が福祉を行っている部分です。

そして、バームクーヘンそのものがボランティアを行っている人です。

私は、今までボランティアは、言葉は聞いた事あるけど、どういう活動をしているか知りませんでした。

ある日、私の学校で、放課後や朝の早い時間にする、奉仕作業である、ちょいボラというのがあると知って、ひまつぶしに１回行ってみると、意外に楽しくて、そこから毎回参加するようになりました。

私は、今まで自分が人にめいわくをかけてばかりで、周りのことなどどうでもいいと思っていました。

しかし、いざ、やってみると、とてもやりがいを感じるし、人からほめられたり、感謝の言葉をもらうと、自然とまたやりたいと思うようになりました。

ボランティアは、福祉に比べると、足元におよばないくらいだけど、そのちょっとした心がけや、行動で自分も変われるし、周りの人もかえられます。

ぜひ皆さんも参加してみてください。私はこれからボランティアだけでなくもっと福祉のことを学んで、高齢者の人には、はいりょしたり、障がいをもっている人には、けいべつ的にみるのではなく、接し方や態度に気をつけるという、基本的なことから、取り組んでいきたいです。

「父と母から学んだこと」

中萩中学校　３年　　田上　陽南

私が福祉についての作文を書こうと思ったきっかけは、母と父の存在があったからです。母は保育園で、父は障がい児通所施設で障がいをもった人と関わる仕事をしています。私はそんな父と母から学んだこと、体で感じたことを作文に書こうと思いました。

私にとって福祉とは障がいをもった人を支援することというイメージでした。しかしこの作文を通して福祉の正しい意味を学ぶことができました。福祉とは幸せという意味があるということを知りました。父と母を見ると障がいをもった人と関わることは大変なんだと思っていました。でも今考えてみたら、父と母の口から「嫌」という言葉はなく「やりがいがある」という言葉を聞きました。今の世の中でも障がいをもった人と関わるということが嫌だと思う人はいるでしょう。私はなぜやりがいがあるのか聞きました。母は小学校入学する時の将来、父は高校３年生までの子が社会に出るときの将来を考えていると言っていました。年れいや人によって関わり方は異なるし、同じ障がいをもっていても一人として同じ人はいないしそれが個性だと考えなおすことができました。

私の身近にも障がいをもっている人がいます。前までの私は関わりたくないと思っていました。どう関わればいいのかが分からない、自分が言った一言で傷つけること

になったらどうしようという心配になっていました。でも父と母と福祉について話すようになると、障がいについての理解が深まりました。私にも個性があるよう、障がいをもっている人にも個性があり、互いに今という人生を生きていること変わりはないことに気づかされました。同じ人間だからこそ尊重しないといけないし、障がいをもっているからと差別していい理由にはならないと思いました。

私はこの作文を通して福祉の本質について学ぶことができました。父と母とのコミュニケーションだけからでも、自分の考えが変わったり知識を得ることができました。これからも父と母とのコミュニケーションを大切にして、より福祉について知っていきたいです。

「目が不自由な陸上選手」

中萩中学校　３年　　徳増 杏優

私はある陸上の大会で目が不自由な人を見かけました。次の日はその人のレースを見ることができました。２００メートル走に出場していて健常者の人たちと同じ組で伴走者と走っていました。私は今までにテレビで目が不自由な人が伴走者と走っているところを見たことはあったけど直接見るのは初めてでした。どのくらいのタイムで走るのか楽しみな気持ちでレースを見ていました。２００メートル走はカーブがあってカーブのところで選手と伴走者の体がぶつかったのを見て大丈夫か心配になったけどスピードが落ちずにゴールしていました。健常者の人ともタイムは変わらずハンデがあっても負けてないどころかかっこいいなと思いました。この目が不自由な陸上選手のレールを直接見て思ったことが二つあります。

一つ目は障がいがある人は健常者の人たち以上の支えが必要だということです。私が見かけた人は白い杖を持っていて移動するときは誰かの肩と白い杖を頼りにしていました。白い杖だけではなく誰かがいるだけで安心感が違うだろうなと思いました。また、その人が陸上競技ができているのは伴走者はいるからだと思います。障がいを理解してくれる人が多くなればいろんな人が生活しやすくなったり、いろんなことに挑戦しやすくなったりすると思います。でも、もし障がいがある人が困っている場面にであったとき相手が健常者でもそうかもしれませんが私には何か手伝える自信がありません。なので知らない人にも話しかけれる練習をしておきたいです。また障がいのことについても、いろいろ学んでおきたいです。

二つ目に健常者の大会と障がい者の大会の差についてです。オリンピックとパラリンピックを比べると注目されるのはオリンピック、テレビでよく放送されているのもオリンピックであまりパラリンピックを見たことがありません。同じ規模の大会でも差があるのはどうしてだろうと思います。健常者と障がい者で意識的な差も無くなったらいいなと思います。

障がい者と関わることが少なくても必要なときは助けて、健常者と同じように活躍しているときはしっかり見て障がいを理解することが大切だと思いました。私はこれから障がいのことやパラスポーツについて調べて理解を深めていきたいです。

「ふくしについて」

中萩中学校　３年　　藤田　留衣

私は、福祉についてほとんど考えてきませんでした。しらべてみると、福祉とは、「しあわせ」や「ゆたかさ」を意味する言葉ということを知りました。市民に最低限の幸福と社会的援助を提供するという理念を表すということや、社会福祉では、狭義には基本的人権や生存権の保障の観点から生活困窮者への生活保障や心身に障がいなどがあり介護を必要とする人のための公的のサービスのことということも知りませんでした。

そのことを知った私は、福祉活動のページを見てみました。すると、福祉活動への募集や、福祉施設への訪問する活動メンバーの募集をしていました。親子で参加するものがあったり、高齢者の方と学生の交流会への参加募集のものがたくさんあって、「団体でも参加したりしているんだな」と思いました。もっと下を見てみると、「中高生によるチャリティームービープロジェクト」というものもあり、とてもはばひろいものなんだと思いました。チャリティーもその一つなんだなと思いもっと福祉について考えてみようと思いました。すこしおどろいたこともありました。それは、「リモート参加もいい」ということでした。会場に行けない人でも、参加できることにおどろきました。人に会うのが怖い人やとおいところにすんでいる人でも参加できて、やさしいなと思いました。「できないをできるに変える！」というものもあり、「しあわせ」というものに関連しているなと思いました。学校でもやっているものもありました。「書き損じはがきや、中古ＣＤ、ＤＶＤ、ゲーム」といって学校のやつよりははばがひろくて、こんなものもあつめているんだとわかりました。よくきく「子ども食堂」にもかかわっていてすごいなと思いました。

最後に、私はこれから時間があれば参加してみたいなと思いました。これから、もっとたくさん福祉にかかわっていきたいです。

「ふくしについて」

中萩中学校　３年　　藤森　日菜

私は福祉といったら、介護や募金のイメージがあります。みなさんは福祉といったら何を思いうかべますか。福祉について正解があるのか調べてみたり、聞いてみたりしました。簡単にまとめると「世界中の人が幸せになれるように」だと私は思いました。福祉について正解があるのか私は疑問に思いました。よく考えると、世界にはいろんな人がいていろんな考え方をもっている人がいるからいろんなとらえ方があると思いました。私のこの作文も良いと捉えるえる人もいれば、気に入らない人もいるなと思いました。

私は過去に福祉委員や環境委員、最近ではボランティア活動に参加しています。この第１回に参加した理由は、私が友達に「このボランティア一緒に行かない。」と誘ってみました。そしたら友達が「いいよ。行こ行こ。」と言ってくれたことを覚えています。いざ、参加してみると、すごく楽しく、少し他学年とも交流が出来ました。活動

内容はベルマークの仕分けでした。少し小さくてみにくかったけど、みんなの頑張りが誰かの幸せに変わるんだと思いました。委員やボランティアをやって無駄になることはないし、誰かを幸せに出来ると思いました。この第１回のボランティアがすごく楽しかったので何回も参加したいと思いました。すごく素敵な体験が出来たと思います。

私が小学校１年生か２年生の頃夏休み、私は姉と一緒に祖父祖母の家に泊まりに行きました。祖父祖母の家には祖父の父と一緒に住んでいました。祖父の父はかなり年が上だったので、自分で歩くのも大変そうで、トイレや食事も自分で動いたり食べたりも大変そうだったのを鮮明に覚えています。祖父の父は祖父と祖母に介護されていました。ある日、祖母と祖父に介護されているのを見ました。祖父の父はかなり年がいっていたので、厳しく介護されているのを、姉と一緒にそっと見ていました。時間がたつと祖父の父はトイレがうまく出来ず、祖父と祖母に怒られいるのをまた、姉とそっと見ていました。この時私は何かできなかったのだろうかと考えました。この出来事の表現あまりよくないところがあるが、この表現の仕方は当時の私が思っていたことを表しました。この出来事から介護や人のために働けたりする人はカッコイイと思ったし素敵だと思いました。私も人のためになるような人間になりたいと思いました。

私が最初「福祉」といったら介護や募金と言いましたが、介護や募金から連想していくと「幸せ」になると思いました。皓の作文を書いていないと福祉について介護や募金という考え方で止まっていたなと思いました。この作文でいろんな事について学べた、きっかけだと思いました。この作文を書く前までは身の周りに福祉はそんなにないなと思っていたけど、この作文を書いて身の周りには福祉がたくさんあることがわかりました。

「これからの社会」

中萩中学校　３年　　山下　舞奈

この福祉作文にあたって福祉の意味について調べてみると福祉には「普段の暮らしのしあわせ」とも言われていて、「福」も「祉」もどちらにも「幸せ」と意味が込められているそうです。そしてこの福祉という言葉はよく聞くけど自分に全然関係ないと思って深く考えませんでした。けど、将来に関わることだったので、ちゃんと考えることも大事だと思いました。なのでこれを機に少し考えてみようと思います。

今の日本では、合計特殊出生率が減少し、医療技術の進化により、平均寿命が延びていっているので、少子高齢化が進んでいます。なので、２０５０年には、高齢者一人を支える現役世代の人数は、２．４人になります。１９７５年は一人につき７．７人でした。厚生労働省の調査でこのように記されていました。これに記されている通りに高齢者一人を支える現役世代の人数が減少すると、日本は人口が減少して消滅していくと思います。それを防ぐために、子育て家庭が暮らしやすい社会にするために、ニーズにこたえていくことが必要だと思いました。子供が過ごしやすいように保育園や幼稚園などをもっと安心安全なものにすることがいいと思いました。最近虐待のニ

ュースが多く見られるからです。全ての部屋に監視カメラをつけたり、保育士の業務負担を軽減することで防止することができると思います。親が育児しやすくするためには、保育園や幼稚園などの保育料を無償化し医療費を全国で無料にしたら楽になると思いました。今は物価高騰でいろいろなものが高くなっているのでそれで生活が苦しくなっている家庭も多くなっているじゃないかと感じたからです。

今すぐに実行することは難しいと思うけど少しずつでも実行できたらと思いました。これから少子高齢化を少しずつ無くしていきよりよい日本になればいいと思いました。

「おじいちゃん」

大生院中学校　２年　　伊藤　楓華

私にはおじいちゃんがいます。一緒に住んではいませんが、近くに住んでいるので家に行くことはよくあります。いつも話しかけてくれるおじいちゃんはずっと元気だろうと勝手に思っていました。

いつも通り、おじいちゃんの家に行くと、おじいちゃんの姿がありませんでした。おばあちゃんに理由を聞くと、「少し前に入院したんだよ。」と言いました。おじいちゃんは心臓の病気になってしまったそうです。入院中はおばあちゃんが毎日遠い病院まで来るまで通って、荷物を届けていました。大変なのに私たちには笑顔でお菓子をくれるおばあちゃんをみて、胸が苦しくなりました。おじいちゃんの容態がよくなっていき、無事退院することができました。退院後、退院祝いをするために親戚の人たちが集まりました。退院後、初めてみたおじいちゃんは、やせてしまっていました。話しかけると、「え？なに？」と返ってきて、会話が続かずおじいちゃんが変わってしまったと少し寂しさを感じました。

私は前まで当たり前だと思っていたことが当たり前ではないと気が付きました。もっと早く気づいていれば。と思ったけど、過去には戻れないと思い、今を大切にするということを心に決めました。なので、これからは家族や友達、関わりのある人達と過ごす時間を大切にし、こうかいが残らないよう過ごしていきたいと思います。おじいちゃんやおばあちゃんから得たことを活かしていきたいと思います。

「今、私に出来ること」

大生院中学校　２年　　近藤　美咲

私の地域は高齢者の方が多く、中でもひとり暮らしをされている方がともても多いです。

ひとりで生活すると、どうしても独食しなければなりません。そこで子ども食堂を定期的に開催し、高齢者の方と子供が一緒にご飯を食べています。婦人会の方達にご飯を作ってもらい、私達小中学生がそれを運びます。最初は知らないおじいちゃん、おばあちゃんと話すのは少し怖く自分からはなかなか話しかけられませんでした。で

も運んであげたら、「ありがとう」や、「服、かわいいね」など、優しく話しかけてくれました。私はすごくうれしかったし一緒にご飯を食べて会話するだけでも来る人にとってはそれが生きがいになるのかなと思いました。

子ども食堂だけでなく、普段の登下校中にも高齢者の方とよく会います。特に近所の方とは少し話をしたりすることもあります。部活に行っている時は、「どこに行っているの？そう、暑いけど頑張ってね」と応援してくれたり、あいさつをすると、「いってらっしゃい」と言ってくれることが多々あります。ある日、私の祖父が私に「〇〇さんがお孫さんはいつもあいさつしてくれるけん、元気が出るわといよったよ」と言ってくれました。私はただあいさつや少しの会話しかしていないのに、それを喜んでくれている人がいると知りました。

確かによく考えてみると特に一人暮らしの方は話す相手も家にいないから人と話すの事は楽しいことなのではないかと思います。そうなると、私たちにできることはもっと高齢者の方々とお話して、困った時に助け合える関係になるという事だと思います。普段の暮らしを幸せにするという事は自分だけ幸せでもそれは言えないと思います。私にとって幸せは周りの人も自分も幸せなことです。だからまず周りの人、特に高齢者の方が幸せと思えるように努力していきたいなと思います。

「人との出会いに感謝」

大生院中学校　２年　　瀧本　蛍

私のお母さんは、介護士です。私は、小学校低学年の頃はよく、お母さんの仕事場に一緒に連れて行ってもらって、簡単なお手伝いをしていました。

私が何歳の頃だったかは覚えていないけれど、お母さんの仕事場日あったピアノを弾いたことがあります。どんな曲を弾いたのかは覚えていません。だけど、あるおばあちゃんに、「とっても上手だったよ」と言ってもらったことは、ずっと覚えています。また、その時に、その日にあったイベントでおばあちゃんがもらったメダルを私にくれたことも、ずっと忘れていません。あの時の自分の気持ちは、ずっと忘れないです。だけど、あの時の私は、あのおばあちゃんに、「ありがとうございます」と言っていないと思います。その事をずっと後悔しています。もしあの時に戻れるなら、どんな顔でどんな声だったのかも忘れてしまったけど、あの名前も知らない優しいおばあちゃんにもう一度会いたいです。そして、「ありがとうございました」とちゃんと言いたいです。でも、実際には、こんなことはできません。だから、これから同じ事で後悔しないように、自分の気持ちは思った時に伝えるようにしたいです。

私は、人とコミュニケーションをとることが苦手です。初めて話す人だったり、みんなの前に立って話す時は緊張してうまく話せないことが多いです。だけど後悔しないために「ごめんね」と「ありがとう」は伝えるようにしています。この出会いが最後になるかもしれないと思って、恥ずかしがらずに感謝の気持ちを伝えられる人になりたいです。

「平等な幸せ」

大生院中学校　２年　　野口　夏鈴

医療と福祉は紙一重と、母から聞いたことがあります。私の母は看護師をしています。母から看護師のすばらしさを聞き、私は看護師にあこがれるようになりました。話を聞くうちに、医療と福祉は深くかかわりあっていると思いました。

医療と福祉の関係について調べてみると、例えば、目を患っている人に対して、目を治し景色を見せるのが医療、その人の目となって、景色を伝えるのが福祉という例えがありました。とても分かりやすく感じました。福祉とは、幸せを追求するにあたり、不可欠であるものだと考えました。医療については、自分が病気になった時は、母から聞いたりしていて知っていますが、福祉が私たちの生活にどうかかわっているのかを、もっと詳しく考えることにしました。

福祉と言われて一番に思いつくのは、高齢者のお世話をすることです。介護施設で介護士の人たちが働いているのを見たことがあります。ですが普段かかわることがあまりないので、高齢者福祉について調べてみることにしました。

介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）で働いている人は、介護職員や看護師、生活相談員など、たくさんの職種の人が働いています。主に介護や健康管理など、生活のサポートを行っています。

また、高齢者福祉には、訪問診療や、訪問看護などの医療的なケアもあります。高齢化が進み、認知症高齢者や、ひとり暮らし高齢者が増加する中で、介護を必要とする高齢者ができる限り住み慣れた地域で自分の力で生活が送れるように、たくさんの人がサポートしています。

さまざまな職種の大人たちがサポートをしている中で、まだ学生で非力な私たちには何ができるのでしょうか。公的な福祉には限界があり、すべての人に完全なる福祉が行き届いているかというと、そうではないのが現状です。全国すみずみまで盲目の方が安心して歩ける道があったり、すべての説明書に点字があるわけでもありません。障がいがある方が困った時に助けを求めやすい環境づくりや困っているのかなと周囲の人が気がねなく声をかけやすい環境づくりが大切だと思います。難しいことではなくても、身近な人とのやり取りが福祉活動の一環になると考えます。

福祉にはたくさんの人の思いやりと優しさがあるからこそ、成り立つものだと思います。一人ひとりが思いやりと優しさを持てば、自然と助けを必要としている人への福祉活動ができると思います。たとえ、非力な子供だとしても、その人のためを思うと、助けを必要としている人へ声をかけたり、できる限りのことをしようと考え、寄り添うことはできます。福祉とは、援助する側、援助を受ける側、双方が幸せを感じられる関係性であることが重要だと思います。

身のまわりにあふれている福祉について知り、いざというときに思いやりと優しさをもって行動できる人になります。

「認知症について」

大生院中学校　２年　　藤田　美優

「認知症」という病気を知っていますか。この病気は、さまざまな原因で記憶や思考などの認知機能が低下し、日常生活や社会生活に支障をきたすことです。私は、この認知症という病気について、介護福祉である祖母に話を聞くことにしました。

認知症は、脳の萎縮により物忘れが多くなったり、ひどい場合は家族の顔や名前も忘れてしまうこともあるそうです。認知症とは、とてもつらい病気だという事が分かりました。認知症の人は、自分が何もわからなくなっていくのが分かるので、とても心細く不安だそうです。たとえると、ひとりで真っ暗なトンネルの中に入っていくのと同じらしいです。それを聞いて、私は認知症の人は、とても不安だということが分かりました。なので、家族が、しっかり支えてあげることが大切なんだなと思いました。ですが、認知症の人は夜に１人で出歩いて、帰り道が分からなくなったりして、介護するのがとても大変だそうです。

最近、「老老介護」という問題も多いそうです。老老介護とは、高齢者の介護を高齢者が行う事です。ニュースでも６５歳以上の高齢者が認知症の高齢者の介護をしていましたが、介護に疲れたのか、認知症の高齢者を海に突き落としていしまったという事件があったそうです。このことを知り、とても驚きました。このような問題が増えていることも知りませんでした。とても悲しくなりました。認知症の人の介護をすることは、とても大変なので介護をしている家族の方を地域の人や周りの人で、支えてあげることも大切なんだなと思いました。今では、「ショートステイ」という、高齢者を一時的に施設に預けることができる介護サービスもあります。こういった、介護の手伝いをしてくれる施設がこれからも増えていくといいなと思います。

私は、おばあちゃんの話を聞いて、認知症という病気は、とても怖いもので認知症の人は、だんだん何もわからなくなっていってしまうけど、悲しみ、怒り、苦しみなどの感情は生きているので、何があっても優しく接してあげたいと思いました。また、介護というのは、とても大変だという事も分かりました。なので、介護をしている人ができるだけ楽な介護ができるような社会になればいいなと思います。また、「老老介護」の問題もなくなって欲しいです。

「福祉とは何だろう」

角野中学校　２年　　鈴木　一穂

初めに皆さんは「福祉」と聞いて何を想像しますか。「そんな事言われてもピンとこない」「分からない」と思う人もいるかもしれませんし、障がい者や高齢者の方々のことを想像する人もいるかもしれません。僕が今から書いていくのは、そのような「福祉」についてです。

僕はこの夏休みの間に、２日間の日程で「福祉のワークキャンプ」に参加しました。福祉のワークキャンプとは、高齢者や障がい者の生活、福祉に携わる仕事について体験できる活動のことです。具体的には、障がい者や高齢者との上手なコミュニケーシ

ョンの取り方の講習会や、福祉についてのトークセッション、福祉機器や介護ロボットの体験などのイベントがありました。僕はこのワークキャンプで、障がい者や高齢者についてとても詳しく学ぶことができたと思います。

このイベントに参加して、僕は「福祉」について何も知らなかったんだと実感しました。そして、「福祉や福祉に携わる仕事についてもっと知りたい」と思うようになりました。

僕がこのワークキャンプの中で特に心に残ったのは、福祉機器や介護ロボット体験活動です。僕が想像していたのよりも沢山の種類の機器やロボットがありました。また、その機器は実際に触れることもできました。そして、実際に体験したその時、僕は「高齢者や障がい者の方々のために様々な工夫や試みがなされている」という事に気が付くことができました。これまで自分の身近なところに体の不自由な人や、介護が必要な人がおらず、あまり深く考えたことがありませんでしたが、どんな人でも過ごしやすい社会になるよう、様々な人が試行錯誤しているんだと気付くことができました。

僕はワークキャンプに参加して、誰もが暮らしやすい社会をつくることの大切さを実感しました。これからの生活では、どうすればそのような社会になるのかを考えながら暮らしていきたいです。

「おばあちゃんはすごい」

角野中学校　３年　　吉岡　燦

ぼくのおばあちゃんはすごいと思います。ひいばあちゃんを介護しながら、おじいちゃんの入院している病院に通っていたそうです。

ぼくは、その時はまだ産まれてないけど大変だったという話を聞きます。ひいばあちゃんがなくなった後も、左半分がマヒしているおじいちゃんのお世話を文句を言われながらもやっている姿をみていたら、大変さが分かり、ぼくも手伝えることはやっていました。

しかし、おばあちゃんに比べると自分ができることは少ししかなく、それでもぼくが手伝うと必ず「ありがとう。」と言ってくれました。おばあちゃん自身も体の調子が悪い時も、おじいちゃんを最後の最後まで家で介護していたのをみると、ぼくには同じことはできるだろうか。おばあちゃんみたいに自分より他を優先できるだろうかと考えてしまいます。

朝昼晩とご飯を用意し、食べさせたり、オムツ交換、病院と常におじいちゃんの事ばかりしていました。おじいちゃんとケンカしても、おじいちゃんの好きな物を買って食べさせたりとなんだかんだ言いながらも、いつもおじいちゃんの事ばかりでした。

ぼくは今、おばあちゃんと暮らしています。おばあちゃんは、ひざが悪いので、動作が遅いので、ぼくができる事は率先してやろうと決めておばあちゃんの手伝いをしています。

ぼくができる事は、おばあちゃんがしてきた事より全然だけど、少しでも役に立ちたい、そのために何ができるのか、考えて行動したいです。おばあちゃんにだけでな

く、お父さん、お母さんにもぼくができる事をやっていきたいです。感謝されずとも必死でおじいちゃんの介護をしてきたおばあちゃんをぼくはほこりに思います。おばあちゃんだからこそできたことだと思います。ぼくも誰かのために手を差しのべれる人になりたいです。

「人と人とを繋ぐパラスポーツ」

角野中学校　３年　　吉田　小夏

私は、総合の授業で車いすバスケを体験しました。パラスポーツの理解を、実際に体験することで深めたいと思ったからです。

ボールを操りながら動かすのだから、簡単だろうと思っていた車いすの操作は、思っていたよりもずっと難しいものでした。思い通りにいかなくて、さらにドリブルを加えるなんて車いすバスケをする人は器用だなと思ったのを覚えています。他にも、私たちの知っているバスケットボールとは違ったルールであったり、競技用の車いすにされている工夫だったり、本当にたくさんのことを学べました。

このような体験をして、私はパラスポーツに大きな可能性を感じました。普通のスポーツとは違って、パラスポーツは、障がいがある人も、ない人もできるため、楽しむことができる人の範囲が広がります。また、一緒にパラスポーツをするなかで、互いの個性を尊重し合うこともできます。パラスポーツの「パラ」には、ギリシャ語の「並んで立つ」「対等」という意味があります。その名の通り、だれもが平等に楽しめるルールや、工夫が施されています。そのことに気づいた時、とても心が温まりました。

パラスポーツの魅力は「観る」ことからも感じられます。パラスポーツ選手のプレーの裏側には計り知れない努力が隠れています。また、障がいを身近に感じ、もっと知りたいと思うきっかけにもなると思います。

私は、車いすバスケを体験して、パラスポーツは、人と人をつなげる役割があるんだなと実感しました。私がパラスポーツを体験したいと思ったように、たくさんの人が、見たい、知りたい、調べたいと思ってくれたらいいなと思います。貴重な体験をしたからには、次は伝える側となって、パラスポーツのよさを伝えていきたいと思います。車いすバスケだけでなく。他のパラスポーツも調べたり、体験したりして、自分の世界を広げていきたいと思います。

「当たり前に感謝」

角野中学校　３年　　渡邉　ねね

みなさんは、今生活できていることを当たり前と思っていませんか？

私達の学校では、総合的な学習の時間で福祉について勉強しています。福祉というと介護、ボランティア、車いすなどたくさんのことが思い浮かびます。私はあまり福

祉のようなことを考えることが苦手で、福祉とは何なのかあまり分かっていませんでした。そんな時に学校の授業で福祉について学ぶ機会ができ、私達のクラスでは子育てについて考えることになりました。私達の班は実際に、現在子育てをしている方にリモートで話を聞きました。

こうやって学習していくうちに、今まで私が普通に生活できているのも誰かが支えてくれているおかげだと実感することができました。例えば、授業で調べた遊具は当たり前にあるものではなく、たくさんの人が作ってくれたおかげで私達が遊べることができています。そう考えると身の回りの施設やゴミ拾いまでボランティアの人などがやってくれていることに感謝せず当たり前と思っていたことが恥ずかしくなりました。この社会は助け合いや思いやりでできていることを知り自分にもできることをやっていきたいと思いました。具体的には、ボランティア活動や障がいを持っている人のことをしっかり理解すること、人にあいさつをするなどたくさんあります。私達がこのようなことをするだけでたくさんの人が気持ちよく生活することができると思います。最初は福祉のことについて考えることなんて面倒くさいと思っていたけど、このように学校の授業をきっかけに支えてくれている人やものに気付き、福祉について真剣に考えることができるようになって本当に良かったです。私だけではなく、少しでも多くの人に支えてくれている人やものの大切さを知ってもらいたいです。少しでも多くの人がそれぞれのできることをやって世界中の人々を笑顔に、幸せにしていきたいです。